

国際環境工学部 環境生命工学科 (19 ~) (2020年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
<ul style="list-style-type: none"> ■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■人文・社会 	経済入門I ECN100F 中岡 深雪	1学期	1	2	1
	心と体の健康学 HSS100F 高西 敏正 他	1学期	1	1	2
	キャリア・プランニング CAR101F 見館 好隆	2学期	1	1	3
	考え方の基礎 PHR100F 村江 史年 他	2学期	1	2	4
	経済入門II ECN101F 中岡 深雪	2学期	1	2	5
	現代人のこころ PSY100F 村上 太郎	2学期	1	2	6
	キャリア・デザイン CAR100F 真鍋 和博	1学期	1	2	7
	地域のにぎわいづくり RDE100F 南 博	2学期	1	2	8
	倫理入門 PHR200F 田中 康司	2学期	2	2	9
	日本語の表現技術 LIN200F 池田 隆介	1学期/2学期	2	2	10
	経営入門 BUS200F 辻井 洋行	1学期	2	2	11
	アジア経済 IRL200F 中岡 深雪	2学期	2	2	12
	ことばとジェンダー GEN200F 水本 光美	2学期	2	2	13
	社会学習インターンシップ CAR200F 村江 史年 他	2学期	2	2	14
	技術者のための倫理 CAR300F 辻井 洋行	1学期	3	2	15

国際環境工学部 環境生命工学科 (19~) (2020年度入学生)

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■人文・社会	国際経済研究 ECN300F 中岡 深雪 他	1学期	3	2	16
	知的所有権 GEN301F 井上 正 他	1学期	3	2	17
	スタートアップ研究 BUS300F 村江 史年 他	1学期	3	2	18
	企業研究 BUS301F 辻井 洋行	2学期	3	2	19
	人文社会ゼミ GEN300F 中岡 深雪 他	2学期	3	2	20
	環境問題特別講義 ENV100F 村江 史年 他	1学期	1	2	21
■環境	環境問題事例研究 ENV102F 村江 史年 他	2学期	1	2	22
	環境学入門 ENV101F 寺嶋 光春	1学期	1	2	23
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	24
	地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	25
	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	26
	環境都市論 ENV200F 松本 亨	1学期	2	2	27
	英語 I ENG121F 筒井 英一郎 他	1学期	1	1	28
■外国語教育科目 ■英語教育科目	英語 II ENG131F 植田 正暢 他	1学期	1	1	29
	実践英語 ENG110F 木山 直毅 他	1学期/2学期	1	1	30

国際環境工学部 環境生命工学科 (19 ~) (2020年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■英語教育科目	実践英語 (再履修) ENG110F 木山 直毅 他	1学期/2学期	1	1	31	
	英語 III ENG122F 木山 直毅 他	2学期	1	1	32	
	英語 IV ENG132F プライア ロジャー 他	2学期	1	1	33	
	英語 V ENG220F 柏木 哲也 他	1学期	2	1	34	
	英語 VI ENG230F クレシーニ アン 他	1学期	2	1	35	
	英語 VII ENG240F 柏木 哲也	2学期	2	1	36	
	英語 VII ENG240F 植田 正暢	2学期	2	1	37	
	英語 VII ENG240F 筒井 英一郎	2学期	2	1	38	
	英語 VII ENG240F 木山 直毅	2学期	2	1	39	
	英語 VII ENG240F クレシーニ アン	2学期	2	1	40	
	英語 VII ENG240F プライア ロジャー	2学期	2	1	41	
	英語 VII ENG240F クレシーニ リズ	2学期	2	1	42	
	英語 VII ENG240F 國崎 倫	2学期	2	1	43	
	■専門教育科目 ■工学基礎科目	環境物理学 ENV110M 伊藤 洋	2学期	1	2	44
		電気工学基礎 EIC100M 岡田 伸廣	2学期	1	2	45

国際環境工学部 環境生命工学科 (19~) (2020年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■工学基礎科目	力学基礎 PHY190M 水井 雅彦	2学期	1	2	46	
	環境情報学概論 INF100M 情報システム工学科全教員(○学科長)	2学期	1	2		47
	認知心理学 PSY240M 中溝 幸夫	2学期	1	2	48	
	一般物理学・演習 PHY103M 藤山 淳史	1学期	1	3		49
	生物学 BIO100M 原口 昭	1学期	1	2	50	
	微分・積分 MTH106M 野上 敦嗣 他	1学期	1	2		51
	線形代数 MTH115M 野上 敦嗣	1学期	1	2	52	
	環境生命入門実習 CHM180M 環境生命工学科(兼任含む。) 教員	1学期	1	2		53
	基礎無機化学 CHM130M 磯田 隆聡	2学期	1	2	54	
	基礎有機化学 CHM110M 櫻井 和朗	2学期	1	2		55
	生態学 BIO101M 原口 昭	2学期	1	2	56	
	基礎生物化学 BIO120M 中澤 浩二	2学期	1	2		57
	応用数学 MTH134M 望月 慎一	2学期	1	2	58	
	工学実験基礎 PHY181M 加藤 尊秋 他	2学期	1	2		59
	■専門科目	高分子化学 CHM340M 秋葉 勇	1学期	3	2	

国際環境工学部 環境生命工学科 (19 ~) (2020年度入学生)

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	環境分析化学 CHM341M 安井 英斉 他	1学期	3	2	61
	大気浄化工学 ENV332M 藍川 昌秀	2学期	3	2	62
	反応工学 CHM361M 西浜 章平	1学期	3	2	63
	地圏環境学 ENV201M 伊藤 洋	1学期	2	2	64
	水質変換工学 ENV202M 寺嶋 光春	2学期	2	2	65
	資源循環論 ENV331M 大矢 仁史	1学期	3	2	66
	基礎物理化学 CHM210M 柳川 勝紀	1学期	2	2	67
	微生物学 BIO210M 森田 洋	1学期	2	2	68
	生物化学 BIO220M 河野 智謙	1学期	2	2	69
	基礎統計学 INF240M 加藤 尊秋 他	1学期	2	2	70
	情報処理学 INF210M 鄭 俊如	1学期	2	2	71
	有機化学・物理化学実験 CHM280M 磯田 隆聡 他	1学期	2	4	72
	基礎化学工学 CHM260M 上江洲 一也	2学期	2	2	73
	化学熱力学 CHM213M 柳川 勝紀	2学期	2	2	74
	分子生物学 BIO221M 木原 隆典	2学期	2	2	75

国際環境工学部 環境生命工学科 (19 ~) (2020年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目	生命科学分析 BIO200M 河野 智謙 他	2学期	2	2	76
	数理解析学 MTH250M 加藤 尊秋 他	2学期	2	2	77
	環境マネジメント概論 ENV220M 松本 亨 他	2学期	2	2	78
	生物工学実験 BIO280M 森田 洋 他	2学期	2	4	79
	物理化学 CHM310M 上江洲 一也	1学期	3	2	80
	有機化学 CHM320M 望月 慎一	1学期	3	2	81
	無機化学 CHM330M 磯田 隆聡	1学期	3	2	82
	生物工学 BIO330M 中澤 浩二	1学期	3	2	83
	生態工学 BIO320M 原口 昭	1学期	3	2	84
	環境経済学 ENV350M 加藤 尊秋	1学期	3	2	85
	環境マネジメント学 ENV320M 松本 亨 他	1学期	3	2	86
	バイオインフォマティクス BIO331M 河野 智謙 他	1学期	3	2	87
	環境保全学 ENV330M 門上 希和夫 他	1学期	3	2	88
	環境分析実習 CHM380M 原口 昭 他	1学期	3	4	89
	生命有機化学 CHM323M 櫻井 和朗 他	2学期	3	2	90

国際環境工学部 環境生命工学科 (19~) (2020年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目	化学工学 CHM360M 上江洲 一也	2学期	3	2	91
	細胞生物学 BIO310M 河野 智謙	2学期	3	2	
	食品工学 BIO332M 森田 洋	2学期	3	2	93
	遺伝子工学 BIO322M 木原 隆典	2学期	3	2	
	ライフサイクルアセスメント ENV321M 松本 亨	2学期	3	2	95
	環境シミュレーション ENV310M 野上 敦嗣	2学期	3	2	
	エネルギーマネジメント ENV322M 藤山 淳史	2学期	3	2	97
	環境生命工学実習 BIO380M 環境生命工学科(兼任含む。) 教員	2学期	3	4	
■卒業研究 卒業研究 STH410M 環境生命工学科(兼任含む。) 全教員(○学科長)	通年	4	8		
■留学生特別科目 ■基盤・教養教育科目(人文・社会)	日本事情 JPS100F 池田 隆介	1学期	1	1	99
	College English I ENG201F クレシーニ アン	1学期	2	1	
■基盤・外国語教育科目読替 ■英語教育科目	College English II ENG202F クレシーニ アン	2学期	2	1	101
	■日本語教育科目 総合日本語 A JSL100F 池田 隆介	1学期	1	2	
■日本語教育科目	総合日本語 B JSL110F 池田 隆介	2学期	1	2	103
	技術日本語基礎 JSL240F 池田 隆介	1学期	2	1	

国際環境工学部 環境生命工学科 (19 ~) (2020年度入学生)

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■留学生特別科目 ■基盤・外国語教育科目読替 ■日本語教育科目	ビジネス日本語 JSL330F 水本 光美	2学期	3	1	105
■補習	補習数学 大貝 三郎, 藤原 富美代, 中山 嘉憲	1学期	1		106
	補習化学 溝部 秀樹	1学期	1		107
	補習英語 外部講師 (○木山 直毅)	2学期	1		108

経済入門I

(Introduction to Economics I)

担当者名 /Instructor 岡岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN100F	◎	○	○		
科目名	経済入門 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では下記のテキストを使用し、ミクロ経済学の基礎的な内容を学習する。普段私たちがとっている消費行動（需要）、企業の生産行動（供給）、そして需要と供給の出会う「市場」の理論を学習する。経済学を学ぶことで、身の回り、または現代の日本や世界で起こっている様々な経済現象に関心を持ってほしい。授業では適宜時事問題も扱い、経済問題に対する理解も深める。

(到達目標)

DP知識：社会科学を学ぶ際に必要な基礎知識が身につく。

DP技能：人間の行動を数式によって表現することができる。

DP思考・判断・表現力：自身を取り巻く環境について熟考し、適応する能力が身につく。

教科書 /Textbooks

前田純一著『改訂版経済分析入門I - ミクロ経済学への誘い -』晃洋書房、2011年、2,600+税円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤田康範『ビギナーズミクロ経済学』ミネルヴァ書房、2009年

○三橋規宏・内田茂男・池田吉紀著『ゼミナール日本経済入門 改訂版』日本経済新聞出版社、最新版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション
- 2 第1章 消費行動の分析 (1) 一無差別曲線によるアプローチ (予算制約)
- 3 第1章 消費行動の分析 (1) 一無差別曲線によるアプローチ (無差別曲線)
- 4 第1章 消費行動の分析 (1) 一無差別曲線によるアプローチ (最適消費点と需要曲線)
- 5 時事問題
- 6 第2章 消費行動の分析 (2) 一効用関数によるアプローチ (限界効用)
- 7 第2章 消費行動の分析 (2) 一効用関数によるアプローチ (限界代替率)
- 8 第2章 消費行動の分析 (2) 一効用関数によるアプローチ (需要の弾力性)
- 9 第3章 生産行動の分析 (1) 一費用分析によるアプローチ (費用曲線)
- 10 第3章 生産行動の分析 (1) 一費用分析によるアプローチ (損益分岐点、企業閉鎖点)
- 11 第4章 生産行動の分析 (2) 一生産関数によるアプローチ
- 12 第5章 完全競争市場の分析 (完全競争市場)
- 13 第5章 完全競争市場の分析 (価格、数量による調整)
- 14 第6章 資源配分の効率性
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 60%

課題実施状況や授業への積極性40%

経済入門I

(Introduction to Economics I)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にはテキストを読んで予習し、不明点をあらかじめ明らかにしておくこと（アンダーラインをひくなどして、具体的に示しておくこと）。授業終了後は学習内容の復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

普段より経済に関する新聞記事やニュースに関心を払ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度に応じて授業の進度を調節することがあります。経済学の勉強を通じて世の中に対する関心を高め、社会に出た時にもものおしせず、自分の意見を発言できるようになりましょう。またニュースや記事などから経済事情を読み解き、判断することは理系出身の学生にも求められることです。授業で扱うテーマ以外にも経済に関することなら質問を歓迎します。図書館に収蔵されている関連書籍等積極的に触れるようにしましょう。一緒に経済を勉強していきましょう、世界が広がるはずですよ。

関連するSDGs：8働きがいも経済成長も、9産業と技術革新の基盤を作ろう、10人や国の不平等をなくそう、16平和と公正をすべての人に

キーワード /Keywords

経済 需要 供給 市場 価格 日本経済

心と体の健康学

(Psychological and Physical Health)

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科, 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
乙木 幸道 / Kodo OTOKI / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS100F		○		○	◎
科目名	心と体の健康学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

将来にわたって心と体の健康を自ら維持・向上させていくための理論や方法を体系的に学ぶことが、この科目の目的である。
生涯続けられるスポーツスキルを身につけ、心理的な状態を自ら管理する方法を知ること、こころやからだのバランスを崩しがちな日々の生活を自分でマネジメントできるようになることを目指す。
なお、コロナウイルスにより、教室や体育館での「密」を防ぐために、3つのグループに分けて実施する。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回メンタルマネジメント① (コミュニケーション)
- 3 回コミュニケーションゲーム① (カラダを使って)
- 4 回課題授業①
- 5 回メンタルマネジメント② (行動が心を変える)
- 6 回エクササイズ① (オリエンテーリング)
- 7 回課題授業②
- 8 回メンタルマネジメント③ (ストレス対処法)
- 9 回エクササイズ② (屋内集団スポーツ：体育館)
- 10 回課題授業③
- 11 回メンタルマネジメント④ (リラクゼーション)
- 12 回エクササイズ④ (屋内個人スポーツ：体育館)
- 13 回課題授業④
- 14 回ポデイママネジメント
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み態度 60% レポート 20% 試験 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

心と体の健康学

(Psychological and Physical Health)

履修上の注意 /Remarks

[コミュニケーションゲーム] [エクササイズ] は身体活動を伴うので、運動できる服装ならびに靴を準備すること。
[メンタルマネジメント] [ボディマネジメント] はワークを中心とした授業を行いますので筆記用具を持参すること。
[課題授業] は家など学外で行える運動プログラムを供与し、各自で実践する。
授業への積極的な参加を重視します。
コロナウイルスにより、教室や体育館での「密」を防ぐために、3つのグループに分けて実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目を通して、「やりたいこと」「やるべきこと」「できること」を整理し、いかに目標を明確にするかを学び、自分自身の生活にも役立てほしい。さらに、身体活動の実践を通して、スキル獲得のみならず仲間作りやノンバーバルコミュニケーション能力獲得にも役立ててほしい。

キーワード /Keywords

キャリア・プランニング

(Career Planning)

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR101F	○		◎		○

科目名	キャリア・プランニング
-----	-------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

<目的>

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会(2018年11月)の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」……。具体的には大学生の本分である学びの深掘、つまり、自分が興味を持つことと時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればいい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・入職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアチェンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

<進め方>

まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト(ロールモデル)との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント(ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど)の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

<目標>

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。そして、アイデンティティ(自分らしさの探求)やコミュニケーション能力、課題解決力などを身に付け、社会が必要とする創造力を発揮できる基礎を身につけること。
(到達目標)【知識】キャリア設計に必要な知識を身に付ける。【思考・判断・表現力】キャリア設計を必要に応じて再編することができる。
【自立的行動力】キャリア設計において、必要な相談を他者と交わしつつ、自ら再編していくことができる。

教科書 /Textbooks

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会(税込1,980円)

キャリア・プランニング

(Career Planning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
 - 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
 - 大久保幸夫『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
 - 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
 - モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
 - エドガー H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
 - 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
 - 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
 - 香取一昭・大川 恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
 - 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
 - J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
 - スブツニ子!『はみだすか』宝島社
 - アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
 - リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
 - リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
 - 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
 - 中原淳、見館好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 課題解決の仕方(デザイン思考)
- 4回 企業団体研究のノウハウ
- 5回 コミュニケーション技法①傾聴
- 6回 コミュニケーション技法②アサーション
- 7回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 8回 ロジカルシンキング
- 9回 企画書提出のための相談会
- 10回 Digital transformation
- 11回 新しい仕事を創る(ジョブスタ)
- 12回 課題解決の仕方(院生登壇)
- 13回 計画された偶発性
- 14回 最終プレゼンテーション
- 15回 自らのキャリアをプランする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(予習・復習・学びの実践レポート)・・・84%
最終プレゼンテーション・・・8%
最終レポート・・・8%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> Moodleに予習・復習・実践課題を掲示しますので、締め切りまでに行ってください。
<最終プレゼンテーション> 第1回に提示する課題に対し、第9回までに企画書にまとめ、第14回に最終プレゼンテーションを行っていただきます。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意 /Remarks

見館および、その他講師の計5名で、1年生全員を5クラスに分けて運営します。よって、どのクラスに振り分けられたかをインフォメーションなどで確認して、第1回目の授業に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、1年生からの日々の授業はもちろん、アルバイトやクラブ活動など「毎日の過ごし方・課題への取り組み方」が皆さんの将来に大きく左右するようになります。また、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティアなど、大学生だからこそ取り組むことができる「ハートが震える機会」「先入観を吹っ飛ばす機会」が、将来やりたいことを見出すために重要な要素となります。よって、できるだけ早く「大学生活を豊かにする過ごし方」と「自分探しの楽しみ方」を、授業や授業外課題を通して習得できるように設計しました。たくさんの学生の履修をお待ちしております。

※人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、

キャリア・プランニング

(Career Planning)

キーワード /Keywords

課題解決、実務経験のある教員による授業

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

考え方の基礎

(Basic Ways of Thinking)

担当者名 /Instructor 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 / 2 Credits 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Class クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR100F		○	◎	○	
科目名	考え方の基礎		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

この講義の狙いは、大学生に求められる「考え方」とはどのようなものかを受講生の皆様に身につけてもらうことにあります。文部科学省は今後求められる能力の一つに「課題発見・解決力」を挙げています。現代社会が抱える諸課題を解決するためには、①課題の本質を見抜く（読解力）と②解決策を見出す（論理的思考）と③計画を実行する（実行力）が必要とされています。大学生生活を有意義なものとするためには、これらが一連どのような技能によって成り立っているのかを経験的に把握する機会を作ることが有効です。そこで、本講義では、前述の①と②に焦点をあて、前半では、ことばの本質をとらえようとして「論理的に考える」とはどのような行為を指すのかを説明していきます。後半では、講師招聘企画などを含む様々なタスクに取り組み、論理的思考を実践するためのトレーニングを行っていきます。到達目標としては、授業内で取り扱う社会課題について、講義内で習う知識を用い、解決方法について論理的に考え、全体の前で自身の考えをプレゼンテーションすることを目指します。

教科書 /Textbooks

ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 講義内で適宜指示をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ことばの本質：なぜ「考え方」を考えなければならないか？
- 第3回 大学生に求められる学び：問題を発見すること / 問題を提起すること
- 第4回 議論の骨格(1)：論旨と結論を見つけよう！
- 第5回 議論の骨格(2)：情報を整理・要約しよう！
- 第6回 引用・解釈・主張
- 第7回 実践的執筆練習（前半のまとめ）
- 第8回 論理的思考と水平思考について
- 第9回 論理的思考と水平思考を用いて社会課題の解決方法を考える
- 第10回 外部講師による講演「被災地が抱える社会課題」
- 第11回 外部講師による講演「第一次産業が抱える課題」
- 第12回 課題学習① 課題解決に向けたアイデア出し
- 第13回 課題学習② 最終発表会に向けたプレゼン資料作り
- 第14回 課題学習③ 最終発表会に向けたプレゼン資料作り
- 第15回 最終発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題（宿題、小テスト含む） 25%
- 中間レポート 20%
- プレゼンテーション 35%
- 積極的授業参加等 20%

考え方の基礎

(Basic Ways of Thinking)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習の状況を確認するための小テストを数回実施します。事前にMoodleで告知しますので必ず確認し、準備をしておいてください。また、後半(8回目以降)の講義では、最終発表会に向けて授業時間以外に準備をすることがあります。

履修上の注意 /Remarks

授業内容、課題締切などの予定はMoodle上に掲載されています。また、課題提出をMoodleを通じて行ってもらうこともあります。Moodleは頻繁に確認しておいてください。授業中にスマートフォン等の携帯端末を使った簡単な質疑応答をすることがあります。利用可能な携帯端末を持っていない人には別の手段で対応できるように準備をしますので申告してください。また、学習した内容を毎回自分のノートにまとめるようにしておいてください。宿題、レポートなどの課題に対応する際に、ノートが必要となることがあります。また、原則的に、出席率80%未満の場合は不合格となりますのでご注意ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、「考え方」を考えるトレーニングをしていきます。少しずつ自分の言葉で表現できるようにしましょう。

キーワード /Keywords

記号、引用、ノートテイキング、スキーマ、論理的思考、水平思考

経済入門II

(Introduction to Economics II)

担当者名 /Instructor 岡岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN101F	◎		○		△

科目名	経済入門II
-----	--------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本科目では現代社会における経済事象について理解を深める。私たちが生活している現代はどういった経済状況にあるのか。またどのような問題が発生しているのだろうか。社会問題から身近な経済事情まで幅広く扱い、経済に関する知識を獲得する。同時に多様な経済事象を題材に背景、因果関係を考える力を養う。まず、これまで日本経済がたどってきた経緯を知ることから始める。そして日本のみならず海外の経済事情についても理解を深める。適宜時事問題も扱い、経済への関心を高める。

(到達目標)

DP知識：各国経済の歴史、現状について説明することができる。

DP技能：経済の変化を数量的に説明することができる。

DP関心・意欲・態度：経済について関心を持ち続け、自身の意見を述べるすることができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三橋 規宏 (著)、内田 茂男 (著)、池田 吉紀 (著) 『ゼミナール日本経済入門』 日本経済新聞出版社
金森 久雄 (編集)、加藤 裕己 (編集)、香西 泰 (編集) 『日本経済読本』 東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション
- 2 戦後日本経済の年表を作成する
- 3 戦後復興期
- 4 高度経済成長期
- 5 経済成長のメカニズム
- 6 時事問題を調べる
- 7 時事問題でレポートを作成する
- 8 安定成長期
- 9 プラザ合意が日本経済にもたらした変化
- 10 バブルの発生と崩壊
- 11 平成不況
- 12 2008年の世界金融危機
- 13 グローバル化の中の日本
- 14 アメリカ経済
- 15 ヨーロッパ経済

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験50%
課題や授業への積極性50%

経済入門II

(Introduction to Economics II)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前は事前に配布するプリントで予習をすること。授業終了後は授業で使用したプリント、課題で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

日常より新聞を読む、ニュースを見るなどして経済問題に関心を払ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

気になる経済問題について楽しく学びましょう。

関連するSDGs:4 質の高い教育をみんなに、8 働きがいも経済成長も、9 産業と技術革新の基盤を作ろう

キーワード /Keywords

経済 日本経済 グローバリゼーション アメリカ

現代人のこころ

(Introduction to Mind)

担当者名 /Instructor 村上 太郎 / Taro MURAKAMI / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY100F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

心理学という学問領域では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚・学習・記憶・発達・感情・社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピックとして取り上げ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 こころの科学1【感覚・知覚】
- 第3回 こころの科学2【学習理論】
- 第4回 こころと行動1【認知・注意】
- 第5回 こころと行動2【記憶・忘却】
- 第6回 こころと社会1【集団・同調】
- 第7回 こころと社会2【社会的推論】
- 第8回 コミュニケーション1【コミュニケーションとは】
- 第9回 コミュニケーション2【言語的コミュニケーション】
- 第10回 コミュニケーション3【非言語的コミュニケーション】
- 第11回 コミュニケーション4【コミュニケーション能力とは】
- 第12回 こころと他者【共同注意・心の理論】
- 第13回 こころの発達【思春期・青年期におけるアイデンティティ】
- 第14回 こころの働き1【ストレス】
- 第15回 こころの働き2【心の健康】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・80%
日常の授業への取り組み(小レポート)・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスの授業計画・内容に記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

現代人のこころ

(Introduction to Mind)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床発達心理士の資格を有する教員が、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造を心理学的な理論と知見から解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

キャリア・デザイン

(Career Planning)

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice この科目は北方・ひびきの連携科目です。北方キャンパスで開講されます。シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

大学生生活を充実させるものにするための授業です。その為に、現在の社会、経済、環境を理解し、未来に向けてどのように変化していくのかを考えていきます。そして、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の2点をねらいとしています。

- ① 社会、経済、環境の現状と未来について学ぶ
- ② 将来のキャリアに向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく

授業はオンデマンド方式で実施します。「働く」ということを第一線で体験、分析されている外部講師からお話を頂きながら、各自感じたことや学んだことをレポート形式でアウトプットしてもらいます。

(到達目標)

【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】 自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。オンデマンド形式で動画を配信して授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 全体ガイダンス
- ② 学びのアップデート
- ③ 日本の「キャリアデザイン」
- ④ 日本が迎える大きな変化
- ⑤ 情報革命
- ⑥ 日本の働き方と組織の課題～ジェンダー～
- ⑦ 中間振り返り
- ⑧ お金と情報
- ⑨ ビジネスと就活
- ⑩ もう一つのキャリアデザイン
- ⑪ 「働き方」の最新事情
- ⑫ 日本の潮流、世界の潮流
- ⑬ 誰もが持つリーダーシップを知る
- ⑭ キャリアデザイン全体を総括する
- ⑮ 全体振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%
授業内のレポート...20%
まとめのレポート...20%

キャリア・デザイン

(Career Planning)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は学生の皆さん自身のキャリアにかかわるものになりますので、特段正解があるわけではありません。授業の内容を自分なりに咀嚼しながら、授業の内容に加えて読書やWEBサイトを確認するなど、自主的な学習を進めてください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

地域のにぎわいづくり

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)
/Department

※お知らせ/Notice この科目は北方・ひびきの連携科目です。北方キャンパスで開講されます。シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE100F	◎		○		○
科目名	地域のにぎわいづくり		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域のにぎわいづくりに向けた現状と課題を把握・分析し、自らの考えをまとめたり対応方策を考えたりすること等を通じ、地域課題の解決に向けた基礎的な力を得ることを目指す。

2021年度授業においては、主にスポーツ・文化芸術関連のイベントや取り組み、観光振興政策、市民主体のにぎわいづくり等に着目し、にぎわいづくりの実務に関わっておられるゲストの講話等を通じて、にぎわいづくりの意義や課題、今後求められる視点などについて学んでいく。本授業は、行政および地域の各種団体等の協力のもとで実施する。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力身につけている。

【自立的行動力】地域のにぎわいづくりに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域のにぎわいづくり

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性① 【総論】
- 第 3回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性② 【事例研究】
- 第 4回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性③ 【スタジアム・アリーナ整備】
- 第 5回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり
- 第 6回 《スポーツ》国際スポーツ大会の開催効果
- 第 7回 《文化芸術》文化芸術とにぎわいづくりの関係性
- 第 8回 《文化芸術》東アジア文化都市について
- 第 9回 《文化芸術》文化財を活かしたにぎわいづくり
- 第 10回 《文化芸術》MICE、大型イベントによるにぎわいづくり
- 第 11回 《観光等》観光振興によるにぎわいづくり
- 第 12回 《観光等》港湾をいかしたにぎわいづくり
- 第 13回 《市民主体》食を活かしたにぎわいづくり
- 第 14回 《市民主体》企業の視点からみたにぎわいづくり
- 第 15回 まとめ

※ゲスト（にぎわいづくりの実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考： 2020年度のゲストの所属組織の例（2021年度も概ね同様の予定だが、変更・追加の可能性がある）
《北九州市役所（観光課、MICE推進課、クルーズ・交流課、東アジア文化都市推進室）、下関市教育委員会、特定非営利活動法人門司赤煉瓦倶楽部、株式会社ギラヴァンツ北九州》

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す提出課題）： 100%
※課題はMoodleで提出することを基本とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し現実に即した視点や取り組み事例等を学ぶことで、学生の皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識を得ることができる授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域活性化の視点からにぎわいづくりの重要性について論じるとともに、北九州市役所や地域団体等のにぎわいづくり関連事業に取り組んでおられる実務家をゲストとしてお招きし、学生の地域への関心の醸成や理解の深化等を図る。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スポーツをいかしたまちづくり

SDGs 11.まちづくり、SDGs 12.作る・使う責任

実務経験のある教員による授業

倫理入門

(Introduction to Ethics)

担当者名 /Instructor 田中 康司 / Kouji TANAKA / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR200F			◎	○	○
科目名	倫理入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

倫理は、われわれはいかに生きるべきか、という問いと共にある。この問いには、善く生きるべきである、と答えることができる。そうすると当然、善く生きるとはどういうことか、ということが問題となる。倫理はかくして、善くということと生きるということの意味を問わざるをえなくなる。そして生きるとは、人間としての我々が世界の中で生きるということであるから、倫理は、人間とは何か、世界とは何かという問いにさし向けられることとなる。

以上をふまえて、この授業では、人間とはいかなる存在か、人間が生きる世界とはどのような世界か、人間としての我々が善く生きるとはどのようなことか、といった問題を自分で考えることができるようになるための知識・考え方を身につけてもらうことを目標とする。

この目標を達成するために有効な方法の一つが、先人たちの思考を追体験することであると思われる。そこで先人たちの思想を幾つか取り上げ、彼らが上の問いについてどう考えどう答えたのかを見ていく。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 倫理と世界観・人間観の関係について
- 2 プラトン① プラトンの世界観(イデア論)について
- 3 プラトン② プラトンの人間観(魂と肉体についての理論)と認識論について
- 4 プラトン③ プラトンの国家論(哲人王制とその逸脱)と教育論について
- 5 プラトン④ 善とは何か
- 6 デカルト① デカルト哲学の第1原理(我思う、ゆえに我在り)について
- 7 デカルト② デカルトの世界観(物心二元論)について
- 8 デカルト③ デカルトの人間観(心身二元論)について
- 9 デカルト④ 仮の道徳と完全な道徳について
- 10 スピノザ① スピノザの世界観(汎神論)について
- 11 スピノザ② スピノザの人間観(自由と必然)について
- 12 スピノザ③ スピノザの倫理学について
- 13 カント① カントの認識論あるいは理性・悟性・感性について
- 14 カント② カントにおける現象と物自体について
- 15 カント③ 人格と義務あるいは道徳律について 及び、全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 70% 授業への参加態度 30%

倫理入門

(Introduction to Ethics)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、上記の「授業計画・内容」に記載の項目について、その意味や背景を調べておくこと。事後学習として、理解を深めるために必ず復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語の表現技術

(Writing Skills for Formal Japanese)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期/2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)
/Department

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN200F		◎	○	○	
科目名	日本語の表現技術		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、日本語における論理的な文章構成の習得、および、論述文の表現技術の向上を目的とする。とりわけ、フォーマルな場面で用いられる実用文書で使われる日本語の表現技術を身につけておくことは、教養ある社会人には必須の要素である。この授業においては：

- (1) レポートに求められる評価基準を自分自身で推察できるようになること
- (2) 書き言葉として適切な表現・文体を選択すること
- (3) 自作の文章の論理性・一貫性を客観的に判断できるようになること

以上の3つの軸に受講生参加型の講義を展開していく。

到達目標

DP技能：大学生活に必要なアカデミック・ジャパニーズを身につけ、レポート執筆のために適切な表現や文体を選択することができる。
DP思考・判断・表現力：日本語の表現・文体の多様性と機能を学び、レポートに必要な表現技術を自ら判断することができる。
DPコミュニケーション力：書き言葉による情報共有を図ることができる。

教科書 /Textbooks

必須教材は授業中に指示、あるいは、教員が適宜準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の進行に合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション / 環境工学を学ぶ大学生に必要な文章表現能力
2. 言語とコミュニケーション
3. テーマを絞る
4. 効果的な書き出し
5. 文体 / 話し言葉と書き言葉
6. アイディアを搾り出す / ノンストップライティング
7. 事実と意見
8. 段落の概念(1)中心文と支持文
9. 段落の概念(2)文のねじれ
10. 目標規定文を書く
11. レポートの評価ルーブリックを考える：ルーブリックの全体像
12. 出典を記す / SIST02による表記法
13. レポートの評価ルーブリックを考える：本論の評価項目案
14. 待遇表現
15. レポートの評価ルーブリックを考える：本論の評価基準案

※上記の授業項目・順序等は進度に応じて修正を行うことがある。詳細な授業スケジュールはMoodle (<http://moodle.kitakyu-u.ac.jp/>) にて公開するので、授業の前後に必ず確認すること。

日本語の表現技術

(Writing Skills for Formal Japanese)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加10%
コメント10%
宿題15%
小テスト15%
中間課題10%
期末課題40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中の配布物やMoodleにより告知していく。
小テスト準備、授業前の事前課題、授業後の復習コメント作成など、授業外の課題が毎回課されている。

履修上の注意 /Remarks

テストや授業のために必要な準備は、Moodle (<http://moodle.kitakyu-u.ac.jp/>) で連絡する。重要な連絡にはE-Mailも使う。それ故、moodleを閲覧する習慣、及び、メールチェックをする習慣を身につけておくこと。予定の確認作業は受講者の責任である。また、授業は一定の適正人数での活動を想定している。正確な受講者数把握のため、第1回目の授業から出席すること。
毎回の授業に参加するには、指定された事前学習を行ってこよう。事前学習の内容は事前調査、アンケート回答、資料読解など様々な形式をとるが、毎回moodleによって告知するので確認を忘れずに。
また、授業後の作業としては、授業を通じて課された宿題の他、moodleの「授業後のコメント」欄への記入を求める課題がある。「コメント」の記入は原則的に授業翌日が締切となるので注意すること。
授業中に、スマートフォンなどの携帯端末を使った課題を行うことがある。端末を持っていない受講生がいる場合などは、別途対応するので、授業中の指示に従うこと。
遠隔授業 (オンライン授業) となった場合は、授業計画、提出課題の一部を変更することもある。こちらもMoodleを通じた説明を確認してください。
※ 1 : 出席率80%未満の受講生は不合格とする。
※ 2 : 留学生は「技術日本語基礎」に合格していることを履修条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業、進学、就職等、学生生活が終盤に近づくにつれ、フォーマルな表現を駆使しなければならない機会は多くなる。適切な表現をTPOに応じて繰り出すことができるよう、この授業を絶好の修練の場にしてほしい。
関連するSDGs : 4「質の高い教育をみんなに」

キーワード /Keywords

日本語、表現技術、実用文、書き言葉、受講生参加型講義

経営入門

(Introduction to Business Management)

担当者名 /Instructor 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS200F	◎		○		
科目名	経営入門		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代社会において、経済の基礎を担う企業に注目し、その仕組みや行動原理についての基本的な理解を進めます。この授業は、ベンチャー精神を持って最先端の製品・サービスの開発・生産・供給に取り組むエキスパート企業8社の協力を得ながら、「地域企業の魅力とは何か」という問いに取り組みます。授業には、特別講師として、市内8社から経営者を招き、経営することの醍醐味や工夫、また、将来に向けた企業の発展ビジョンについて語り尽くします。受講生は、経営者による講話を踏まえ、企業への滞在取材を通じて、経営者の価値観や将来ビジョンが、実際の企業現場でどのように具現化されているのかを見聞きし、企業の魅力について考える視点を養います。さらに、取材対象企業の魅力を学生目線で広報する資料を作成し、その内容についての口頭発表を行います。

【達成目標】

- (a) 社長との対話を通じて、経営者の考え、事業内容、企業活動に関する問いを立てる。
- (b) 取材活動を通じて、対象とする企業の魅力を発信するため材料を集める。
- (c) 取材成果を元に、対象企業の魅力を発信するための広報ツールを制作・プレゼンする。
- (d) 学習成果を振り返り、学びの意義を整理できる。

教科書 /Textbooks

配布資料による。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布資料による。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 (1日目) 授業への取り組み方、学生-社長トーク準備、企業情報の読み方
- 2 (2日目) 学生-社長トーク(1) 登壇経営者・調整中
- 3 (2日目) 学生-社長トーク(2) 登壇経営者・調整中
- 4 (3日目) 学生-社長トーク(3) 登壇経営者・調整中
- 5 (3日目) 学生-社長トーク(4) 登壇経営者・調整中
- 6 (3日目) 企業滞在取材ガイダンス
- 7 (4日目) 企業滞在取材(1) 始業・朝礼、事業内容説明
- 8 (4日目) 企業滞在取材(2) 工場・ラボ、事務所・社長室など見学
- 9 (4日目) 企業滞在取材(3) 社長・社員インタビュー
- 10 (4日目) 企業滞在取材(4) 資料編集方針
- 11 (4日目) 企業滞在取材(5) 取材振り返り
- 12 (5日目) 発表資料の作成
- 13 (5日目) 発表資料の確認、社長との意見交換
- 14 (6日目) 発表会(前半)
- 15 (6日目) 発表会(後半)、総括

* 日程 2021年8月30日-9月4日 (6日間)

* 登壇経営者 北九州革新的価値創造研究会メンバー経営者から8名予定 <http://www.ksrp.or.jp/katiken/member.html>

経営入門

(Introduction to Business Management)

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) 学生－社長トーク 40% (Q&A 20%、振り返りレポート 20%)
- (b) 企業滞在取材 30% (取材活動 20%、振り返りレポート 10%)
- (c) 学習成果発表 20% (資料作成と口頭発表 15%、Q&A 5%)
- (d) 総合学習レポート 10%

* 遅刻・欠席した場合は、1コマ当たり1/15の成績を総得点から差し引く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (a) ご登壇頂く社長の企業や関連する産業分野について調べ、有効な質問を用意しておく。社長から学生への質問への回答を作成しておく。
- (b) 授業で配布された資料に関して復習し、関連する質問を作成しておく。
- (c) 学習成果発表会の準備のために、時間外での自主活動が必要になる。
- (d) 授業にご協力頂く北九州革新的価値創造研究会について、確認しておくこと。 < <http://www.ksrp.or.jp/katiken/> >

履修上の注意 /Remarks

- (a) 企業滞在取材の受入可能人数の都合により、履修者数制限を行うことがある。大学コンソーシアム関門科目としても指定するため、他大学からの履修者を含めた全履修者数を40名とする。
- (b) 新型コロナウイルス感染の状況により、授業運営の方法や内容が変更になることがある。
- (c) 履修には、学研賠・学研災への加入が必須になる。企業滞在取材には、各自で移動するための交通費（各自支出）が必要になる。
- (d) グループワークでOffice365を使ったファイル編集を行うため、自宅でインターネットに接続したPCを使えることを履修上の必須条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (a) 経営者との直接のやりとり、実際の経営現場への訪問を通じて地域の企業経営に対する理解を深める画期的なプログラムである。この活動を通じて、地域企業の経営者や社員、事業活動に関する魅力を見出し、大学生の視点から発信していくことに強い興味を持てる人に受講して欲しい。
- (b) 市内企業の経営者の方々からご協力を頂いて実施するプログラムなので、礼節と覚悟をもって履修すること。

キーワード /Keywords

経営者、経営哲学・理念、地域企業、ベンチャー精神
SDG8 働きがいも経済成長も

アジア経済

(Asian Economies)

担当者名 /Instructor 岡岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 / 2年次 / 2学期 / 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 / クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL200F	◎	○	○		
科目名	アジア経済		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

東アジアの国々の経済発展、そして貿易と直接投資を通じて各国間の関係が緊密になってきたことについて学習する。例えば貿易に関しては、輸出額では東アジアからの日本を除く輸出額4兆6929億ドルが世界の輸出総額18兆6847億ドルの約4分の1を占めている（2019年）。その39年前の1980年は世界の輸出総額1兆8322億8000万ドルのうち東アジアの輸出額1415億9200万ドルは割合が7%であったことを考えると、この間、世界経済における東アジアの存在感が上昇していることがわかる。そして、2019年の東アジアの輸出の約3割が東アジア域内で行われており、域内各国の経済関係が密接であることもわかる。今後もその傾向は継続すると思われる。

このように日本にとってアジア諸国は単に近くにある国ではなく、経済面でつながりが深い。本講義ではアジア経済発展の過程において、日本を中心とした経済関係の構築、発展の経緯について考察を行うと同時に、各国経済について理解を深める。

(到達目標)

DP知識：日本を含むアジアの国々について説明することができる。

DP技能：経済発展の各国比較を数量的に行うことができる。

DP思考・判断・表現：アジア各国の経済成長の原動力について考察することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』有斐閣アルマ、1997年
- 片山裕・大西裕著『アジアの政治経済・入門』有斐閣ブックス、2006年
- 西澤信善・北原淳編著『東アジア経済の変容』晃洋書房、2009年
- 渡辺利夫編『アジア経済読本』東洋経済新報社、2009年
- 末廣昭著『新興アジア経済論』岩波書店、2014年
- 佐々木信彰編著『転換期中国の企業群像』、晃洋書房、2018年
- 原洋之介著『開発経済論』岩波書店、1996年

アジア経済

(Asian Economies)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イン트로ダクション
- 2 統計を読み解く(1)ー方法と手順ー
- 3 統計を読み解く(2)ー分析ー
- 4 時系列で考える
- 5 横のつながりで考える(1)ー20世紀のアジア地域の貿易構造ー
- 6 横のつながりで考える(2)ー貿易動向の変化ー
- 7 統計を読み解く(3)ー解説と修正ー
- 8 どのようにしてアジア経済の発展が始まったのか
- 9 アジア通貨危機はなぜ起こったのか
- 10 直接投資と生産ネットワーク
- 11 日本の産業空洞化と国際的産業構造調整
- 12 中国経済
- 13 韓国経済
- 14 ベトナム経済
- 15 シンガポール経済

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50%
小テスト、授業中の発言や提出物50%
提出物では特に時系列分析の課題の比重が大きい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前には事前に配布するプリントを用いて予習をすること。授業終了後はプリントや適宜配布する練習問題で復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

常にアジア地域に関するニュースに耳を傾けるようにしましょう。
先に経済入門IIを履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では東アジアの国々を事例に経済成長のメカニズムを考えます。日本経済の歴史やアジア地域との関わりについても勉強し、知識を増やしていきましょう。

関連するSDGs:8 働きがいも経済成長も、9 産業と技術革新の基盤を作ろう、10 人や国の不平等をなくそう

キーワード /Keywords

アジア 日本経済 経済発展 貿易 直接投資 中国 韓国 ベトナム シンガポール

ことばとジェンダー

(Language and Gender)

担当者名 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)
/Department

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GEN200F			○	◎	○
科目名	ことばとジェンダー		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ジェンダーとは、人間が持つ生まれた性別ではなく、社会や文化が培ってきた「社会的・文化的な性のありよう」です。この講義では、ジェンダーに関する基礎知識を身につけるとともに、生活言語、メディア言語などが持つ様々なジェンダー表現を観察、検証することにより、日本社会や日本文化をジェンダーの視点から考察します。この授業では、社会におけるジェンダー表現に関する課題を発見し解決するために、責任ある社会人として倫理的言動をすることができる能力を養成します。

この授業の到達目標は次記の通りです：

1. 思考・判断・表現力：ジェンダーを表現することばを認識し、責任ある社会人としてふさわしい言動がいかなるものかについて慎重に考えることができる。
2. コミュニケーション力：ジェンダーバイアスに支配されない正しい知識と精神力でもって、お互いを尊重しつつコミュニケーションをとることができる。
3. 自立的行動力：ジェンダーを表現することばの存在を認識し、他者との共生のために必要な倫理観を自ら養っていくことができる。

教科書 /Textbooks

最初のオリエンテーションで指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ①オリエンテーション ②ジェンダーとは 1
- 2 ①ジェンダーとは 2 ②「男らしさ、女らしさ」とは：ジェンダーからことばを見る
- 3 作られる「ことば」女ことば
- 4 作られる「ことば」男ことば
- 5 メディアが作るジェンダー：マンガ 1 (構造とジェンダー表現)
- 6 メディアが作るジェンダー：マンガ 2 (ストラテジーとしてのジェンダー表現)
- 7 メディアが作るジェンダー：テレビドラマ 1 (テレビドラマと実社会のことばの隔たり)
- 8 メディアが作るジェンダー：テレビドラマ 2 (テレビドラマの女性文末詞)
- 9 変革する「ことば」：差別表現とガイドライン 1 (差別表現とは何か)
- 10 変革する「ことば」：差別表現とガイドライン 2 (ジェンダーについて語る言説)
- 11 変革する「ことば」：差別表現とガイドライン 3 (表現ガイドライン)
- 12 変革する「ことば」：私の名前・あなたの名前 1 (「家」をあらわす姓・夫婦同姓と家族単位の戸籍)
- 13 変革する「ことば」：私の名前・あなたの名前 2 (婚姻改姓にともなう問題・選択的夫婦別姓)
- 14 変革する「ことば」：セクシュアル・ハラスメント 1 (ことばは認識を変える力をもつ)
- 15 変革する「ことば」：セクシュアル・ハラスメント 2 (セクシュアル・ハラスメントはなくせるか)

* 授業スケジュールは、状況に応じて、適宜、変更される場合もある。

ことばとジェンダー

(Language and Gender)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
宿題・小テスト 30%
ディベート・ディスカッション 20%
期末試験 30%

* 出席率80%未満、および期末試験60%未満は、原則として不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前準備>

毎回、授業内容に関して小テストを実施するため、授業内容を予習してくることが必要である。

<事後学習>

授業内容の理解を確認するために宿題をすることが必要である。

履修上の注意 /Remarks

1. 日本人と留学生の混合小規模クラス。(受講希望者が過剰になった場合、履修制限をする可能性あり)
2. ディスカッションやディベートも実施するため、授業で積極的に発言する意志のある学生の履修が望ましい。
3. 留学生は「技術日本語基礎」か日本語能力試験1級(N1)に合格していること。
4. 受講生は、Moodleに登録する必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちの生活は、数多くのジェンダー表現に囲まれています。それらは、どのような価値観、社会慣習などによるものか分析することによって、無意識に自己の中に形成されている男性観・女性観・差別意識について一緒に考えてみませんか。単に講義を聴くという受身的姿勢から脱して自発的に発言し、事例収集などにも積極的に取り組む態度を期待します。この授業から学んだことは、皆さんが社会人になってからも大いに役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ジェンダーイデオロギー、ジェンダー表現、差別語、性差別表現、ジェンダーをつくることば

社会学習インターンシップ

(Internships)

担当者名 /Instructor 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室, 中岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR200F			○	○	◎
科目名	社会学習インターンシップ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本科目の目的は、履修者の専門性に関わりなく、国内外の民間企業や行政機関、NPO/NGO等が募集するインターンシップ(就業体験)に参加することにより、社会的な見聞を広げ、自身のキャリア設計を充実させることにある。本科目の履修は、春期・夏期休暇期間等に、3日間(8時間/日、合計24時間)以上の就業体験を得たことを前提とする。また、複数のインターンシップ先での経験日数を合算することもできる。それらの就業体験について、報告書を作成し、さらに報告会での口頭発表を行う。

- *1 国際環境工学部の学科専門科目として設置されているインターンシップ関連科目に申請したことのある研修体験の実績を本科目に重複して申請することはできない。また、その逆も同じである。
- *2 履修ガイダンス(4月中実施)へ参加すること。

達成目標

- (a)自分自身でキャリア設計をおこない就業体験先を選び取ることができるようになる。
- (b)インターンシップ体験で得られたことを自身で振り返り言語化して、説明できるようになる。
- (c)他の人とインターンシップ体験を共有し合うことで、より深い学びを得られるようになる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 授業内容のガイダンス、履修条件の説明 [4月 ~]
- 2 インターンシップ説明会への参加
- 3 インターンシップ応募先企業の検索
- 4 インターンシップ応募書類の作成と提出
- 5 インターンシップ先の決定
- 6 事前エチケット研修
- 7 インターンシップ1日目
- 8 インターンシップ2日目
- 9 インターンシップ3日目
- 10 インターンシップ報告会の説明 [10月 ~]
- 11 報告会に向けた資料の作成とプレ報告会
- 12 インターンシップ報告会 [11月] ※ (対面形式もしくはオンライン形式)
- 13 インターンシップ報告書の作成
- 14 インターンシップ報告書の作成
- 15 まとめ

社会学習インターンシップ

(Internships)

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) 10% インターンシップ応募書類
 - (b) 60% インターンシップ報告書
 - (c) 30% 口頭発表とQ&A
- * 1 達成目標(a)-(c)に対応している。
* 2 授業に欠席した場合は、成績を割り引く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研修準備のための情報収集、社会人としてのマナーの修得、研修後の振り返り、報告書作成について、履修者自身が作業する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

4月のガイダンスに出席すること。
※ガイダンスに関しては、コロナ禍の状況を考慮に入れて、4月中旬に新2年生・新3年生を対象に大学のアドレス宛にメールを送る。興味関心のある人は、そのメールを必ず確認すること。そのメールを受けて、興味関心のある学生を対象にオンラインツールを用いてガイダンスを実施する。

インターンシップに参加をした上で履修すること。
授業概要にも記載の通り、本科目は事前（当該年の春期～第2学期開始時 / 例：2021年2月～2021年9月末）にインターンシップに参加をしていることが履修条件となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わたしたちの学び場は、大学キャンパス内に限りません。また、インターネットの記事や動画、雑誌記事などでは、掴み切れない世界が広がっています。実際の就業体験を通じて、世界の動きを掴み取りましょう。

キーワード /Keywords

インターンシップ、社会学習、就業体験
SDG8 働きがいも経済成長も

技術者のための倫理

(Engineering Ethics)

担当者名 /Instructor 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR300F	○		◎		○
科目名	技術者のための倫理		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代ビジネスの製品・サービスの生産・供給は、高度で複雑な技術基盤で成り立っています。技術者として働く人たちは、様々なステイクホルダー（利害関係にある人たち）との間で、価値判断がズレる時には、その調整に追われ、ジレンマに苛まれながら難しい判断を迫られることが少なくありません。この授業では、みなさんが技術者として様々な倫理的な課題に直面した時に、どのように対処していけばよいのか、自分で考え、仲間とも話し合いながら判断し、行動するための方法を身につけます。ただし、工学倫理は、一定のルールに従えば、正解が準備されているという類の学問ではありません。むしろ、様々な正解の可能性を探究すること、また、いくつもの正解から状況に応じて最も適切と思えるものを選び出すものです。そのような判断は、不安を伴うものであり、それを経験することが学ぶ上で大切なこととなります。

達成目標

- (a) 各回の授業内容を振り返り、有効な質問ができる。
- (b) 教科書の該当範囲を読んで、授業の予習が整えられる。
- (c) 授業で事例課題に取り組み、有効な解答を作成できる。
- (d) 工学倫理に関わる基本知識を理解し運用できる。

教科書 /Textbooks

齊藤了文・坂下浩司『はじめての工学倫理(第3版)』（昭和堂）2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村収三・一般社団法人近畿化学協会工学倫理研究会『技術者による実践的工学倫理(第3版)』（化学同人）2013年
- 辻井洋行・水井万里子・堀田源治『技術者倫理-技術者として幸福を得るために考えておくべきこと-』（日刊工業新聞社）2016年

技術者のための倫理

(Engineering Ethics)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------|--|
| 1 オリエンテーション | 映像資料「ソーラーブラインド」(1)、倫理概念について知るべきこと、倫理的意思決定の方法 |
| 2 組織とエンジニア | チャレンジャー号事故、ビジネス倫理について知るべきこと |
| 3 企業の社会的責任 | フォード・ Pinto事件、学協会の倫理規定、タイレノール事件 |
| 4 安全性と設計 | 日本航空ジャンボ機墜落事故、安全について知るべきこと、身の回りの安全設計 |
| 5 製造物責任 | 六本木ヒルズ回転ドア事故、製造物責任について知るべきこと |
| 6 事故調査 | 信楽高原鉄道事故、日米英の事故調査と制度 |
| 7 工程管理 | JCO臨界事故、集団思考の危うさ |
| 8 維持管理 | エキスポランド・ジェットコースター事故 |
| 9 内部告発 | 日本における内部告発、三菱自動車工業リコール隠し事件、公益通報者保護制度 |
| 10 知的財産権 | 青色発光ダイオード裁判、知的財産について知るべきこと、職務発明と発明補償 |
| 11 企業秘密を守る | 転職のモラル 新潟鉄工事件、他社の機密情報に触れる |
| 12 まとめ | 映像資料「ソーラーブラインド」(2)、練習問題 |

【化学・生命】

- 13 技術士における工学倫理 [伊藤]
14 技術者の権利である知的財産(特許)の考え方・特許明細書の構成分析 [安井]
15 生命科学における工学倫理 [木原]

【機械・建築】【情報】

- 13 映像教材「技術者の自律」 [辻井]
14 演習課題(1) 事例検討 [辻井]
15 演習課題(2) 選択問題 [辻井]

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) 15% 振り返りカード
(b) 25% 予習クイズ
(c) 40% 各単元課題
(d) 20% 期末試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (a)履修者は、毎回の授業準備として教科書の該当範囲を読んで授業に備えます。
(b)授業後には、学習内容に関する振り返りを行い、コメント・質問を整理します。

履修上の注意 /Remarks

- (a)教科書は、事前学習や授業中の教材として、また演習の材料として使います。
(b)課題提出のためにMoodleを活用します。
(c)課題提出などの通知には、大学の電子メールを使うので、受信設定を整えておいて下さい。
(d)新型ウイルス感染症の動向により、授業方法が変更になる場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

工学倫理（技術者倫理）を学ぶ理由は、将来、同じような問題に直面した時に備えて、あなた自身に問題への免疫力を付けることにあります。上司や同僚から大きな問題に巻き込まれないように、また、巻き込まれそうになった時にヒラリと身をかかわすための心の準備をするのが、本科目の目的です。このような問題に上手く対応するスキルを身につければ、技術者として活躍する仕事の場を恐れる不安が、いくらか緩和されるでしょう。授業では、教科書を用いた事前学習と授業中の演習を軸として学習を進めて行きます。履修者が十分な準備をすることで、より理解が進むようにして行きます。

キーワード /Keywords

工学倫理、技術者倫理、技術者のための倫理
SDG12 つくる責任つかう責任

国際経済研究

(International Economics)

担当者名 /Instructor 岡岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN300F	◎		○		
科目名	国際経済研究			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

新型コロナウイルス感染拡大により、日本経済はサプライチェーンの寸断、インバウンド観光の激減、デジタルトランスフォーメーションの加速と様々なことを経験した。これらは日本のみならず世界各国がグローバル化を前提とした経済システムに組み込まれているからである。ではグローバル化とは何なのだろうか。一般的には人・物・金が国境を越えて自由に行き来すること、と言われるが、本講義では貿易、企業行動、金融などの各分野に焦点をあてて、より具体的にグローバル化について考察を行う。

到達目標

DP技知識：世界経済、国際経済について大学生として備えるべき知識を獲得することができる。
DP思考・判断・表現力：得た知識より自分なりに考察をし、意見として文章化することができる。

教科書 /Textbooks

○渋谷博史・河崎信樹・田村太一編著『世界経済とグローバル化(グローバル化を読みとく―1)』、学文社、2013年、2090円。
※生協の教科書販売では電子書籍で販売されます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○渋谷博史・樋口均・埴武郎編著「アメリカ経済とグローバル化(グローバル化を読みとく―2)」、学文社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション
- 2 序章 グローバル化とアメリカ・モデルの視点(前半)
- 3 序章 グローバル化とアメリカ・モデルの視点(後半)
- 4 第1章 グローバル化と国際経済システム(前半)
- 5 第1章 グローバル化と国際経済システム(後半)
- 6 第2章 貿易構造の変化(前半)
- 7 第2章 貿易構造の変化(後半)
- 8 第3章 企業のグローバル展開(前半)
- 9 第3章 企業のグローバル展開(後半)
- 10 第4章 グローバル化と国際金融危機(前半)
- 11 第4章 グローバル化と国際金融危機(後半)
- 12 第5章 中国経済とグローバル化(前半)
- 13 第5章 中国経済とグローバル化(後半)
- 14 終章 21世紀型グローバル化と資源制約
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小レポート：50%
期末試験：50%

国際経済研究

(International Economics)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：テキストを読み、重要と思われる箇所をマークする。
事後：授業中にとったノートを見ながらテキストを読み返し、小レポートを作成する。

履修上の注意 /Remarks

経済入門IIかアジア経済を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度に合わせて進行するので、時間に余裕ができればテキストの残りの章も扱う。

関連するSDGs：1 貧困をなくそう、4 質の高い教育をみんなに

キーワード /Keywords

グローバル化、日本経済、アメリカ、中国、貿易、企業、金融

知的所有権

(Intellectual Property)

担当者名 /Instructor 井上 正 / Masashi INOUE / 環境技術研究所, 中村 邦彦 / Kunihiro NAKAMURA / 環境技術研究所
古川 俊彦 / Toshihiko FURUKAWA / 環境技術研究所

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GEN301F	○	◎	○		
科目名	知的所有権		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

人間の知的創作活動の成果について、権利の保護と利用を図ることにより、文化の発展や産業の発達に寄与することこそが知的財産権制度の目的です。本講義は、知的財産権に関する基本的な理解と、実例を基にした基礎的な知識の習得を目標としています。

The purpose of the intellectual property rights system is to promote development of the culture and the industrial development of our country by planning protection and the use of the right about the intellectual property which is result of the human intellectual activity.
The aim of this course is understanding of the laws about the intellectual property and the acquisition of basic knowledge based on an example.

教科書 /Textbooks

初回の講義で指示します。
To be announced in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。
To be announced in class.

知的所有権

(Intellectual Property)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 知的財産とは
 - 2 特許(1)・・・発明の定義と特許制度
 - 3 特許(2)・・・特許要件ほか
 - 4 特許(3)・・・特許を受ける権利と職務発明、特許出願、
 - 5 特許(4)・・・審査と登録、外国出願、実用新案
 - 6 営業秘密、特定分野の知的財産権
 - 7 特許検索(1)(番号検索、キーワード検索)
 - 8 特許検索(2)(特許分類検索)
 - 9 知的財産権の流通、活用とパテントマップ
 - 10 知的財産の技術移転、権利侵害
 - 11 意匠・・・工業デザインの保護
 - 12 商標・・・業務上の信用の保護
 - 13 著作権(1)・・・著作物、著作者
 - 14 著作権(2)・・・著作権
 - 15 その他の知的財産権
-
- 1 About Intellectual property
 - 2 A legal definition of the Invention and Patent system
 - 3 Conditions for Patentability
 - 4 Right to patent and Inventions by Employees
 - 5 Patent application, Examination and Registration
 - 6 Trade secret and Intellectual property rights in a specific field
 - 7 Prior art search(1) (Number search and Key word search)
 - 8 Prior art search(2) (Patent classification search)
 - 9 Distribution and utilization of intellectual property rights, and Patent map
 - 10 Technology licensing and Infringement of intellectual property rights
 - 11 Design Right
 - 12 Trademark Right
 - 13 Copyright 1
 - 14 Copyright 2
 - 15 Some others on Intellectual property

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポート report 30%
小テスト mini examination 30%
日常の授業への取り組み efforts attitude to class 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業内容を学習し、授業終了後には授業内容を復習すること。
受講生には積極性と協調性を求めます。

To prepare before class, and to review after class.
Positiveness and cooperativeness are asked for a member of a class.

履修上の注意 /Remarks

2021年度は遠隔授業とします。

Remote lecture in 2021

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Intellectual property
Patent

スタートアップ研究

(Startups Planning)

担当者名 /Instructor 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS300F	○		○		◎

科目名	スタートアップ研究
-----	-----------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、私たちの日常生活における不便・不都合をビジネスの力で解決する方法を学ぶことにあります。ビジネスプランニングの方法をひと通り取り組むことにより、世の中に対して主体的に向き合えるようになります。企業や行政で働くにせよ、自身で起業するにせよ、ビジネスプランニングの考え方を身につけておくことで、課題解決に取り組み付加価値を生み出すことのできる人材になることができます。

達成目標

- (a)社会における自身の存在価値を改めて理解し、個人（またはグループ）がビジネスを通じて課題解決に取り組むことの意義を理解し、スモールビジネスの企画立案を行えるようになる。
- (b)具体的なスモールビジネス・プランを発表し、Q&Aを通じて内容を改善することができる。
- (c)毎回の授業での学びについて、次回の課題への取り組みに活かすことができる。
- (d)実際に事業を始める。もしくは、学内外のビジネスプラン・コンテストへ応募できるようになる。

教科書 /Textbooks

配布資料による。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布資料による。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 授業概要の説明、見本プレゼン視聴、取り組む課題の書き出し
- 2 課題と解決アイデアのショート・ピッチ、プランニング・グループ編成
- 3 ビジネスモデル・キャンバスBMCを使ったビジネスプランニング法、1次案の作成
- 4 第1次ビジネスプラン・ピッチとフィードバック、プランの練り直し
- 5 調査(1) 新規性・独創性を確認するための情報収集
- 6 新規性・独創性に関する調査報告とビジネスプランの練り直し
- 7 調査(2) ビジネスとしての実現可能性と市場性を裏付けるための情報収集
- 8 実現可能性・市場性に関する調査報告とビジネスプランの練り直し
- 9 調査(3) マーケティング・ビジネス普及促進策の論拠整理のための情報収集
- 10 マーケティング・ビジネス普及促進策に関する調査報告とビジネスプランの練り直し
- 11 第2次ビジネスプラン・ピッチとフィードバック
- 12 プランの練り直しと3次案の作成
- 13 ビジネス・プランピッチ準備
- 14 第3次ビジネスプラン・ピッチ(発表1)
- 15 第3次ビジネスプラン・ピッチ(発表2)

スタートアップ研究

(Startups Planning)

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) 40% スモールビジネス・スタートアップ企画書
 - (b) 20% プレゼンテーションとQ&A
 - (c) 20% 振り返りカード
 - (d) 20% 事業開始もしくは学内外ビジネスプラン・コンテスト応募
- * 達成目標(a)-(d)に対応

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (a) 授業開始前から、面白いと感じるビジネスについて情報を集め、メモを取っておきましょう。
- (b) 授業終了後も、世の中のビジネスがどう動いているのかについて関心を持ちましょう。

履修上の注意 /Remarks

- ・ この科目の受講者は、全員が学内外のビジネスプランコンテストへの応募を目指します。
- ・ 自分の好きなことを考える時間は楽しいものです。授業外の活動も必要になりますが、好きなことをビジネスにする演習授業なので、能動的に取り組みましょう。授業に参加している他の履修者によるビジネスモデルからも多くを学びとり、自分の提案の糧にしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分自身を軸として、世の中と関わりながら、必要な仕事を自分で作っていくという考え方や態度が身につき、自信を高められる授業になります。昨年度の先輩たちと同じく、自分にもできそうだ！と思えることが必ず見つかります。

キーワード /Keywords

スタートアップ、ビジネス・モデル、Business Boot Strapping
SDG9 産業と技術革新の基盤を作ろう

企業研究

(Enterprises and Industries)

担当者名 /Instructor 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS301F	○			○	◎

科目名	企業研究
-----	------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業において、履修者は業種・業界分析と企業分析の方法だけでなく、その前提となる自己分析の方法を身につけることを目指します。自己分析では、自身の半生を振り返ることにより、将来に向けて、自身の適正を探し出す糸口となるものです。また、いくつかの経済指標や経営指標について学んだり、それらを用いた比較分析の方法を学ぶことにより、自分自身で企業研究を行えるようになります。受講生は、この授業に参加することで、次のことができるようになります。

達成目標

- (a) 企業に関する知識、業界・企業分析の基本概念を理解して、活用することができる。
- (b) 経済データ等を用いた業界・企業分析ができるようになる。
- (c) 自己分析の手法として、パーソナルビジネス・キャンパスを描き、キャリアの方向性を示すことができる。
- (d) 企業・業界分析と自己分析を踏まえ、就職志望先に対する自己PR文を書くことができる。
- (e) 特別授業を通じて、実務家の経験に触れ、キャリア作りのイメージを高める。
- (f) 毎回の授業内容を振り返り、追加的な学びについて質問できる。

教科書 /Textbooks

配布資料による。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

業界地図、東洋経済新報社 [就職情報室蔵書あり]
 会社四季報、東洋経済新報社 [就職情報室蔵書あり]
 就職四季報、東洋経済新報社 [就職情報室蔵書あり]
 有価証券報告書 (各社) <http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/>
 ティム・クラークほか(2012):ビジネスモデルYOU、翔泳社 [図書館蔵書あり]
 アレックス・オスターワルダーほか(2012):ビジネスモデル・ジェネレーション、翔泳社 [図書館蔵書あり]

企業研究

(Enterprises and Industries)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 オリエンテーション、学習目標の確認
- 2 企業に関する基礎知識
- 3 自己分析(1) PBM(パーソナル・ビジネスモデル)、ライフライン分析
- 4 特別授業(1) 学研都市フォーラムのウェビナー視聴とレポート提出
- 5 自己分析(2) PBMの記入とプレゼンテーション作成
- 6 自己分析(3) PBMプレゼンの相互評価、私の個性に気づくワーク
- 7 自己分析(4) 私と社会とのつながり確かめるワーク、PBMの描き上げ
- 8 特別授業(2) ベンチャー起業家出前授業(その1)
- 9 企業調査の方法(1) 企業研究スライドのイメージ、調査対象企業の検索
- 10 企業調査の方法(2) 産業・企業資料の読み方と活用法、分析の基本概念
- 11 企業調査の方法(3) 企業研究スライドプレゼンテーションの作成
- 12 企業調査の方法(4) 企業研究スライドプレゼンテーションの相互評価
- 13 特別授業(3) ベンチャー起業家出前授業(その2)
- 14 自己分析(5) PBMへの加筆、企業への自己PRと志望動機書作成
- 15 自己分析(6) 自己PRと志望動機書の相互評価、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 20%期末試験
- 15%レポート+プレゼン
- 15%レポート+プレゼン
- 20%レポート+相互評価
- 15%レポート
- 15%振り返りフォーム

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、授業の事前準備課題(配布資料に基づく情報収集、発表準備など)に取り組みます。準備をしなければ、授業内容に対応できません。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 新型コロナウイルス感染動向によって、授業内容や方法が変更になる場合があります。
- ・ 授業の事前・事後学習として、配布資料での予復習があります。必要に応じて、オンライン学習システム(Moodle)を用いた課題を出すことがあります。この授業では、学内ネットワーク上のMoodleを課題提出などのために活用します。必ず利用者登録をして下さい。
- ・ 情報伝達のために Office365-Outlookを用いますので、受信できる環境を整えておいて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ワークショップや提出物が多く、作業量の多い授業になりますので、よく考えてから履修して下さい。

キーワード /Keywords

企業、業種・業界、就職、自己分析、パーソナル・キャンパス
SDG8 働きがいも経済成長も

人文社会ゼミ

(Seminar in Humanity and Social Science)

担当者名 /Instructor 岡岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室, 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GEN300F			○	◎	○
科目名	人文社会ゼミ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

読書は自分一人でするのも楽しいですが、より深く内容を理解することができる方法があります。輪読といって、一冊を複数人で読み、意見交換や議論をすることで、より詳しく理解し、検討することができます。本科目は普段あまり手にすることが少ない書籍を教員、参加者とともに読み込んで議論する授業です。本を読むのが好きな人も、特段そうでもない人も専門外の分野の書籍を輪読することで、知的関心を高めましょう。

(到達目標)

DP思考・判断・表現力：日本語教育学、教育学、経営学、経済学の各分野の専門的な内容の文献を読解し、自分の言葉で置き換えることができる。
DPコミュニケーション力：読解した内容を聞き手が理解しやすいように報告することができる。
DP自立的行動力：輪読を通じて内容について議論をすることができる。

教科書 /Textbooks

経済学（中岡）：斎藤幸平著『人新世の「資本論」』集英社新書、2020年、1122円。
その他は授業開始時に指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その他は授業開始時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション

第2回 実施方法について

第3回 文献購読ならびに発表（序盤）

第4回 文献購読ならびに発表（中盤）

第5回 文献購読ならびに発表（終盤）

第6回 文献購読ならびに論点の討論

第7回 文献購読ならびに全体討論

第8回 まとめ

第9回 実施方法について

第10回 文献購読ならびに発表（序盤）

第11回 文献購読ならびに発表（中盤）

第12回 文献購読ならびに発表（終盤）

第13回 文献購読ならびに論点の討論

第14回 文献購読ならびに全体討論

第15回 まとめ

人文社会ゼミ

(Seminar in Humanity and Social Science)

成績評価の方法 /Assessment Method

教員の指定した文献を読み込み内容を適切に整理できる。 20% x2回
文献を読み込み整理した内容について考察を行える。 20% x2回
整理・考察した内容をレジュメ等発表資料にまとめて説明できる。 10% x2回

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前) テキストとなる文献の実施予定箇所を熟読し、重要箇所をマークし、章や節ごとに要約すること。
(事後) 授業で得た知見を書きだし、事前学習時のマークや要約と比較する。

履修上の注意 /Remarks

履修を考えている人は第1回は参加すること。日本語教育学、教育学、経営学、経済学より2つ参加を希望する分野を選択する。いずれの分野も前半と後半に同一内容の演習を行っているので、前半と後半で1つずつ参加すること。同じ分野を2回選択することはできない。授業実施時の参加人数に応じて発表や討論の方法を変更することもあるが、基本的には参加者全員で学術文献を購読し、討論する方式である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本語教育学(池田)：日本人学生の皆様は主に母語として、留学生の皆様は主に学習言語として、日本語と接しています。では、「日本語を教育する」ために必要な知見とはどのようなものでしょうか。もちろん、単語の意味を説明したり文法の仕組みを解説する能力は不可欠です。しかし、そのような知識を集積すれば、適切な教育ができるというわけではありません。このゼミでは日本語教育で使われている教材の分析を行い、日本語教育学がどのような広がりを持っているかを探求してもらいます。

教育学(村江)：SDGsに掲げられた17の目標の1つに「4：質の高い教育をみんなに」が挙げられています。私の担当会では毎回1つの社会課題をピックアップして、その課題を取巻く多様な立場の意見を電子書籍を用いて見ていながら社会課題を構造化することを目指したいと思います。そのために、アクティブ・ブック・ダイアログの手法を用いて輪読していきます。

経営学(辻井)：経営学の理論書を読んで、企業などの組織を経営するとはどういうことなのか、根本的な問いを深めます。

経済学(中岡)：環境問題の悪化に歯止めをかけるには経済学からは何ができるのか？これまで何をしてきたのか？みなさんにとって関心の高い気候変動を題材に経済学の基礎的な考え方を学びます。

関連するSDGs：4質の高い教育をみんなに 13気候変動に具体的な対策を

キーワード /Keywords

日本語教育学：教科書、到達目標、プロフィール、学習者、日本語
教育学：SDGs、アクティブブックダイアログ
経営学：マネジメント、組織、戦略
経済学：経済成長、資本主義、資本論、気候変動

環境問題特別講義

(Introductory Lecture Series on Environmental Issues)

担当者名 /Instructor 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 中武 繁寿 / Shigetoshi NAKATAKE / 情報システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 / Credits 2単位 / Semester 1学期 / Class Format 授業形態 講義 / Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎				
科目名	環境問題特別講義		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義および「環境問題事例研究（1年次2学期）」は、大学で専門科目を学んでいくための動機づくりと基本的なリサーチスキルの習得と実践を行います。まず、環境問題やSDGs（持続可能な開発目標）の北九州市の取り組みに関する話をきっかけに、各方面の専門家の話を聞きながら、多様性を理解し、世界へつながる活動や倫理観など、エンジニアとしての世界観を広げていきます。また同時に、第2学期の「環境問題事例研究」で取り組むテーマを常に意識し、今後、皆さんが大学で学ぶときの羅針盤となるように、学び続けるモチベーションをつくってください。テーマは、大学の研究室、地域企業からの提案などの多岐に渡ります。次に、研究をより進化させていくための武器（スキル）を身に着けます。近年のオンライン・スキル、ICT・AIを活用したデータ解析など、どの工学分野でも必要なリサーチスキルを学びます。また、フィールド調査活動を安全に進めるためのリスクマネジメントも学びます。これらの動機づくりとスキル習得を経て、環境問題事例研究の準備ができることが本講義の目標です。夏休みには、それらをさらに強化するためのオンライン教材の提供し、ワークショップやフィールド調査を開催しますので、ぜひ積極的に取り組みましょう。

教科書 /Textbooks

授業前にMoodleにて配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

MoodleとTeamsにて情報提供します。

環境問題特別講義

(Introductory Lecture Series on Environmental Issues)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：履修説明・ガイダンス・オンライン環境の構築
- ・ 講義の流れ
 - ・ 成績評価方法の説明
 - ・ Moodle、Teams (チャット・ビデオ会議) の操作確認
- 第2回：学内講師による講演「SDGsについて」とチーム活動
- ・ SDGsに関する講演の視聴
 - ・ Teamsを使ったチーム活動
- 第3回：チームミーティング演習
- ・ 「(仮)青空が欲しい」視聴
 - ・ Teamsを使ったチーム活動
- 第4回：大テーマガイダンス①
- 第5回：大テーマガイダンス②
- 第6回：外部講師による講演「未来の産業を知る」
- 第7回：未来産業インターンシップについて
- 第8～13回：リサーチスキル演習
- ・ オンライン・スキル
 - ・ Python入門
 - ・ MATLAB入門
 - ・ 文献調査リテラシー
 - ・ フィールドワーク/リスクマネジメント・リテラシー
- 第14～15回：環境問題事例研究ガイダンス
- ・ 環境問題事例研究のチームわけ、チューター(TA)の紹介
 - ・ プロジェクト・マネジメント能力、チーム活動能力
 - ・ アポイントのとり方、リスクマネジメントシート作成
 - ・ 報告書・プレゼンテーションスキル
 - ・ 研究計画書のフォーマットについて

成績評価の方法 /Assessment Method

- 各授業回の課題 80%
- 見学レポート 20%
- (課題の内容は、回ごとに異なるがきちんと聴講していないと解けない課題とする。
また出席だけでは加点は行わないが、欠席は減点する。)
- ※基本的に課題の出題および提出はmoodleにて行うものとする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リサーチ・スキル演習で学んだ内容を発展させるために、夏休み中にオンライン教材の提供し、さらにスキル習得ワークショップ、フィールド調査活動、未来産業インターンシップを開催します(任意参加)。7月に参加募集を行う予定にしています。

履修上の注意 /Remarks

各授業の内容に関する課題提出等を課すので、常に授業への集中力を持続すること。
課題提出は基本的にmoodle(オンライン学習システム)で行う。
講師の都合等で、講義内容に変更が生じる場合がある。土曜日に施設見学を行う。
環境問題事例研究ガイダンスに関連して、授業時間外でのチーム作業があるので、協力して行うこと。
夏休みにワークショップやフィールド調査活動への参加を勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、環境問題事例研究と合わせて、大学で学び続けるための動機と武器を身につけるための講義です。何を学び、どこまで身につけるについて、各自の目標を設定しましょう。
また、本講義は、国連アカデミック・インパクトの活動の一環であり、すべてのテーマは、SDGs(持続可能な開発目標)に関連付けられています。

キーワード /Keywords

SDGs リテラシー 環境問題 生態系 エネルギー消費 北九州市 エコタウン リサーチスキル 実務経験のある教員による授業

環境問題事例研究

(Case Studies of Environmental Issues)

担当者名 /Instructor 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 中武 繁寿 / Shigetoshi NAKATAKE / 情報システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 / 2 Credits 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 / 演習 Class クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV102F	◎	○		○	
科目名	環境問題事例研究		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

社会における課題の多くは、1つの工学分野では解決できません。分野横断・文理融合でこそ、その解決の糸口がつかめます。一方で、その工学分野一つ一つに深さがないとまた課題の解決にはつながりません。本科目の目的は、大学1年生という立場で分野横断の課題に取り組むことで、工学としての軸の重要性と融合することでの発展の可能性を体験することにあります。具体的には、第1学期の環境問題特別講義および夏休み中のワークショップやインターンシップを経て、習得したリサーチスキルを駆使し、環境技術研究所からの提案などのテーマについて、学科横断型の少人数チームで取り組みます。

本科目は、研究分野から大別されるテーマ（大テーマ）と、それを細分化した小テーマがあり、チームごとに小テーマが割り当てられます。すべてのテーマは、SDGs（持続可能な開発目標）に関連付けられています。調査・研究活動では、全体の組立てから、リスクマネジメントシートの作成、データ収集・分析、フィールドワークを経て、最後のプレゼンテーションや報告書の作成まで、すべての学生が主体となって行います。Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）のPDCAサイクルを繰り返し、研究・調査内容を深化させてください。ルーブリックにより自分やチームの達成度を自己評価しながら活動を進めます。

本科目では、調査研究を行うための基礎的スキルの習得、またそのスキルを用いての調査研究手法の獲得、他者と協働して課題解決に取り組むためのコミュニケーション力の体得を目指します。

教科書 /Textbooks

環境問題特別講義で提供した資料、およびオンライン教材。
環境技術研究所や企業から提供される資料。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その他、参考となる資料・書籍等については、その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、調査研究グループの発表
- 第2回：調査研究の成果イメージについて
- 第3回：計画書と要約書の作成
- 第4～6回：調査研究活動
- 第7回：大テーマ別中間発表・フィードバック
- 第8～10回：調査研究活動
- 第11回：フィードバック、発表会に向けたプレゼン資料の作成
- 第12回：追加調査、発表会に向けたプレゼン資料の作成
- 第13回：大テーマ別発表会
- 第14回：ブラッシュアップ
- 第15回：最終発表会（大テーマ別発表会の優秀チーム）

※講義前半に課外活動として、環境ミュージアムの見学を実施します（予定）。

環境問題事例研究

(Case Studies of Environmental Issues)

成績評価の方法 /Assessment Method

中間発表、大テーマ別発表会、最終発表会 25%
調査研究計画書と研究要約書 25%
ルーブリックに基づく自己評価 25%
ルーブリックに基づくグループへの貢献度評価 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

第1学期の環境問題特別講義および夏休み中のワークショップ、インターンシップを経て、習得したリサーチスキルを活用します。
各回の講義で、必要な事前・事後学習を助言することがありますが、基本的に、第3目～10回目（7回目を除く）調査研究活動では、自分たちで話し合った内容、活動内容を指定方法で報告してください。

履修上の注意 /Remarks

授業計画は、あくまでも目安になるものである。この科目では、開講期間全体を通じ、時間管理を含めて、「学び」の全てとその成果を受講生の自主性に委ねている。
調査研究は、授業時間内及び時間外に行う。フィールド調査を伴うことから、リスクマネジメントシートに示される注意事項を守り、各自徹底した安全管理を行うこと。連絡は、基本的にMoodle等のオンラインツールを通して行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、今後、皆さんが大学で学ぶときの羅針盤となるような、実際の大学研究室の研究や地域企業からの提案などのテーマについて、学科横断型の少人数チームで取り組みます。ここでは、調査・研究全体の組立てから、リスクマネジメントシートの作成、データ収集・分析、フィールドワークを経て、最後のプレゼンテーションや報告書の作成まで、すべての学生が主体となって行います。そのために、第1学期の環境問題特別講義、および夏休み中の個別セミナーや課外活動でしっかりと知識とスキルを習得してください。本科目は、国連アカデミック・インパクトの活動の一環であり、すべてのテーマは、SDGsに関連付けられています。

キーワード /Keywords

SDGs (持続可能な開発目標)、環境問題、融合研究、社会実装研究、PBL (問題解決学習)

環境学入門

(Introduction to Environmental Science)

担当者名 寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19~)
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~) 【選択】 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~),
/Department 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV101F	◎				
科目名	環境学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地球環境（水環境を中心に大気，土壌，生態系，資源・エネルギーなど）の歴史から現状（発生源，移動機構，環境影響，対策など）を国土や地球規模からの視点で概観できるような講義を行い，環境保全の重要性を認識できるようにする。
到達目標：地球環境に関する幅広い知識を体系的かつ総合的に身につけている。

教科書 /Textbooks

地球環境学入門 第3版(講談社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス・地球環境
- 2 地球の成り立ち
- 3 物質の循環
- 4 水の循環，海洋の循環
- 5 地球上の資源(1 概論)
- 6 地球上の資源(2 エネルギー)
- 7 地球温暖化(1 概論)
- 8 地球温暖化(2 応用)
- 9 海を守る(海洋汚染，赤潮青潮)
- 10 森を守る(環境と植生)
- 11 大気汚染問題
- 12 水質汚濁問題
- 13 環境再生の事例
- 14 社会と環境1(北九州市における環境の取組み)
- 15 社会と環境2(福岡市における再生水利用の取組み)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業学習する内容の一部について予め調査を行う事前学習を課すことがある。
また，授業で学習した内容の一部について演習や復習等をおこなう事後学習を課すことがある。

履修上の注意 /Remarks

Webおよび(または)対面で授業を実施する。
授業の最後に20分程度の演習を実施するので，各授業を集中して聞くこと。
遅刻・欠席，授業に参加しないことや授業中の私語などは大幅な減点となり，単位取得が困難となります。

環境学入門

(Introduction to Environmental Science)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球環境に対する問題意識や将来展望を持つことは、あらゆる専門分野で必要不可欠なものになりつつあります。講義項目は、多岐にわたりますが、現状と基本的な考え方が理解できるような講義を行います。皆さんの将来に必ずプラスになるものと確信しています。

水に係わるソリューションを提供している民間会社で研究員として勤務経験のある教員がその実務経験を活かし、地球環境の歴史から現状を国土や地球規模からの視点で概観できるように講義を行う。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

未来を創る環境技術

(Introduction to Environmental Technology)

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所
永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice この科目は北方・ひびきの連携科目です。シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV003F	◎				
科目名	未来を創る環境技術		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

授業の到達目標は、以下の通りです。

- 豊かな「知識」：
環境問題や環境技術を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 次代を切り開く「思考・判断・表現力」：
環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 社会で生きる「自立的行動力」：
環境問題に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割、
- 第2回：北九州市の環境エネルギー政策と風力産業拠点化政策
- 第3回：世界における再生可能エネルギー
- 第4回：日本における風力発電【洋上風力発電事業の取り組み】
- 第5回：日本における風力発電【風力発電のメンテナンス】
- 第6回：日本における風力発電【海洋産業従事者の安全技術教育】
- 第7回：再生可能エネルギーの産業【電力システム】
- 第8回：再生可能エネルギーの産業【エネルギーマネジメント】
- 第9回：都市の環境とエネルギー【経済学からのアプローチ】
- 第10回：都市の環境とエネルギー【機械工学からのアプローチ】
- 第11回：都市の環境とエネルギー【情報学からのアプローチ】
- 第12回：都市の環境とエネルギー【建築学からのアプローチ】
- 第13回：都市の環境とエネルギー【環境工学からのアプローチ】
- 第14回：都市の環境とエネルギー【化学・生物工学からのアプローチ】
- 第15回：まとめ

未来を創る環境技術

(Introduction to Environmental Technology)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society 5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

地域防災への招待

(An introduction to local disaster management)

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~), 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice この科目は北方・ひびきの連携科目です。シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SSS001F	◎		○		○
科目名	地域防災への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標
地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田恒男、土岐憲三(2006)：地震防災のはなし、朝倉書店
京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待

(An introduction to local disaster management)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 人が死なない防災（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加 20%
レポートおよび小テスト 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

北九州市派遣講師の回は、教室での対面講義を予定しているため、受講人数制限あり。
講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
本年度は、新型コロナウイルス対策のため、会場での合同ワークショップは実施しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業
SDGsで関連するゴール（3. 健康と福祉を、5. ジェンダー平等、6. 水とトイレを、13. 気候変動対策）

自然史へのいざない

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice この科目は北方・ひびきの連携科目です。シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0001F	◎		○		○
科目名	自然史へのいざない		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

- 【知識】 自然史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 自然史についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 自然史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。()内は担当者。【 】はキーワード

- 1回 ガイダンス (日高)
- 2回 植物を鍵とした生物間相互作用 (真鍋) 【共生】 【食物連鎖】
- 3回 生命の起源を探る (柳川) 【極限環境】 【微生物】
- 4回 北九州市周辺の地質と化石の多様性について (太田) 【化石】 【ジオパーク】
- 5回 博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化 (大橋) 【恐竜】 【脊椎動物】
- 6回 鳥類の生態と進化 (中原) 【適応放散】 【進化的軍拡競争】
- 7回 海産無脊椎動物の行動生態学 (竹下) 【無脊椎動物】
- 8回 多様性生物学と進化 (葦島) 【進化】 【生物多様性】
- 9回 石の歌がきこえる (森) 【岩石】 【考古】 【文理融合】
- 10回 魚類分類学と多様性 (日比野) 【ホロタイプ】 【分類学の歴史】
- 11回 博物館見学 (日高)
- 12回 フィールドの地学と歴史を楽しむ (野井) 【地学と歴史のかかわり】
- 13回 人新世におけるヒトと植物の関係 (河野) 【人新世】 【科学史】
- 14回 課題研究 (日高)
- 15回 まとめ (日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中ごとのMoodle課題 (確認テスト、ミニレポート等) 100%

自然史へのいざない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle（e-learning システム）で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第7回～第9回は11月28日（日）博物館にて講義と見学の予定。
（博物館までの交通費は自己負担とする）
- ・ 上記以外は遠隔授業（オンデマンド動画配信）の予定。
- ・ 第1回目Moodleで詳細について説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

環境都市論

(Urban Environmental Management)

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】環境生命工学科(19~) 【選択】エネルギー循環化学科(19~), 機械システム工学科(19~), 情報システム工学科(19~), 建築デザイン学科(19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV200F	◎		○		
科目名	環境都市論		※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連		

授業の概要 /Course Description

アジア各国で進行している産業化、都市化、モータリゼーション、消費拡大とそれらに起因する環境問題には、多くの類似性が見られる。日本の経済発展と環境問題への対応は、現在、環境問題に直面するこれらの諸国への先行モデルとして高い移転可能性を持つ。本講では、北九州市を中心とした日本の都市環境政策を題材に、環境問題の歴史と対策を紐解き、その有効性と適用性について考える。

到達目標

都市環境問題に対して、原因とこれまでとられてきた対策、さらに将来的に起こりうる問題とその解決可能性について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない(講義ではプリントを配付する)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

東アジアの開発と環境問題(勝原健、勁草書房)
その他多数(講義中に指示する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロ(松本亨)
- 2 日本の環境政策の歴史的推移(松本 亨)
- 3 都市の土地利用・土地被覆と熱環境(崇城大学・上野賢仁 教授)
- 4 環境リスクコミュニケーションを考える~北九州市での実践から(九州産業大学・垣迫裕俊 教授)
- 5 都市交通をめぐる環境問題とその総合対策(九州工業大学・寺町賢一 准教授)
- 6 北九州の生物をめぐる水辺環境の問題(エコプラン研究所・中山歳喜 代表取締役所長)
- 7 水資源と都市型水害(福岡大学・渡辺亮一 教授)
- 8 都市の水循環(松本 亨)
- 9 再生可能エネルギーの産業化と低炭素社会を目指す九州の取組(九州経済調査協会・松嶋慶祐 研究主査)
- 10 アフリカの廃棄物事情と国際協力(北九州産業学術推進機構・三戸俊和 部長)
- 11 都市の物質循環(松本 亨)
- 12 国際的な廃プラスチック問題の現状(地球環境戦略機関北九州アーバンセンター・林志浩 副センター長)
- 13 食品ロスとフードバンクの役割(フードバンク北九州ライフアゲイン・原田昌樹 代表)
- 14 ソーシャルビジネス概論~社会を変えるアイデア~(西日本産業貿易コンベンション協会・古賀敦之 部長代理)
- 15 環境対策の包括的評価(松本 亨)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業への積極的参加)10% ※2/3以上出席すること
毎回の復習問題 60%
期末試験 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は特に必要ないが、毎回の講義を十分に理解するよう事後の復習に努めること。

環境都市論

(Urban Environmental Management)

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の最後にその回の内容に関する復習問題（選択式）を実施するので集中して聞くこと。
欠席すると必然的にこの得点がゼロとなるので注意。
復習問題は講義の最後なので、早退の場合も欠席同様、復習問題の得点はゼロとなるので注意が必要である。
30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市あるいは九州の環境への取り組みの現状と課題について、その第一線で関わってこられた研究者、企業、NPO等の担当者に講述していただきます。学生諸君は、北九州市で過ごした証に、北九州市の環境政策について確実な知識と独自の視点を有して欲しい。

―――
日本の都市環境政策に取り組む団体の代表を招き、環境問題への対応を学ぶ。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

英語 I

(English I)

担当者名 /Instructor 筒井 英一郎 / Eiichiro TSUTSUI / 基盤教育センターひびきの分室, プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室
中野 秀子 / Hideko NAKANO / 非常勤講師, 許 慧 / Hui XU / 非常勤講師
富永 美喜 / Miki TOMINAGA / 非常勤講師, クレシーニ リズ / Riz CRESCINI / 非常勤講師
坂口 由美 / Yumi SAKAGUCHI / 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG121F		◎	○		
科目名	英語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<科目の到達目標>

- ・ (知識を活用できる技能) 英語のパラグラフ構造を理解して英文を読み、内容をまとめることができる。
- ・ (時代を切り開く思考・判断・表現力) 文章の基本構造を理解し、自分の考えを発信することができる。

<科目の目的>

この科目では、高等学校までに学習した基本的な文法力および語彙を復習・活用しながら、読む力と書く力を総合的に高める。これまでに培った読む力、書く力、語彙文法知識を有機的に結び付け、様々な読解ストラテジーを用いてテキストの内容や文化的背景を適切に理解し、自身の言葉で言い換え、要点を的確に説明できる力を身につける。

この授業の到達目標は以下の4つである。

- (1) 英語のパラグラフ構造を理解して英文を読み、内容をまとめることができる。
- (2) 文章の基本構造を理解し、自分の考えを発信することができる。
- (3) 自身の関心が及ぶ身近な話題であれば、結束性のある簡単なテキストを単独で書くことができる。
- (4) 本文から連続した語句を繰り返しがえし使用することなく、適切な言い換えをしながら、テキストの要点をおおまかに読み手に伝えられる要約文を書くことができる。

教科書 /Textbooks

『Reading for the Real World Intro (3rd Edition)』 (By Eric Prochaska, Anne Taylor, and Peggy Anderson) Compass Publishing (税抜2,500円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後、各担当者より指示する。

英語 I

(English I)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 <合同授業> オリエンテーション
第2回 Unit 1 題材・場面：Strange & Unusual
第3回 Unit 2 題材・場面：Computers & Technology
第4回 Unit 3 題材・場面：Health & Medicine
第5回 Unit 4 題材・場面：Social Issues
第6回 Unit 5 題材・場面：Environmental Issues
第7回 まとめ（読解力を中心に）
第8回 Unit 7 題材・場面：Language & Literature
第9回 Unit 8 題材・場面：Space & Exploration
第10回 Unit 9 題材・場面：Sports & Fitness
第11回 ふりかえり（読解ストラテジーを中心に）
第12回 Unit10 題材・場面：People & Opinions
第13回 Unit 11 題材・場面：Cross-Cultural Viewpoints
第14回 Unit12 題材・場面：Business & Economics
第15回 ふりかえり（Summary Writingを中心に）

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 筆記試験等 40%
- (2) 小テスト・授業内課題 20%
- (3) 要約課題等 20%
- (4) 授業外活動 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

辞書を活用し、未知語の意味や発音の仕方を事前にしっかり調べておくこと。そして、授業後はその復習に取り組み、着実に力をつけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業や本読みに対する積極的な取り組みと、言語学習者・使用者としての高い成果と大きな成長を期待する。

キーワード /Keywords

読解ストラテジー、読解力、要約文、言い換え

英語 II

(English II)

担当者名 /Instructor 植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室, クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室
中野 秀子 / Hideko NAKANO / 非常勤講師, クレシーニ リズ / Riz CRESCINI / 非常勤講師
坂口 由美 / Yumi SAKAGUCHI / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG131F		◎	○		
科目名	英語 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

< 科目の到達目標 >

- ・ (知識を活用できる技能) 身近な話題について英語で聞いて理解する力及び伝える力を身につける
- ・ (次代を切り開く思考・判断・表現力) 英語で論理的に表現することができる

< 科目の目的 >

この科目は聞く課題を通して英語を聞く力をつけるとともに、そこで学んだ表現を用いて英語で説明できる、あるいは他者とやりとりできる力をつけることを目的とする。本クラスを受講した結果、以下のことができるようになることが期待される。

- ・ 全体のトピックを把握したり、必要な情報を聞き取ったりするなど目的にあった聞き方ができる
- ・ 細かな音の聞き分けができ、聞き取った音を文字で表すことができる
- ・ 間違えることを恐れずに英語で発表ややりとりができる
- ・ 視覚資料を利用して発表することができる
- ・ 英語のリズムやイントネーションを意識して発音することができる

教科書 /Textbooks

eラーニング

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Murphy, Raymond. 『マーフィーのケンフ “リッシ” 英文法日本語版初級第3版』ケンフ “リッシ” 大学出版局。(注：実践英語で使用する教科書を参考書として利用します。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コースの紹介とeラーニングの学習について
2. 日本語で自己紹介してみよう (発表1)
3. 印象に残る紹介とは? (ペアワーク課題：クラスメートにインタビュー)
4. 英語でクラスメートを紹介しよう (発表2)
5. [オンライン授業] 発音練習：伝わる英語にするために (課題：リズムを意識した発音練習)
6. Show & Tell：好きなものを説明しよう (発表3)
7. アナウンスをしよう (課題：○○になりきってアナウンスしよう)
8. 図形を説明しよう (課題1：図形の説明、課題2：プレゼンテーションの題材決め)
9. プレゼンテーションの基本的な構成について
10. プレゼンテーションのイントロダクション (発表4)
11. 効果的な視覚資料の作り方
12. 最終プレゼンテーションの準備
13. 最終プレゼンテーションのリハーサル (発表5)
14. 最終プレゼンテーション
15. ふりかえり

英語 II

(English II)

成績評価の方法 /Assessment Method

最終プレゼンテーション：20%、発表（5回）：25%、課題・小テスト：25%、リスニング課題（eラーニング）：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、eラーニングの課題に取り組むこと。eラーニング課題の一部は授業の予習課題となる。また、発表によっては発表原稿や視覚資料を準備する必要があるため、発表までに準備を終わらせること。

履修上の注意 /Remarks

このクラスではオンライン授業と対面授業を併用して進める予定です。コロナウイルスの感染拡大状況によってはオンライン授業の回数を増やす場合があります。また、最終プレゼンテーションは教室で実施する予定ですが、オンライン授業になった場合にはTeamsの発表に切り替えることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実践英語

(Practical English)

担当者名 /Instructor 木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室, 植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室
柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室, 江口 雅子 / Masako EGUCHI / 非常勤講師
富永 美喜 / Miki TOMINAGA / 非常勤講師, 中野 秀子 / Hideko NAKANO / 非常勤講師
坂口 由美 / Yumi SAKAGUCHI / 非常勤講師, クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室
クレシーニ リズ / Riz CRESCINI / 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期/2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG110F		◎	○		
科目名	実践英語		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

< 科目の到達目標 >

- ・ (知識を活用できる技能) 基本的な語彙, 文法を身につけ, 英語の読む力, 聞く力を向上させる
- ・ (次代を切り開く思考・判断・表現力) 英語を用いて基本的なコミュニケーションを取ることができる

< 科目の目的 >

この科目では, コミュニケーションの道具として英語を用いるのに最低限必要とされる受信力 (読む・聞く) を向上させることを目指す。そのためにTOEIC L&Rテスト (以下TOEIC) の問題形式を素材として様々なトピックを扱い, これまでに学習した基本的な英文法及び語彙を復習する。また, この授業を通して, 卒業後の英語学習に活用できる学習方法やスキルを習得及び実践する。この授業の履修を通して, 以下の4点を期待する。

- (1) TOEIC 470点以上の英語力の習得
- (2) 基本的な文法の定着
- (3) 基本的な語彙の定着
- (4) 自律的な学習習慣の確立

教科書 /Textbooks

- (1学期) Rasing your Level! for the TOEIC Listening and Reading Test (光富他著・南雲堂・2100円)
(2学期) TOEIC L&R テスト文法項目別トレーニング(鈴木他著・松柏社・1900円)
(1・2学期) マーフィーのケンブリッジ英文法日本語版初級第3版 (マーフィー著・ケンブリッジ大学出版局・2680円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後, 各担当教員より指示・紹介する。

実践英語

(Practical English)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【1学期：テキスト(1)】

Week 1: オリエンテーション・ Unit 1 TOEICについて
Week 2: TOEIC演習
Week 3: Unit 3 Hotels
Week 4: Unit 4 Dining
Week 5: Unit 5 Sports and hobbies
Week 6: Unit 6 Phone calls and emails
Week 7: Unit 7 Health
Week 8: Unit 8 Ecology
Week 9: Unit 9 Shopping
Week 10: Unit 10 Transportation
Week 11: Unit 11 Computers
Week 12: Unit 12 Offices
Week 13: Unit 13 Jobs
Week 14: Unit 14 Business
Week 15: Unit 15 Mini TOEIC

【2学期：テキスト(2)】

Week 1: Unit 1 品詞
Week 2: Unit 2 時制
Week 3: Unit 3 受動態
Week 4: Unit 4 不定詞・ 動名詞
Week 5: Unit 5 分詞
Week 6: Unit 6 前置詞・ 接続詞
Week 7: Unit 7 関係詞
Week 8: Unit 8 仮定法
Week 9: Unit 9 語彙問題 (形容詞・ 副詞)
Week 10: Unit 10 イディオム問題
Week 11: Unit 11 語彙問題 (動詞・ 名詞)
Week 12: Unit 12 イディオム問題
Week 13: Unit 13 基礎力確認テスト
Week 14: Unit 14 実力テスト
Week 15: Unit 15 補強問題

成績評価の方法 /Assessment Method

TOEIC 470点以上取得または同等の英語力：70%
授業内課題・ テスト：20%
授業外課題：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当教員の指示通りに演習問題の予習・ 復習を行うこと。
授業外課題は提出スケジュールを守ること。

履修上の注意 /Remarks

(1) 本科目は2021年度入学者が対象である。2020年度以前の入学者は「実践英語 (再履修)」を履修すること。
(2) 成績評価の対象となる「TOEICのスコア」とは、履修している学期期間中に受験したTOEIC公開テストもしくはTOEIC IPテストのスコアとする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実践英語 (再履修)

(Practical English)

担当者名 /Instructor 木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室, 植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室
筒井 英一郎 / Eiichiro TSUTSUI / 基盤教育センターひびきの分室, 中野 秀子 / Hideko NAKANO / 非常勤講師
工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師, 坂口 由美 / Yumi SAKAGUCHI / 非常勤講師
國崎 倫 / Rin KUNIZAKI / 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期/2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19 ~), 機械システム工学科 (19 ~), 情報システム工学科 (19 ~), 建築デザイン学科 (19 ~), 環境生命工学科 (19 ~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG110F		◎	○		
科目名	実践英語		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

< 科目の到達目標 >

- ・ (知識を活用できる技能) 基本的な語彙、文法を身につけ、英語の読む力、聞く力を向上させる
- ・ (次代を切り開く思考・判断・表現力) 英語を用いて基本的なコミュニケーションを取ることができる

< 科目の目的 >

この科目では、コミュニケーションの道具として英語を用いるのに最低限必要とされる受信力 (読む・聞く) を向上させることを目指す。そのためにTOEIC L&Rテスト (以下TOEIC) の問題形式を素材として様々なトピックを扱い、これまでに学習した基本的な英文法及び語彙を復習する。また、この授業を通して、卒業後の英語学習に活用できる学習方法やスキルを習得及び実践する。この授業の履修を通して、以下の4点を期待する。

- (1) TOEIC 470点以上の英語力の習得
- (2) 基本的な文法の定着
- (3) 基本的な語彙の定着
- (4) 自律的な学習習慣の確立

教科書 /Textbooks

- (1・2学期) All-round training for the TOEIC L&R Test (石井他著・成美堂・2200円)
マーフィーのケンブリッジ英文法日本語版初級第3版 (マーフィー著・ケンブリッジ大学出版局・2680円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後、各担当教員より指示・紹介する。

実践英語 (再履修)

(Practical English)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【1学期】

Week 1: Unit 1 Restaurant [Pre-TOEIC & Listening Sections]
Week 2: Unit 1 Restaurant [Reading Section]
Week 3: Unit 2 Department store [Pre-TOEIC & Listening Sections]
Week 4: Unit 2 Department store [Reading Section] & Quiz 1
Week 5: Unit 3 Train station [Pre-TOEIC & Listening Sections]
Week 6: Unit 3 Train station [Reading Section]
Week 7: Unit 4 Transportation [Pre-TOEIC & Listening Sections]
Week 8: Unit 4 Transportation [Reading Section] & Quiz 2
Week 9: Unit 5 Post office [Pre-TOEIC & Listening Sections]
Week 10: Unit 5 Post office [Reading Section]
Week 11: Unit 6 Bank [Pre-TOEIC & Listening Sections]
Week 12: Unit 6 Bank [Reading Section] & Quiz 3
Week 13: Unit 7 Airport [Pre-TOEIC & Listening Sections]
Week 14: Unit 7 Airport [Reading Section]
Week 15: Review test

【2学期】

Week 1: Unit 8 Hotel [Pre-TOEIC & Listening Sections]
Week 2: Unit 8 Hotel [Reading Section]
Week 3: Unit 9 Hospital [Pre-TOEIC & Listening Sections]
Week 4: Unit 9 Hospital [Reading Section] & Quiz 1
Week 5: Unit 10 Events and performances [Pre-TOEIC & Listening Sections]
Week 6: Unit 10 Events and performances [Reading Section]
Week 7: Unit 11 College [Pre-TOEIC & Listening Sections]
Week 8: Unit 11 College [Reading Section] & Quiz 2
Week 9: Unit 12 Office [Pre-TOEIC & Listening Sections]
Week 10: Unit 12 Office [Reading Section]
Week 11: Unit 13 Business trip [Pre-TOEIC & Listening Sections]
Week 12: Unit 13 Business trip [Reading Section] & Quiz 3
Week 13: Unit 14 Sightseeing [Pre-TOEIC & Listening Sections]
Week 14: Unit 14 Sightseeing [Reading Section]
Week 15: Review test

成績評価の方法 /Assessment Method

TOEIC 470点以上取得または同等の英語力 : 70%
授業内課題・テスト : 20%
授業外課題 : 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当教員の指示通りに演習問題の予習・復習を行うこと。
授業外課題は提出スケジュールを守ること。

履修上の注意 /Remarks

- 本科目は2020年度以前の入学者が対象である。2021年度入学者は「実践英語」を履修すること。
- 成績評価の対象となる「TOEICのスコア」とは、開講学期中に受験したTOEIC公開テストもしくはTOEIC IPテストのスコアとする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語 III

(English III)

担当者名 /Instructor 木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室, 筒井 英一郎 / Eiichiro TSUTSUI / 基盤教育センターひびきの分室
ブライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室, 許 慧 / Hui XU / 非常勤講師
富永 美喜 / Miki TOMINAGA / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG122F		◎	○		
科目名	英語 III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<科目の到達目標>

- 英語のパラグラフ構造を理解し、内容を整理して読むことができる。
- 根拠を示して自分の意見を表現することができる。

本科目ではリーディングに重点を置きつつ、短いパラグラフを書く練習をする。そのためにリーディングの目標はリーディングストラテジーを学び、比較的平易な英文を素早く、かつ確実に読む練習をする。またライティングでは英語のパラグラフの書き方を知り、自らの意見を英語で書く練習をする。

教科書 /Textbooks

Reading Activator Basic(卯城 祐司・清水 裕子(著)・ McGraw-Hill社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○マーフィーのケンブリッジ英文法日本語版初級第3版 (マーフィー著・ケンブリッジ大学出版局Y2,680)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 シラバス, 概要説明, 剽窃について
Week 2 Unit 2: Vocabulary in Context
Week 3 Unit 4: Skimming & Scanning
Week 4 Unit 5: Main Idea and Supporting Details (Reading practice)
Week 5 Unit 5: Main Idea and Supporting Details (Writing practice)
Week 6 ライティング課題と機械翻訳について
Week 7 Unit 6: Understanding Structures 1: Time Order & Classification (Time Order)
Week 8 Unit 6: Understanding Structures 1: Time Order & Classification (Classification)
Week 9 Unit 7: Understanding Structures 2: Cause & Effect, Comparison & Contrast (Cause & Effect)
Week 10 Unit 7: Understanding Structures 2: Cause & Effect, Comparison & Contrast (Comparison & Contrast)
Week 11 Unit 8: Number Power (Reading practice)
Week 12 Unit 8: Number Power (Writing practice)
Week 13 Unit 9: Making Inferences
Week 14 Unit 10: Drawing Conclusions
Week 15 Unit 11: Critical Reading

成績評価の方法 /Assessment Method

共通課題：20%
授業内課題及び貢献度：20%
mreader：20%
期末試験：40%

英語 III

(English III)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

あらかじめ日本語の説明文は読んでおくこと。また各自で取ったノートを見直すこと。多読課題は各自で遂行すること。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 辞書を必ず持ってくること。電子辞書・紙辞書・スマートフォンの辞書アプリ、いずれで構わないが、翻訳機を辞書代わりとすることは禁止する。
- ・ 多読課題のレベル上げは自己申告制のため科目責任者に各自で連絡を取ること。その際に氏名と学籍番号、希望レベルを明記しメールをするように。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

シラバスの内容は昨今の情勢に応じて変更する場合があります。その際は初回授業で担当者が説明するので注意してください。

キーワード /Keywords

英語 IV

(English IV)

担当者名 /Instructor プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室, 木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室
クレシーニ リズ / Riz CRESCINI / 非常勤講師, 坂口 由美 / Yumi SAKAGUCHI / 非常勤講師
新貝 フランセス / Frances SHINKAI / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG132F		◎	○		
科目名	英語 IV		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

< 科目の到達目標 >

(知識を活用できる「技能」) 英語のプレゼンテーションで使用される基礎的な表現法と構成を身につける。
(次代を切り開く「思考・判断・表現力」) 様々な情報やデータを英語で分かりやすく伝えることができる。

英語の発表を組み立て、英語を用いた発表技能を学習するとともに、表現力を身につける。グラフや表などの視覚資料を英語で説明できるようになる。

この授業では、以下の3点が重視される。

- 1) 資料を英語でまとめること
- 2) まとめた資料に基づいて英語で発表すること
- 3) 原稿を読まずに英語で発表すること

教科書 /Textbooks

"Building a Presentation in English, 2021", by Roger Prior

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後、各担当教員より指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction; Speaking Speed
Week 2 Class Presentation 1: Timed Presentation
Week 3 Why Give a Presentation?
Week 4 Verbal and Non-Verbal Expression
Week 5 Class Presentation 2: Skits
Week 6 Presentation Structure
Week 7 Using and Explaining Visuals
Week 8 Displaying Data; Presentation Practice
Week 9 Class Presentation 3: Explaining Data
Week 10 Process Presentations
Week 11 Making and Carrying Out a Survey
Week 12 Class Presentation 4: Process Presentation
Week 13 Class Survey
Week 14 Final Presentation: Preparation and Practice
Week 15 Final Presentation: Presenting the Results of Your Survey

英語 IV

(English IV)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 15%
クラス発表 (Class Presentation 1, 2, and 3) 45%
期末発表 (Final Presentation) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎週の予習を怠らないこと。そして発表の準備をする際、グループメンバーと協力し合うこと。

履修上の注意 /Remarks

第1週目から、教科書を必ず持参すること。
グループでプレゼンテーションを行う時、メンバーが全員で準備・発表をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目に積極的に取り組むと、英語だけではなく、母語での発表力の伸長も期待できる。

キーワード /Keywords

発表、プレゼンテーション、表現力

英語 V

(English V)

担当者名 /Instructor 柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室, 木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室
筒井 英一郎 / Eiichiro TSUTSUI / 基盤教育センターひびきの分室, 植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室
許 慧 / Hui XU / 非常勤講師, 國崎 倫 / Rin KUNIZAKI / 非常勤講師
工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG220F		◎	○		
科目名	英語 V		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

< 科目の到達目標 >

- ・ 英語の論理構造を理解して英文を読み、内容をまとめることができる。
- ・ 適切な基本構造を用いて、自分の考えや必要な情報を論理的に表現することができる。

< 科目の目的 >

- ・ 本科目は、さまざまな分野の文章を読み、リーディング力とライティング力を培い、正確な英文を作成できる基本的な文法、語法、表現方法を身につけることを目的とする。本クラスを受講した結果、以下のことができるようになることが期待できる。
- ・ 日本語と異なる英語的口ジックの見分け方を習得できる
- ・ 音読を通して意味チャンクの積み上げを行える
- ・ 目的に応じたスタイルで英語を表現することができる
- ・ 基本的プレゼンテーションスキルを身につけることができる

教科書 /Textbooks

北尾 泰幸「Writing Key」金星堂 (ISBN: 978-4-7647-4086-0)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバスと概要説明
- 2回 Unit 6 Spices for Life! 本文、文法
- 3回 Unit 6 Spices for Life! 作文問題
- 4回 Unit 7 Plastic Planet 本文、文法
- 5回 Unit 7 Plastic Planet 作文問題
- 6回 Unit 8 London Coffee and Lazy Men 本文、文法
- 7回 Unit 8 London Coffee and Lazy Men 作文問題
- 8回 中間課題とまとめ
- 9回 Unit 9 Jacques' Lung 本文、文法
- 10回 Unit 9 Jacques' Lung 作文問題
- 11回 Unit 10 Disease vs. Hunger 本文、文法
- 12回 Unit 10 Disease vs. Hunger 作文問題
- 13回 Unit 13 Popular but Penniless 本文、文法
- 14回 Unit 13 Popular but Penniless 作文問題
- 15回 最終課題とまとめ

英語 V

(English V)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度...10%
課題...30%
小テスト...20%
試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次時の教材を十分予習し、段落構成、トピック、主張の拠り所、具体例など構造を分析すると同時に、未知語の調査、要約、予習指示問題を済ませておくこと。また授業後には、ノートを整理しその時間の学習内容を十分理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

各課の学習としてユニットごとに内容理解を課題として課すので、単語熟語の下調べと段落ごとの概要をまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語 VI

(English VI)

担当者名 /Instructor クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室, プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室
木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室, クレシーニ リズ / Riz CRESCINI / 非常勤講師
新貝 フランセス / Frances SHINKAI / 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG230F		◎	○		
科目名	英語 VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「科目の到達目標」

(知識を活用できる技能) 様々なテーマに触れながら、大学生としてふさわしい聞く力・話す力を身につける。

(時代を切り開く思考・判断・表現力) 様々な情報やデータを活用し、自分の意見を論理的に述べることができる。

「科目の目的」

この授業では、スピーチやプレゼンテーションを通して、日本語と英語で自分の意見を発言できる力を身につける。大学生としてふさわしい社会的なテーマについて様々な場面で話せるようになることを目標とする。

具体的には以下の5項目に目標を定める。

「意見」とは何かを考える。

日本語で比較プレゼンテーションをする。

英語で比較プレゼンテーションをする。

日本語で社会問題について説得力があるプレゼンテーションをする。

英語でその社会問題についてプレゼンテーションをする。

教科書 /Textbooks

教員が必要な資料を用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後、必要に応じて指示する。

英語 VI

(English VI)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Course Schedule
Week 1: Course Introduction
Week 2: What is a speech? Japanese Speech
Week 3: Facts and Opinions--English Speech
Week 4: Presentation Structure--Attention Getter and Introduction
Week 5: Mini-presentation (Attention Getter and Introduction)
Week 6: Presentation Structure--Body and Conclusion
Week 7: Mini-presentation (Body and Conclusion)
Week 8: Comparative Presentations-Introduction
Week 9: Comparative Presentations--Japanese
Week 10: Comparative Presentations--English
Week 11: Review
Week 12: Persuasive Presentations--Introduction
Week 13: Persuasive Presentations--Japanese
Week 14: Final Persuasive Presentations--English
Week 15: Final Persuasive Presentations--English

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 (20%)
プレゼンテーション (50%)
期末プレゼンテーション (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習を前提に授業をすすめるので、必ず自宅学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語 VII

(English VII)

担当者名 /Instructor 柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG240F		◎	○		

科目名	英語 VII
-----	--------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

- < 科目の到達目標 >
- ・ 英語 VII 「Integrated English Learning」コース (担当：柏木哲也) では以下のことを到達目標とする
 - ・ 興味ある分野について、英語で書かれた文書を正しく理解し、その特徴を分析することができる。
 - ・ 適切なフォーマットを用いて、自分の考えや必要な情報を発信することができるようにする。
- < 科目の目的 >
- ・ 4技能統合型の授業形態により、基本的な文法、語法の学習を基に、英語学習4技能の調和的向上を図る。本クラスを受講した結果、以下のことができるようになることが期待できる。
 - ・ 様々な分野のリスニングやリーディング教材を通して、英語の言語的形態とロジックを学び、日本語との違いを理解することができるようになる
 - ・ ライティングやプレゼンテーションを交えて発信型の英語のノウハウ身につけることができる
 - ・ 音読の仕方、チャンクの切り方、ロジカルコネクターの意義を理解し、読むことと書くことを有機的に関連付け、目的に応じた英語表現ができるようになる。

教科書 /Textbooks

Amazing Visions of the Future – Aspects of Human Activity (南雲堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 シラバスと概要説明
- 2 回 Unit 6 Shodo (Listening, Reading)
- 3 回 Unit 6 Shodo (Writing, Speaking)
- 4 回 Unit 9 Studying Abroad (Listening, Reading)
- 5 回 Unit 9 Studying Abroad (Writing, Speaking)
- 6 回 Unit 11 The Sound of the Saxophone (Listening, Reading)
- 7 回 Unit 11 The Sound of the Saxophone (Writing, Speaking)
- 8 回 中間課題とまとめ
- 9 回 Unit 12 Communication Tips (Listening, Reading)
- 10 回 Unit 12 Communication Tips (Writing, Speaking)
- 11 回 Unit 14 Electric Cars (Listening, Reading)
- 12 回 Unit 14 Electric Cars (Writing, Speaking)
- 13 回 Unit 15 The Amazing Brain (Listening, Reading)
- 14 回 Unit 15 The Amazing Brain (Writing, Speaking)
- 15 回 最終課題と総まとめ

英語 VII

(English VII)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度...10%

課題...30%

小テスト...20%

試験...40%

※なお、英語VII科目全体で成績の調整を行うことがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次時の教材を十分予習し、段落構成、トピック、主張の拠り所、具体例など構造を分析すると同時に、未知語の調査、要約、予習指示問題を済ませておくこと。また授業後には、ノートを整理しその時間の学習内容を十分理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

各課の予習としてユニットごとに内容理解を課題として課すので、単語熟語の下調べと段落ごとの概要をまとめておくこと。

英語VIIでは異なるコースが複数開講されます。1学期に「ひびきの英語学習ポータル」で受講希望の事前調査が行われ、バッジ取得状況を加味したうえで、最終的に受講するコースが決定されます。授業が始まる前に、クラス分けの掲示を確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語 VII

(English VII)

担当者名 / Instructor 植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 / Year 2年次 / 2 Year 単位 / Credits 1単位 / 1 Credit 学期 / Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 / Class Format 講義 / Lecture クラス / Class

対象入学年度 / Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 / Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG240F		◎	○		

科目名	英語 VII
-----	--------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 / Course Description

< 科目の到達目標 >

(知識を活用できる技能) 興味ある分野について、英語で「書かれた 文書を正しく理解し、その特徴を分析することが「できる」。
(次代を切り開く思考・判断・表現力) 適切なフォーマットを用いて、自分の考え や必要な情報を発信することが「できる」。

< 科目の目的 >

英語VII「英語学入門」(担当者：植田正暢) では、日頃、コミュニケーションの道具として使用している英語という言語そのものに光を当て、通時的・共時的にその姿を捉え、英語の特徴を理解することを目的とする。この授業を受けた結果、次のことができるようになることが期待される。

- ・ 英語がなぜ世界語として用いられているようになったのかという歴史的な理由や現在の英語の姿が形成されてきた過程を説明できる。
- ・ 日本語との比較をとおして英語の音韻上の特性を理解し、英語の音韻構造を説明できる。また、知識を活用し、英語らしい発音ができる。
- ・ 日本語との比較をとおして英語の統語的な特徴を理解し、実際の文を用いて統語構造を図解することができる。
- ・ 英語の語・句・文の意味がどのようなメカニズムによってもたらされているのかを理解し、自ら採取した日常的な表現を用いて説明することができる。

教科書 / Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Akmajian, A. et al. 2017. Linguistics: An Introduction to Language and Communication 7th ed. MIT Press.
 ○Bragg, M. 2003. The Adventure of English: The Biography of a Language. Sceptre. (ブラッグ,メルヴィン. 2008. 『英語の冒険』講談社学術文庫.)
 ○Crystal, D. 2002. The English Language: A Guided Tour of the Language. Penguin.
 ○Crystal, D. 2018. The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 3rd ed. Cambridge University Press.
 長谷川瑞穂 (編著) 2014. 『はじめての英語学』改訂版. 研究社.
 Kövecses, Z. 2010. Metaphor: A practical introduction, 2nd ed. Oxford University Press.
 Roach, P. 2009. English Phonetics and Phonology, 4th ed. Cambridge University Press. (図書館に旧版あり)
 清水由美. 2018. 『日本語びいき』中公文庫.
 鈴木孝夫. 1990. 『日本語と外国語』岩波新書.
 田中克彦. 1981. 『ことばと国家』岩波新書.
 Taylor, J. R. 2003. Linguistic Categorization, 3rd. ed. Oxford University Press.
 Yule, George. 2020. The Study of Language, 7th ed. Cambridge University Press. (図書館に旧版あり)

英語 VII

(English VII)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コースの紹介、なぜ英語を学ぶのか？
2. 世界語としての英語
3. さまざまな英語
4. 英語史入門：昔の英語と今の英語
5. 発音とつづりの不一致について
6. シェークスピアと聖書の英語
7. 日本語と英語の音声学的、音韻論的特徴
8. 英語のリズム実践
9. 英語の統語構造（基礎）
10. 統語構造の分析（実践）
11. 意味論入門
12. カテゴリー論入門：orangeはオレンジ色か？
13. メタファー入門：「別々の道を歩む」が意味すること
14. 語用論入門
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートなどの提出課題（4回）：60%、予習課題：20%、復習課題：20%
（なお、英語VII科目全体で成績の調整を行うことがあります）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

第6週、第8週、第10週、第13週に授業で学んだことを実践する以下の課題（評価の60%に相当）を出す予定である。また、授業で学んだ内容を定着させるために小テストや宿題（評価の40%に相当）も課す予定であるので、必ず取り組むこと。

第6週の課題：現在英語と英語史に関するお持ち帰りテスト

第8週の課題：英語のリズム課題に挑戦（Flipgridビデオ）

第10週の課題：英語の統語構造の分析（レポート）

第13週の課題：メタファーの分析（レポート）

履修上の注意 /Remarks

英語VIIでは異なるコースが複数開講されます。1学期に「ひびきの英語学習ポータル」で受講希望の事前調査が行われ、バッジ取得状況を加味したうえで、最終的に受講するコースが決定されます。授業が始まる前に、クラス分けの掲示を確認してください。

対面授業を予定しているが、第7回および第8回の授業は発音指導を伴うため、新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンラインで実施する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学、言語学

英語 VII

(English VII)

担当者名 /Instructor 筒井 英一郎 / Eiichiro TSUTSUI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG240F		◎	○		

科目名	英語 VII
-----	--------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

<科目の到達目標>

- ・ (知識を活用できる技能) 興味ある分野について、英語で書かれた文書を正しく理解し、その特徴を分析することができる。
- ・ (時代を切り開く思考・判断・表現力) 適切なフォーマットを用いて、自分の考えや必要な情報を発信することができる。英語のパラグラフ構造を理解して英文を読み、内容をまとめることができる。

<科目の目的>

英語VII「Pop Culture and Media」コース(担当: 筒井英一郎)では、ニュース、洋楽、洋画、洋書、オンライン動画などの媒体で使われている英語を理解・考察・評価し、実用的な英語運用の観点から、四技能を統合的に扱うと同時に、対話を通して他者の考えを踏まえながら、自分の考えを発信する力を育む。以下の3点を到達目標とする。

1. 興味ある分野について、英語で書かれた文書を正しく理解し、その特徴を分析することができる。
2. 適切なフォーマットを用いて、自分の考えや必要な情報を発信することができる。興味関心のある内容の英文を、レベルに応じた速度で、読解および聴解することができる。
3. 他者との学びあいを通して、英語での内容を深く理解し、他者の意見を踏まえながら、共同作業を通して、英語で情報を発信することができる。

教科書 /Textbooks

Communicate in English with The Devil Wears Prada/『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語
(著者) Aline Brosh McKenna, 角山照彦, and Simon Capper (本体2,200円+税) 松柏社
ISBN: 978-4-88198-712-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する

英語 VII

(English VII)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 オリエンテーション
Week 2 Unit 1: Job Interview
Week 3 Unit 2: First Day on the Job
Week 4 Unit 3 Hurricane on the Weekend
Week 5 Unit 4: Andy's Makeover
Week 6 Unit 5: Andy Meets Christian
Week 7 Unit 6: Miranda's Request
Week 8 中間まとめ
Week 9 Unit 7: Nate's Birthday
Week10 Unit 8: Andy's Decision
Week11 Unit 9: Breakup with Nate
Week12 Unit10: The Dream Job
Week13 Unit11: Announcement at the Party
Week14 Unit12: Andy's Final Choice
Week 15 学期末まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストや授業内活動：50点
中間まとめ課題（スピーキング課題）：20点
最終まとめ課題（ライティング課題）：30点
なお、英語VII科目全体で成績の調整を行うことがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「授業計画・内容」にある各題材の語彙調べと内容理解は事前に行っておき（小テスト）、事後学習として、題材の内容を要約して書き留めておく（レポート）こと。

履修上の注意 /Remarks

英語VIIでは異なるコースが複数開講されます。1学期に「ひびきの英語学習ポータル」で受講希望の事前調査が行われ、バッジ取得状況を加味したうえで、最終的に受講するコースが決定されます。授業が始まる前に、クラス分けの掲示を確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語 VII

(English VII)

担当者名 /Instructor 木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
学期 /Semester 2学期 / 2 Semester
授業形態 /Class Format 講義 / Lecture
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19 ~) , 機械システム工学科 (19 ~) , 情報システム工学科 (19 ~) , 建築デザイン学科 (19 ~) , 環境生命工学科 (19 ~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG240F		◎	○		

科目名	英語 VII
-----	--------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

<科目の到達目標>

- ・ 興味ある分野について、英語で書かれた文書を正しく理解し、その特徴を分析することができる。
- ・ 適切なフォーマットを用いて、自分の考えや必要な情報を発信することができる。

英語VII「English corpus linguistics」コース (担当：木山直毅)

これまで英語の学習は語彙リストや既存の練習問題を解くといった学習方法をしてきたが、アカデミックな方面に進むためには自らの用途に合った語彙リストなどを作成し、目的に応じてその語彙リストを使っていく必要がある。また実際のデータを分析しながら、言葉がどのように使用されるのかを考えていく。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ベーシックコーパス言語学 (著：石川慎一郎)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: ガイダンス、剽窃について
- Week 2: コーパスとはなにか
- Week 3: Google検索と英語学習
- Week 4: 汎用コーパスを使う:COCAの登録と概要
- Week 5: 汎用コーパスを使う:COCAで単語を調べる
- Week 6: 汎用コーパスを使う:COCAでコロケーションを調べる
- Week 7: 汎用コーパスを使う:COCAで高度な検索をする
- Week 8: 中間テスト1
- Week 9: 自作コーパスを分析する:KH coderの使い方
- Week 10: 自作コーパスを分析する:コロケーションの強さを測る
- Week 11: 自作コーパスを分析する:語とコーパスの関係を見る
- Week 12: 中間テスト2
- Week 13: 自作コーパスの注意点
- Week 14: 期末発表の準備
- Week 15: 期末発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 20% 中間テスト25% 発表 30% 課題25%
なお、英語VII科目全体で成績の調整を行うことがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

使用するコーパス及び分析ツールのインターフェイスに慣れること。

英語 VII

(English VII)

履修上の注意 /Remarks

- ・ 参考書は授業中に受講生の理解状況にあわせて参照する予定である。また自宅で課題を行うためにはソフトウェアを導入できるコンピュータが必要である（ただし必ずしも授業に持参する必要はない）。
- ・ 重要な概念や用語などは各自で自主的にノートを取れるようになること。原則として教員からノートをとる指示はしない。
- ・ 毎回、辞書を持つてくること。電子辞書・紙辞書・スマートフォンの辞書アプリ、いずれで構わないが、翻訳機を辞書代わりとすることは禁止する。

※※※※※※※※

英語VIIでは異なるコースが複数開講されます。1学期に「ひびきの英語学習ポータル」で受講希望の事前調査が行われ、バッジ取得状況を加味したうえで、最終的に受講するコースが決定されます。授業が始まる前に、クラス分けの掲示を確認してください。

※※※※※※※※

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ Windowsでしか動かないアプリケーションを使用します。Macユーザも使用できますが、授業の後半までにWindowsを導入しておく必要があります。Boot campを利用すれば無料で使用できます。

キーワード /Keywords

英語 VII

(English VII)

担当者名 /Instructor クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
学期 /Semester 2学期 / 2 Semester
授業形態 /Class Format 講義 / Lecture
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG240F		◎	○		

科目名	英語 VII
-----	--------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

英語VII「言語と文化理解」コース (担当：アン・クレシーニ)

「科目の到達目標」

(知識を活用ができる技能) 興味ある分野について、英語で書かれた文書を正しく理解し、その特徴を分析することができる。

(時代を切り開く思考・判断・表現力) 適切なフォーマットを用いて、自分の考えや必要な情報を発信することができる。

「科目の目的」

多文化を理解するために、言葉はもちろん大事です。けれど、それは、十分ではありません。この授業では、言葉とリンクしている文化、そして、その文化を支える世界観について考えます。授業担当教員のアン・クレシーニの西日本新聞の連載、「アンちゃんの日本GO!」の記事を資料として、言葉と文化と世界観の繋がりを探求します。

具体的には以下の3項目に目標を定める。

多文化を理解するたための必要なことを考える。

自ら多文化の世界観を考えて、意見や感想を英語で話せるようになる。

多文化の価値観、世界観、文化などについて英語で発表できるようになる。

教科書 /Textbooks

To be distributed in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

To be announced in class.

英語 VII

(English VII)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Class Introduction
Week 2: What is culture? What is worldview?
Week 3: Family (Discussion)
Week 4: Childrearing (Report #1)
Week 5: Customs (Presentation #1)
Week 6: Language (Discussion)
Week 7: Language (Discussion, Report #2)
Week 8: Midterm Review
Week 9: Religion (Discussion)
Week 10: Food Culture (Discussion, Presentation #2)
Week 11: Work (Discussion)
Week 12: Holidays (Discussion, Presentation #3)
Week 13: Sports (Discussion, Report #3)
Week 14: Final Presentations
Week 15: Final Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Reports--40%
Presentations--30%
Final Presentation--30%
なお、英語VII科目全体で成績の調整を行うことがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to do all necessary preparations for class.

履修上の注意 /Remarks

英語VIIでは異なるコースが複数開講されます。1学期に「ひびきの英語学習ポータル」で受講希望の事前調査が行われ、バッジ取得状況を加味したうえで、最終的に受講するコースが決定されます。授業が始まる前に、クラス分けの掲示を確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語 VII

(English VII)

担当者名 /Instructor プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG240F		◎	○		

科目名	英語 VII
-----	--------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

< 科目の到達目標 >
(知識を活用できる「技能」) 興味ある分野について、英語で書かれた文書を正しく理解し、その特徴を分析することができる。
(次代を切り開く「思考・判断・表現力」) 適切なフォーマットを用いて、自分の考えや必要な情報を発信することができる。

英語 VII 「Logical Debate」コースでは (担当 : ロジャー・プライア) では、自分の意見を述べるだけでなく、相手の主張に対しても反論する。この授業では、様々な課題について英語で情報収集し、自分の意見をでまとめ、説得力をもって論理的に説明する。また、英語でディベートをする際に用いられる基本的な表現や語彙を学ぶとともに、必要なストラテジー (戦略) とロジック (論理) も学習する。特に後半では、自分の意見や考えを発表で述べるほかに、相手の論点に対して反駁する方法を重視する。

教科書 /Textbooks

教員による配布資料

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ “Pros and Cons: a Debater’s Handbook”, ed. by Trevor Sather (Routledge)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction: Types of Opinion
- 第 2 回 Opinion and Reasons; Precise Reasoning and Supports
- 第 3 回 Practice Affirmative Speech
- 第 4 回 Debate an Opinion of “Fact”
- 第 5 回 Class Speech 1: Affirmative Speech (Opinion of Fact)
- 第 6 回 The Negative Speech
- 第 7 回 Preparing a Negative Speech: Establishing an Opposing Stance
- 第 8 回 Class Speech 2: Negative Speech (Opinion of Value)
- 第 9 回 Rebutting Reasons
- 第 10 回 Rebutting Supports
- 第 11 回 Constructing a Rebuttal Speech
- 第 12 回 Class Speech 3: Full Rebuttal Speech
- 第 13 回 Preparation for the Final Debate
- 第 14 回 Final Debate Speech 1: Affirmative Speech
- 第 15 回 Final Debate Speech 2: Rebuttal Speech

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework Tasks 20%
Class Speeches 40%
Final Debate 40%

なお、英語 VII 科目全体で成績の調整を行うことがあります。

英語 VII

(English VII)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎週指定された予習と復習を行うこと。特に、スピーチのために、自発的に様々な資料を調べ、自分の意見をまとめてくることが第一前提だ。事前準備をしない学生は、授業についていけなくなるおそれがある。

履修上の注意 /Remarks

英語VIIでは異なるコースが複数開講されます。1学期に「ひびきの英語学習ポータル」で受講希望の事前調査が行われ、バッジ取得状況を加味したうえで、最終的に受講するコースが決定されます。授業が始まる前に、クラス分けの掲示を確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人前で上手に話ができるようになりたいという学生は、是非このコースを受けて見て下さい。

キーワード /Keywords

ディベート、発表、コミュニケーション

英語 VII

(English VII)

担当者名 /Instructor クレシーニ リズ / Riz CRESCINI / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG240F		◎	○		

科目名	英語 VII
-----	--------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

英語 VII 「The Arts and Culture Through English」コース (担当：リズ・クレシーニ)

This course is for students who are interested in studying English through culture and the arts. Culture refers to human activity and much of human activity is expressed through the arts. The arts are divided into three parts: visual arts, literary arts, and the performing arts. Students are able to have confidence in speaking, writing, and thinking in English by studying the arts found in many cultures around the world.

教科書 /Textbooks

Class materials are provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction
Week 2 Introduction to the Performing Arts: Music
Week 3 Dance
Week 4 Theatre
Week 5 Introduction to the Visual Arts: Painting
Week 6 Photography
Week 7 Film
Week 8 Anime; Explanation of the Final Project
Week 9 Introduction to the Literary arts: Fiction
Week 10 Manga
Week 11 Poetry
Week 12 Prose
Week 13 Summary
Week 14 Final project: Preparation and Practice
Week 15 Final Project: Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

Quizzes: 10%
Homework: 10%
Class Presentation: 40%
Final Presentation: 40%

なお、英語 VII 科目全体で成績の調整を行うことがあります。

英語 VII

(English VII)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to bring the following to class each week:

- 1 File or Folder (Class prints and materials go in here)
- 2 B5 loose leaf paper
- 3 A4 Notebook

履修上の注意 /Remarks

To do well in this class, students are expected to attend classes. They are also expected to work hard as a group.

英語 VII では異なるコースが複数開講されます。1学期に「ひびきの英語学習支援ポータル」で受講希望の事前調査が行われ、バッジ取得状況を加味した上で、最終的に受講するコースが決定されます。授業が始まる前に、クラス分けの掲示を確認して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will study English in the context of culture and the arts. This will allow you to use English in a wide variety of situations.

キーワード /Keywords

culture, arts, English

英語 VII

(English VII)

担当者名 /Instructor 國崎 倫 / Rin KUNIZAKI / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG240F		◎	○		

科目名	英語 VII
-----	--------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

< 科目の到達目標 >
(知識を活用できる「技能」) 興味ある分野について、英語で書かれた文書を正しく理解し、その特徴を分析することができる。
(次代を切り開く「思考・判断・表現力」) 適切なフォーマットを用いて、自分の考えや必要な情報を発信することができる。

英語VII「English for Literature and Culture」(担当：國崎倫)では、16・17世紀英国初期近代の社会と文化を背景とする文学作品を読み、映像や、当時の印刷物などの資料とともに解釈、批評していく。さらに、現代における需要と翻案についても考察する。文学が文化や社会と密接な関係にあることを読み解き、多文化理解へと役立てることができる。現代英語に至るまでの英語の成り立ちを学ぶことができる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
Calligraphy：資料を読む（宗教・寓話）（1）短い作品2点を読む
- 第2回 Calligraphy：資料を読む（宗教・寓話）（2）短い作品2点を読む
16・17世紀イギリス社会と劇作家（ウィリアム・シェイクスピア）について
- 第3回 『ロミオとジュリエット』（1）：原書と翻案を読む
- 第4回 『ロミオとジュリエット』（2）：原書と翻案を読む
- 第5回 『ロミオとジュリエット』（3）：原書と翻案を読む
- 第6回 『マクベス』（1）：原書と翻案を読む
- 第7回 『マクベス』（2）：原書と翻案を読む
- 第8回 『マクベス』（3）：原書と翻案を読む
- 第9回 『ハムレット』（1）：原書と翻案を読む
- 第10回 『ハムレット』（2）：原書と翻案を読む
- 第11回 『ハムレット』（3）：原書と翻案を読む
- 第12回 『ヴェニスの商人』（1）：原書と翻案を読む
- 第13回 『ヴェニスの商人』（2）：原書と翻案を読む
- 第14回 『ヴェニスの商人』（3）：原書と翻案を読む
- 第15回 ヘンリー二世とロザモンド：材源（16・17世紀）とアダプテーション（18世紀）の比較

成績評価の方法 /Assessment Method

毎授業時における課題・提出物 50%

レポート 50%

なお、英語VII科目全体で成績の調整を行うことがあります。

英語 VII

(English VII)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、課題を配布します。毎回、指定された予習・復習をすること。予習をしないと授業についていけなくなる可能性があります。

履修上の注意 /Remarks

英語VIIでは異なるコースが複数開講されます。1学期に「ひびきの英語学習ポータル」で受講希望の事前調査が行われ、バッジ取得状況を加味したうえで、最終的に受講するコースが決定されます。授業が始まる前に、クラス分けの掲示を確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

質問などがある場合は、授業中はもちろんですが、メールでも構いません。

キーワード /Keywords

文化、社会、文学、イギリス

環境物理学

(Environmental Physics)

担当者名 /Instructor 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV110M	◎				
科目名	環境物理学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

地球温暖化、土壌劣化・汚染、水汚染、放射性廃棄物、地盤沈下等の環境問題を考えるうえで基礎となる物理学の基礎を学ぶことを目的とする。また、環境問題の概要を理解する目的から様々な環境問題の現状についても講義を行う。難解な物理学を避け、土の力学、水理学、水文学、伝熱を取り上げ、入門編として学習する。本授業によって、「環境（主に水環境、土壌環境、廃棄物、放射線、熱環境など）に関する基礎的な知識を身につける」ことを到達目標とする。
本講義は、遠隔授業（オンデマンド方式；Moodle）で実施する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス, 単位 (SI単位、次元解析)
- 環境問題I (土と科学)
- 土の力学I (土の基本的性質、土の粒度)
- 土の力学II (土の透水性、有効応力、圧密)
- 環境問題II (廃棄物処理・処分)
- 水理学I (液体の性質-密度、表面張力-、静水圧)
- 水理学II (連続の式、沈降、粘性、層流と乱流)
- 中間演習
- 環境問題III (地球温暖化)
- 水文学I (水循環、水収支、降水、蒸発散)
11. 水文学II (地表水、地下水、流出モデル)
12. 環境問題IV (放射線の科学)
13. 伝熱 (フーリエの法則、熱伝導方程式)
14. まとめ (環境倫理学)
15. 後半演習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習点 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容、特に授業中に実施する演習問題の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

関数電卓を準備すること。

環境物理学

(Environmental Physics)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境物理学を土、水、熱、放射線の視点から学びます。

キーワード /Keywords

電気工学基礎

(Introduction to Electrical Engineering)

担当者名 /Instructor 岡田 伸廣 / Nobuhiro OKADA / 機械システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 機械システム工学科 (19~) 【選択】 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EIC100M	◎				
科目名	電気工学基礎			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

工学部で知っておいてもらいたい電気工学の基礎知識の習得を目標とします。
身の周りで使われている電気電子技術、電気機械など、実際に皆さんが目にしたり手に触れたりしている事柄を中心に解説します。
科目の到達目標は以下の通りです。
豊かな「知識」： 工学部学生として必要な電気工学に関する基礎知識を総合的に身につけている。
知識を活用できる「技術」： 電気工学に関する知識を身の周りおよび他の分野で活用できる。

教科書 /Textbooks

講義内で適宜資料を提示・プリントを配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ハンデブック 電気(改訂2版)」, 桂井誠, オーム社, 2005年
「図解 電気工学入門」, 佐藤一郎, 日本理工出版会, 1998年
など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN, 電気とは
- 第2回 直流回路の電流・電圧と抵抗
- 第3回 直流回路の抵抗回路と電力
- 第4回 電流の磁気作用
- 第5回 電磁誘導
- 第6回 交流
- 第7回 三相交流
- 第8回 中間まとめ演習
- 第9回 電気計測
- 第10回 電気機器
- 第11回 電動機(モータ)
- 第12回 その他の電気器具・電気材料
- 第13回 電気応用
- 第14回 電子回路
- 第15回 まとめ演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，まとめ演習：10%。遅刻・欠席は減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前日までに前回までの講義内容を用いて十分に予習を行い、授業後には講義中の例題を自分で解いたり自主的に参考書類の演習問題を解いて復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

予習復習は必須です。妥当な理由のない欠席が6回以上で、期末試験の成績にかかわらず不可とします。20分以上の遅刻・早退は欠席とします。

電気工学基礎

(Introduction to Electrical Engineering)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

電気機器は身の周りにあふれており、それなしに私たちの生活はままなりません。また、工学部で使用する様々な機器は電気を利用して動き、コントロールされています。一方で、正しい使い方をしなければ、様々な危険の原因にもなります。工学部の技術者として、基本的な電気の知識を身につけてください。

キーワード /Keywords

直流，交流，電気機器，モータ

力学基礎

(Dynamics)

担当者名 /Instructor 水井 雅彦 / Masahiko MIZUI / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHY190M	◎				

科目名	力学基礎	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	------	---

授業の概要 /Course Description

力学にて、物体の運動を説明・予測するための基礎を学びます。

工学では運動する物体に対して、「速く動かしたい」また「静止させたい」などの要求に応えなければならないことが多くあります。

そこで、現象を数式でモデル化することで説明し、数式を解くことで現象を予測する手法を学びます。

本講義の目的は、力と物体の運動の関連を理解し、さらに工学系専門科目で必須となる数式を用いて現象を表現する定量的な考え方を学ぶことです。

【到達目標】

豊かな「知識」：力学に関する基盤となる知識を体系的かつ総合的に身につけている。

教科書 /Textbooks

グラフィック講座
力学の基礎
和田純夫 著

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

基礎から実践まで理解できる
ロボット・メカトロニクス
山本郁夫・水井雅彦

力学基礎

(Dynamics)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 物理量と単位
- 第2回 速度と位置 (微分積分の関係)
- 第3回 加速度
- 第4回 等加速度運動
- 第5回 運動方程式と力
- 第6回 色々な力 (抗力, 張力, 摩擦力, 抵抗力)
- 第7回 等速円運動
- 第8回 微分方程式と力学
- 第9回 力学の活用 (ロボットと歩行)
- 第10回 運動量 (力積)
- 第11回 運動エネルギーと位置エネルギー
- 第12回 エネルギーと運動量
- 第13回 エネルギー保存の法則
- 第14回 衝突と万有引力
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 100%, 欠席は減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画を参考に, 教科書を用いた事前学習を推奨します。
方眼ノートを推奨します。
事後学習では,
動画サイトなどで紹介される実験例などの閲覧し,
内容理解に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

高校で物理と微積分を学んだ受講生は, 高校での教科書を参考書に用いることを推奨します。
それ以外の受講者も,
はじめから学びますので苦手意識なく受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

我々が楽しむコンピュータゲームも, 力学の応用で動いています。
「数」を用いて現象を表現する方法を学びましょう。

キーワード /Keywords

力学, シミュレーション, 物理

環境情報学概論

(Introduction to Environmental Informatics)

担当者名 情報システム工学科全教員 (○学科長)
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)
/Department

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100M	◎				

科目名	環境情報学概論	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	---------	---

授業の概要 /Course Description

情報通信ネットワーク、制御システム、マルチメディア信号処理の設計、感知メカニズム、電子機器やその部品となる集積回路及びそれらを動かすソフトウェアの設計など、様々な情報技術の応用事例を学び、情報技術を広く俯瞰できることを目的とする。講義内容は、新入生や情報システム工学科以外の学生向けの導入レベルとする。

教科書 /Textbooks

担当教員の指示したもの

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当教員の指示したもの

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 15週のうち、最初の1週はガイダンスを実施する。
- 2週目以降は、通信、ネットワーク、システム制御、信号処理、人工知能、セキュリティ、感知メカニズム、生体情報処理、集積回路、ソフトウェアに関する分野から応用事例の紹介をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み態度 (30%)
レポート (70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の情報技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新入生や情報システム工学科以外の学生にもわかりやすい授業内容です。

キーワード /Keywords

情報技術、画像処理、人工知能、セキュリティ、データ解析、集積回路、生体情報処理、システム制御、ネットワーク、ソフトウェア

認知心理学

(Cognitive Psychology)

担当者名 /Instructor 中溝 幸夫 / Sachio NAKAMIZO / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY240M	◎				
科目名	認知心理学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

- ◆認知心理学は、文系理系にまたがる学際科学であり、その中には脳の科学、心理学、情報科学、言語学、文化人類学、哲学などが含まれています。その目的は、人間・動物の<脳と心>の仕組みを科学的に理解することです。
- ◆本講義では、心理学と脳科学を主な内容として、皆さんにとってはおそらく未知の世界である脳と心の仕組みについて講義します。中でも情報入力系である<感覚・知覚>、情報貯蔵系である<記憶>、行動変容系である<学習>、情報通信系である<言語>など認知心理学のトピックを脳科学の知見を交えながら講義します。
- ◆授業のねらいは、認知心理学がどんな方法で、どんな知識が得られているかを自分のことばで説明できることです。心という目に見えない“主観的な世界”を、科学的に探究するということは何を意味しているのか、それは果たして科学と呼べるのか...、読心術や占いとはどこがどう違うのか...、認知心理学は科学の歴史の中でどのようにして生まれたのか...、このような疑問に皆さんが答えることができるような知識と思考能力を身につけてもらうことがこの講義における私の“仕事”です。
- ◆授業では、いろいろな方法で皆さんが授業に参加でき、考えながら学べるような工夫をしています。例えば、心理学実験や観察を行って、結果を出し、それを認知心理学の理論ではどう説明するかを実際に体験してもらいます。

教科書 /Textbooks

教科書は使いません。毎回の授業でプリントの資料とパワーポイントのスライドを使って講義します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、授業の最初に「読書案内」で説明します。
授業では、それぞれのトピックに適切な文献を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 認知心理学とはどんな授業なのか？ - 授業のオリエンテーション
- 2回目 科学とは何かー認知心理学は科学なのか？
- 3回目 認知心理学（「脳と心の科学」）はどのように誕生したのか？ <科学の歴史と心理学誕生のドラマ>
- 4回目 見る仕組みとは？- 目・脳・視覚の話
- 5回目 2つの眼で見る一つの世界とは？ - 視覚とサイクロピアンの話
- 6回目 3D映画はなぜ立体的に見えるのか？ - 立体視の話
- 7回目 君はなぜアルファベットが読めるのか？ - パターン認知の話
- 8回目 中間試験
- 9回目 君は自宅から教室までどうやって来たのか？ - 脳内GPS(認知地図)の話
- 10回目 君は昨日のことをどうやって思い出せるのか？ - 記憶システムの話
- 11回目 「頭のよさ」とは一体、何か？ - 知能の話
- 12回目 台所器具はなぜしゃべるのか？- デザインの認知心理学
- 13回目 君はなぜ同じ座席に座るのか？ - テリトリー行動の話
- 14回目 ヒトはどのように進化してきたか？ - 脳と心の進化の話
- 15回目 AIは人間の知能を超えるのか？ - 認知心理学の近未来の話

認知心理学

(Cognitive Psychology)

成績評価の方法 /Assessment Method

2回の試験成績(中間:30%、期末:30%、合計:60%)

毎回の授業課題・授業コメント(40%)

以上を総合して、成績評価を行います。試験だけではなく授業課題を重視しています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、授業計画を見て、次回の授業を調べ、参考文献などで授業内容の予習をしてください。

事後学習は、その回の授業を振り返り、講義資料を読み返したり、授業課題、宿題をやってください。

ビデオレポートを3回、課しますので、レポートを書くことによって、復習してください。

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業を重視しています。そのために、毎回、授業課題(クエッション・カード)を解いたり、実験観察してもらいます。また授業課題は授業外学習(家庭学習)としても行ってもらい、ビデオレポートも授業外で書いてもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学で<学ぶ>とは、単に知識・スキルを習得するだけではなく、それらを使って自分で疑問を持ち、問題を発見し、それを解決するために実践し、最終的に問題を解決することができるような<知力>を身に付けることだ!そのためにこれまで試験勉強し、大学では高い学費を払い、授業に出席しているのだ...ということを忘れないでほしい。私は、君たちのそういう努力を最大限、サポートしたいと思っています。

キーワード /Keywords

大学での<学び>、脳と心の科学、認知心理学、科学史の中の心理学、感覚・知覚・認知、学習、言語活動、頭の中の地図(認知地図)、感情(情動)

一般物理学・演習

(General Physics and Exercises)

担当者名 藤山 淳史 / Atsushi FUJIYAMA / 環境生命工学科 (19~)
/Instructor

履修年次 1年次 単位 3単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 【必修】 環境生命工学科 (19~)
/Department

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHY103M	◎	○			

科目名	一般物理学・演習	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	----------	---

授業の概要 /Course Description

物理学は理系の学生にとって必須の教養科目であり、自然科学の中でも基礎的な学問の一つです。一般物理学・演習では、環境生命工学科の工学基礎科目、ならびに専門科目の理解度、習熟度を高めることを目的として、これに特化したカリキュラム内容で物理学の基礎を学習します。

【到達目標】

- ・ 豊かな「知識」：物理学の基礎となる知識を体系的かつ総合的に理解している。
- ・ 知識を活用できる「技能」：現実の問題に物理学を適用する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

小林賢・金長正彦・上田晴久 編、安西和紀・五十鈴川和人・鈴木幸男・八木健一郎 著「わかりやすい薬学系の物理学入門」（講談社、2015）2,800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ファイマン「ファイマン物理学<1>-<5>」（岩波書店 1986）
和田純夫、大上雅史、根本和昭「単位が分かると物理が分かる」（ベレ出版 2014）
廣岡秀明「大学新入生のための物理入門（第2版）」（共立出版 2012）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 物理学の基本概念と理解度試験
- 第2回 運動と力（高校までの復習）
- 第3回 運動と力：力学
- 第4回 運動と力：運動学
- 第5回 エネルギー（高校までの復習）
- 第6回 エネルギー：仕事・力学的エネルギー保存の法則
- 第7回 エネルギー：熱力学
- 第8回 中間試験
- 第9回 波動・光（高校までの復習）
- 第10回 波動
- 第11回 光
- 第12回 電場と磁場、電気回路（高校までの復習）
- 第13回 電場と磁場
- 第14回 電気回路
- 第15回 量子化学入門とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の授業への取り組み 20%
レポート 20%
中間試験 30%
期末試験 30%

一般物理学・演習

(General Physics and Exercises)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書の該当箇所を読んでおくこと。

事後学習：演習問題の確認と自分自身での理解の確認を行う。わからないことはそのまませず、質問等により解決すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学入試科目として物理を選択していない学生にも配慮し、高校までの物理の復習も適宜盛り込んでいます。学習内容を定着させるためには、まずは手を動かして問題を解くということが重要です。本科目は講義と演習がセットになっていますので、演習の時間を有意義に活用してください。

キーワード /Keywords

生物学

(Biology)

担当者名 /Instructor 原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19 ~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
B10100M	◎				
科目名	生物学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

生物学の導入として、(1)細胞の構造と細胞分裂、(2)遺伝、(3)生殖と発生、(4)系統進化と分類、(5)生物の生理、の各分野について概説します。本講義では、生物学を初めて学ぶ者にも理解できるように基本的な内容を平易に解説し、生物系の専門課程の履修に最低限必要な生物学の基礎教育を行います。

本講義は、基盤教育科目・教養教育科目(環境)の「生物学」と同時開講され、最も基本的な内容を講義します。

この授業科目の到達目標は、以下の通りです。

豊かな「知識」：生物の構造や機能、生命現象についての幅広い知識を身に付けるとともに、これらが生物の本質とどのように関連しているのかについて深く理解し、生命の尊厳についての意識を深める。

教科書 /Textbooks

生物学(スター) 八杉貞雄 監訳、東京化学同人 ISBN 978 4 8079 0836 3

*教科書は、予習、復習、発展学習のために用意してください。講義の中では、本書の図版を参照しつつ授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 生体構成物質
- 2 細胞の構造
- 3 細胞の機能
- 4 細胞分裂
- 5 遺伝の法則
- 6 遺伝子
- 7 ヒトの遺伝
- 8 適応
- 9 進化
- 10 系統分類
- 11 生殖
- 12 動物の発生
- 13 植物の発生
- 14 刺激と反応
- 15 恒常性の維持

* 講義の項目と順序は変更する場合があります。

* 休講の場合は、遠隔講義(オンデマンド講義としてMoodleで配信)にて補講を行います。休講・補講の通知は、Moodle上にもみ掲示します。

生物学

(Biology)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 絶対評価します

評価基準：教科書の太字の用語（講義で説明したものに限り）を正しく理解していること、ノートに示した用語や要約文の内容を正しく理解していること、講義で示した重要事項について各自の言葉でわかりやすく説明できること、について筆記試験で評価します

課題 20% 講義期間中に、3回を限度として随時課します

評価基準：講義内容とその発展的内容について、各自で調べたことをわかりやすく説明できること、を評価基準とします

本講義は、旧カリキュラムの基盤教育科目・教養教育科目（環境）と同時開講されますが、専門教育科目（工学基礎科目）として開講される本科目においては、基盤教育科目・教養教育科目（環境）の成績評価基準と比較して相当程度高い基準で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は必要ありませんが、当日の講義のタイトルを教科書で確認しておくとい良いでしょう。講義の後は、講義で扱った教科書の範囲を一読してください。

履修上の注意 /Remarks

平易な解説を行いますますが、講義はすべて積み重ねですので、一部の理解が欠如するとその後の履修に支障が生じます。そのため、毎回の講義を真剣に受講し、その場ですべてを完全に理解するように心がけてください。生物学の理解のためには、化学、物理学の基礎的知識が必要です。本講義では、生物学を初めて学ぶ学生にも理解できるような平易な解説を行いますますが、高校までの化学、物理学の知識は再確認しておいてください。

なお、休講・補講・教室変更の通知や課題の提出など、講義に関係する通知は、特別な場合を除きMoodle上にもみ掲示しますので、毎回の講義の前にはMoodleを確認するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物学が好きな学生、嫌いな学生ともに、基礎から学べるような講義を行います。すでに生物学を学んだことのある人は再確認を行い、また生物学初学者は基礎をしっかりとし身につけ、専門科目へのつなぎを作ってください。

キーワード /Keywords

細胞・遺伝・系統分類・進化・発生・生理

微分・積分

(Calculus)

担当者名 /Instructor 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~), 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所
二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19~), 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科
(19~)
藤山 淳史 / Atsushi FUJIYAMA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice 補習数学の受講対象者は、補習科目の最終判定に合格しない限り単位の修得ができません。シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MTH106M	◎	○			
科目名	微分・積分		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

環境問題の理解には、数学の知識や技能も必要になる。本講義は、環境関連科目を学ぶなかで使用する数学について講義する。微分・積分を含む数学を習得することにより、環境分野の問題を理論的・定量的に解くための能力を育成することを目標とする。教科書には、環境問題に関する例が取り上げられており、数学がどのように使われるのかを理解しながら学んでほしい。

教科書 /Textbooks

小川 東 「環境のための数学」 朝倉書店 2005年 ¥3,045

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石村 園子 「大学新入生のための微分積分入門」 共立出版 2004年 ¥2,100
 石村 園子 「やさしく学べる微分積分」 共立出版 1999年 ¥2,100
 微分・積分に関しては、他に多数あり。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 授業内容の説明、関数とグラフ
- 2 指数関数 (1) [指数の意味、指数法則]
- 3 指数関数 (2) [指数関数、ネーピアの数、生物化学的酸素要求量]
- 4 対数関数 (1) [常用対数、対数グラフ、対数法則]
- 5 対数関数 (2) [対数の計算、自然対数]
- 6 三角関数
- 7 微分 (1) [微分係数と導関数、微分の基本公式1]
- 8 微分 (2) [微分の基本公式2、合成関数の微分]
- 9 前半まとめ・中間試験
- 10 積分 (1) [不定積分と定積分]
- 11 積分 (2) [面積]
- 12 積分 (3) [部分積分法と置換積分法]
- 13 積分 (4) [テイラーの公式、マクローリンの公式]
- 14 微分方程式 (1) [簡単な微分方程式]
- 15 微分方程式 (2) [ロジステック方程式]

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 : 20%
 定期試験 : 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習用の課題が配布された場合は、必ず授業までにすべて解答し、授業に持参する。授業中に自分の力で解けなかった問題は、授業後の学習で自力で解いてみる。
 とくに数学の学力に自信のない受講者は、上に挙げた教科書の関連する内容を事前学習してから講義に臨むこと。

微分・積分

(Calculus)

履修上の注意 /Remarks

判らない点があれば、授業の後やオフィスアワーを利用して質問すること。それ以外の時間も可能な範囲で対応する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自身の学力や興味にあわせて、上に挙げたような参考書や問題集を併用する。

キーワード /Keywords

線形代数

(Linear Algebra)

担当者名 /Instructor 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19 ~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MTH115M	◎	○			

科目名	線形代数	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			
-----	------	---	--	--	--

授業の概要 /Course Description

線形代数は行列やベクトルを扱う数学で、もともとは連立1次方程式の解法として発達した理論である。近年、コンピュータの発達とともに航空機の構造計算や分子の電子論計算などの理工学シミュレーションや3次元CGなどゲームや映像の世界、経済予想やマーケティングのための統計解析など社会科学分野においても極めて重要な手段となっている。実社会で最も有用な数学といっても過言ではない。本授業では、四則演算だけを前提知識としてベクトルや行列の基本的な演算や応用方法を演習を交えて丁寧に教える。逆行列、行列式、線形空間（ベクトル空間）、固有値・固有ベクトル、対角化、最小二乗法までの線形代数学の基礎を習得する。

教科書 /Textbooks

佐藤和也、只野裕一、下本陽一「はじめての線形代数学」講談社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○石井園子「やさしく学べる線形代数」、その他は必要に応じて授業で別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01 線形代数学とは（線形代数学とははじめ、線形代数学の応用先）
- 02 ベクトルによる表現（ベクトルとは、ベクトルを用いた平面上の直線の表現）
- 03 行列、ベクトルの演算（行列とは、行列、ベクトルの演算）
- 04 ささまざまな行列（転置とは、正方行列、対角行列、単位行列、対称行列、三角行列、行列のベキ）
- 05 逆行列と行列式（連立1次方程式と行列、2次正方行列と逆行列、余因子展開・余因子行列）
- 06 連立1次方程式1（逆行列を用いた連立1次方程式の解法、クラメールの公式、ガウスの消去法）
- 07 連立1次方程式2（同次連立1次方程式、連立1次方程式の解の性質、1次独立と1次従属、行列のランク）
- 08 中間試験
- 09 線形変換と行列の関係（線形写像と線形変換、行列による回転、合成変換、逆変換）
- 10 固有値と固有ベクトル（固有値と固有ベクトルの幾何学的な意味、行列の対角化、ケイリー・ハミルトンの定理）
- 11 工学問題における固有値と固有ベクトル（微分方程式、連立微分方程式の行列による表現、振動問題）
- 12 ベクトルによる演算（ベクトル、行列の微分・積分、内積によるさまざまな表現、正射影ベクトル、ベクトルの外積）
- 13 ベクトル空間・基底ベクトル（次元と基底ベクトル、正規直交基底、基底ベクトルの変換）
- 14 対称行列の性質・対角化（対称行列とは、対称行列の性質、直交行列、対称行列の対角化）
- 15 2次形式・最小二乗法（2次形式とその符号、最小二乗法）

成績評価の方法 /Assessment Method

演習・宿題	30%
中間試験	30%
期末試験	40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書通りの順番で授業は行うので、授業計画に従って事前に教科書の次回の内容を予習しておくこと。演習で解けなかった教科書中の他の問題も復習を兼ねて自分で解くこと。参考書の方が例題が多く解答丁寧に説明しているので併用してください。図書館にもあります。

線形代数

(Linear Algebra)

履修上の注意 /Remarks

必ず教科書とノートは最初から準備してください。授業中に例題を板書で解きますが、そのまま写すのではなく自力でノートに解いてから板書と答え合わせをするように心がけてください。線形代数は解答までに書く量が多いですが、決まりきった解き方なので自分で解いた問題の数だけ理解度は高まり成績も良くなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

線形代数を難しいと感じる学生は多いですが、四則演算の機能しかないコンピュータすなわち小学生高学年でも計算できる算術です。こうした数学的トレーニングを積むことは、就職試験でも重要な論理的思考を養うには最適です。必ず自分の手を動かし、自分の頭で考え、どうしても分からなければ自分から質問する、この訓練が社会人力を高めていきます。トレーニングに近道はありません。

キーワード /Keywords

環境生命入門実習

(Introductory Practice in Life and Environment Engineering)

担当者名 /Instructor 環境生命工学科 (兼任含む。) 教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice 補習化学の受講対象者は、補習科目の最終判定に合格しない限り単位の修得ができません。シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM180M		◎		○	△
科目名	環境生命入門実習			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

環境生命工学科で安全に実験・実習・研究を行うための必要な基本的知識・考え方・技術等を学ぶ。

教科書 /Textbooks

- ・「環境生命入門実習テキスト」(配布)
- ・「安全・環境・防災マニュアル」(配布)
- ・「実験を安全に行うために」 化学同人編集部編 化学同人
- ・「続・実験を安全に行うために」 化学同人編集部編 化学同人
- ・「理科系の作文技術」 木下是雄著 中公新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス・安全講習
- 2 科学文の書き方・実験データの取り扱い方
- 3 レポートの書き方
- 4 エクセル演習I：データ処理
- 5 エクセル演習II：グラフ作成
- 6 情報リテラシー
- 7 器具・試薬の取扱い方
- 8 重量・容量測定I：原理・方法説明
- 9 重量・容量測定II：実験
- 10 温度・熱量測定I：原理・方法説明
- 11 温度・熱量測定II：実験
- 12 中和滴定I：原理・方法説明
- 13 中和滴定II：実験
- 14 LCAI：原理・方法説明
- 15 LCAII：実習

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に必ず実習書をよく読み、必要な知識の整理をしておくこと。また、各実習後には原理や手法の理解を深め、レポートを作成すること(文献調査を含む)。

環境生命入門実習

(Introductory Practice in Life and Environment Engineering)

履修上の注意 /Remarks

実験室は非常に危険な場所であり、人体に悪影響を及ぼす試薬類を扱う場合もあることから、教員やEAからの注意事項および実習室でのルールを必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎無機化学

(Basic Inorganic Chemistry)

担当者名 /Instructor 磯田 隆聡 / Takaaki ISODA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM130M	◎		○		
科目名	基礎無機化学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

大学で学ぶ化学は無機化学、有機化学、物理化学の3つの分野が柱となり、さらに様々な応用化学や生物化学、生物学へと繋がる学問体系になっています。そのため環境生命工学科では基礎無機化学は必修科目に指定されています。

この基礎学問を修得できると、2年生後期の有機化学実験、2年生後期の生物工学実験や3年生前期の環境分析実習で、有機反応の機構や分析方法の原理を理解できるようになります。また3年生後期の環境生命工学実習では、生命現象の仕組みや生物工学の原理を理解できるようになります。

さらに皆さんが将来、材料開発、医薬品工業、化粧品や食品工業などの分野に就職して活躍する際にも必ず必要な知識です。

本講義では生物系学生の基礎化学の理解に必要な、①電子軌道や混成軌道のしくみ ②分子軌道法と化学結合の理解 ③無機化合物の性質(酸化還元、酸、ハロゲン) ④生命現象へのつながり(錯体、有機金属、生物無機化学)について学習することを目的としています。

具体的には生物系学科に多い高校で物理を未履修とする学生や、物理を不得意とする学生のために、無機化学の教科書の中から要点を簡潔にまとめられているものを選定して、これを指定教科書としました。

また毎回の講義の中で確認テストを行って理解を確かなものとし、さらに計2回の演習を通して完全に理解できるようにします。

教科書 /Textbooks

無機化学の基礎 (坪村太郎、川本達也、佃俊明 共著 / 化学同人 / ISBN: 978-4-7598-1837-6)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

基礎無機化学

(Basic Inorganic Chemistry)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 周期表と元素の性質の周期性・電子配置
2. 電子の軌道と波動関数
3. 電子配置とエネルギー準位
4. 演習 1

5. 分子軌道法 I (分子軌道法MOの考え方)
6. 分子軌道法 II (簡単な無機化合物の分子軌道)
7. 混成軌道と多重結合
8. 分子軌道法の応用 (様々な原子の混成軌道と有機反応)
9. 演習2

10. 典型元素の性質
11. 錯体の基礎と性質
12. 有機金属錯体の性質
13. 生物無機化学 I (金属とタンパク質の錯体)
14. 生物無機化学 II (生命現象・薬剤)
15. 総復習と期末試験対策

成績評価の方法 /Assessment Method

評価方法
各自の素点 (100点満点) = 演習点 (40点 : 2回×各20点) + 平常点 (10点) + 期末試験 (50点)

※注 レポート、追試等の措置は一切行わない。講義に毎回出席し、演習を必ず受けること

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 : 毎回の講義で配布されるテキストを整理し、演習の際に持ち込めるよう準備すること

事後学習 : 演習で出題された問題が解けるように十分復習すること

履修上の注意 /Remarks

- ① レポート、追試等の措置は行わないので、講義に毎回出席し、演習2回を必ず受けること。
- ② 演習の際は、各自の教科書と毎回の講義で配布されるテキストを必ず持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数学や物理、化学を理解するには、原理図を描いたり、数式を解いたりして理解を深めます。本講義も毎回の確認テストと、2回の演習で問題を解くことで理解を深めていきます。

そこで演習の学習効果を高めるため、各自の教科書と事前に整理した配布テキストを持ち込み、分からない箇所を必ず確認して克服してください。

受講者全員が1回で単位を取得できるように、みんなで一丸となって頑張ってください。

キーワード /Keywords

電子軌道、化学結合、無機化合物、生物無機化学

基礎有機化学

(Basic Organic Chemistry)

担当者名 櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 【必修】 環境生命工学科 (19 ~)
/Department

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM110M	◎		○		

科目名	基礎有機化学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	--------	---

授業の概要 /Course Description

バイオテクノロジーの重要な基礎は化学である。なかでも有機化学は、分子生物学を理解する上での基本であり、新しい生理活性分子を設計する上で欠かせない。産・学・官のあらゆる分野で研究者および技術者として活躍するために必要な有機化学の基礎を系統的に教授するための科目として、基礎有機化学を開講する。下記教科書の第1章から第7章について授業を行い有機化合物の基礎を講義する。その項目は次の通りである。なお、この講義はその後の有機化学と生命有機化学と密接に連携している。

教科書 /Textbooks

教科書：ベーシック有機化学 (第2版)
ウェブ： <https://www.kagakudojin.co.jp/book/b73671.html>
山口 良平 / 山本 行男 / 田村 類 (著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書：演習有機反応 その解き方と考え方 (KS化学専門書)
ウェブ： <http://www.geocities.jp/chemacid/chembase/organic/beginner1.htm>
東郷 秀雄 (著)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1：周期律表と電気陰性度、有機物質の反応性
- 2：量子化学と化学結合 その1
- 3：量子化学と化学結合 その2
- 4：アルカン
- 5：アルカンの反応
- 6：シクロアルカン
- 7：立体異性体 その1
- 8：立体異性体 その2
- 9：電子の流れと有機化学の反応
- 10：Sn2反応 その1
- 11：Sn2反応 その2
- 12：Sn1反応 その1
- 13：Sn1反応 その2
- 14：E1反応とE2反応
- 15：まとめと期末試験対策

成績評価の方法 /Assessment Method

出席点は重視しないが、中間試験と期末試験は30点：70点(合計100点)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

内容は高度な有機化学への入門です。バイオテクノロジーを学ぶためには必ず必要な内容です。必ず復習をすること。

基礎有機化学

(Basic Organic Chemistry)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

有機化合物の性質に関して、電気陰性や電子の構造から論理的に理解できるようになります。高校では、単に暗記科目であった有機化学が論理的な体系をもった学問であることを理解してください。

キーワード /Keywords

電気陰性度、アルカン、ハロゲン、求核置換反応

生態学

(Ecology)

担当者名 /Instructor 原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19 ~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0101M	◎		○		
科目名	生態学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

生態系は、私たち人間も含めた生物と環境との相互作用によって成り立っています。この相互作用の基本となるものは物質とエネルギーで、生態系における物質・エネルギーの挙動と生物との関係を正しく理解する事が、諸々の環境問題の正しい理解とその解決策の検討には不可欠です。本講義では、このような観点から、(1) 生態系の構造と機能、(2) 個体群と生物群集の構造、(3) 生物地球化学的物質循環、を中心に生態学の基礎的内容を講述します。

本講義は、基盤教育科目・教養教育科目（環境）の「生態学」と同時開講され、最も基本的な内容を講義します。講義内容は、2018年度まで開講されていた基盤教育科目・教養教育科目（環境）の「生態学」と同内容です。

この授業科目の到達目標は、以下の通りです。

豊かな「知識」：生態系の中での生物と環境とのかかわりについて、偏りのない視野から深く洞察するとともに、生態現象についてその理論も含めて正しく理解している。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：生態系の構造や機能に関する知識が、異分野の研究にも密接なかかわりを持っていることについて深く理解し、これに関する自己の意見を的確に表明できる。

教科書 /Textbooks

生態学入門 -生態系を理解する- 第2版 (原口昭 編著) 生物研究社 ISBN 978 4 915342 71 4

* 講義内容をまとめた教科書ですので、予習、復習に利用してください。講義の中では、図版を参照しつつ授業を進めます。

* 第2版を指定しますが、初版でも対応可能です。ただし、第2版は増補されており、図版も若干変更されていますので、なるべく第2版を用意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○日本の湿原 (原口昭 著) 生物研究社 ISBN 978 4 915342 67 7

○攪乱と遷移の自然史 (重定・露崎編著) 北海道大学出版会 ISBN 978 4 8329 8185 0

○湿地の科学と暮らし (矢部・山田・牛山 監修) 北海道大学出版会 ISBN 978 4 8329 8222 4

ほか必要に応じて講義の中で指示します

生態学

(Ecology)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 地球環境と生物 - 生態系の成り立ち
- 2 生態系の構成要素 - 生物・環境・エネルギー
- 3 生物個体群の構造
- 4 種内関係
- 5 生態的地位
- 6 種間関係 (種間競争、捕食・被捕食)
- 7 種間関係 (寄生、共生)
- 8 生態系とエネルギー
- 9 生態系の中での物質循環
- 10 生態系の分布
- 11 生態系の変化 - 生態遷移
- 12 生態系各論：土壌生態系の成り立ちと生物・環境相互作用
- 13 生態系各論：陸水生態系
- 14 生態系各論：熱帯林生態系
- 15 生態系各論：エネルギー問題と生態系

* 講義内容と順序は変更になる場合があります。

* 休講の場合は、遠隔講義 (オンデマンド講義としてMoodleで配信) にて補講を行います。休講・補講の通知は、Moodle上にもみ掲示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 絶対評価します

評価基準：教科書の索引にある用語 (講義で説明したものに限り) を正しく理解していること、ノートに示した用語や要約文の内容を正しく理解していること、講義で示した重要事項について各自の言葉でわかりやすく説明できること、について筆記試験で評価します

課題 20% 講義期間中に、3回を限度として随時課します

評価基準：講義内容とその発展的内容について、各自で調べたことをわかりやすく説明できること、を評価基準とします

本講義は、基盤教育科目・教養教育科目 (環境) と同時開講されますが、専門教育科目 (工学基礎科目) として開講される本科目においては、基盤教育科目・教養教育科目 (環境) の成績評価とは異なる基準で評価します。基準が相当程度高くなりますのでご注意ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は必要ありませんが、当日の講義のタイトルを教科書で確認しておくとい良いでしょう。講義の後は、講義で扱った教科書の範囲を一読してください。

履修上の注意 /Remarks

各回の講義の積み重ねで全体の講義が構成されていますので、毎回必ず出席して、その回の講義は完全に消化するよう努めてください。工学系の学生にとっては初めて学習する内容が多いと思いますが、何よりも興味を持つことが重要です。そのために、生態系や生物一般に関する啓蒙書を読んでおくことをお勧めします。

なお、休講・補講・教室変更の通知や課題の提出など、講義に関係する通知は、特別な場合を除きMoodle上にもみ掲示しますので、毎回の講義の前にはMoodleを確認するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題を考える上で生物の機能は不可欠な要素です。これまで生態系に関する講義を履修してこなかった学生に対しても十分理解できるように平易に解説を行いますので、苦手意識を持たずに取り組み、専門科目へのつながりをつくってください。

キーワード /Keywords

生態系・生物群集・個体群・エネルギー・物質循環・生態系保全

基礎生物化学

(Introduction to Biological Chemistry)

担当者名 /Instructor 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0120M	◎				

科目名	基礎生物化学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	--------	---

授業の概要 /Course Description

生物内では膨大な化学反応が効率的に営まれ、生命活動を維持している。本講義では、生命活動の基本となる生体分子（アミノ酸、タンパク質、糖質、脂質、核酸）の化学、および生体膜の特徴と酵素反応を学ぶことによって、生物化学の基礎知識を習得する。

教科書 /Textbooks

田宮信雄・村松正實・八木達彦・遠藤斗志也 訳 「ヴォート基礎生物化学第5版」 東京化学同人 2017年 ¥7,600

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 導入（生物化学の重要性）
2. 生体分子と水
3. アミノ酸 1（構造と分類）
4. アミノ酸 2（性質）
5. タンパク質 1（構造）
6. タンパク質 2（性質）
7. タンパク質 3（解析）
8. 糖質
9. 前半の復習、確認テスト
10. 核酸 1（構造）
11. 核酸 2（性質）
12. 脂質
13. 生体膜
14. 酵素
15. 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・演習 10%
確認テスト 45%
期末テスト 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の予備学習を行うとともに、授業後には反復学習により理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容の要点プリントを配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、我々の体の中で起こっている現象を理解するための学問です。また、環境と生体は密接な関係にあり、環境技術を学ぶ中で生命現象を理解しておくことは非常に重要です。

基礎生物化学

(Introduction to Biological Chemistry)

キーワード /Keywords

応用数学

(Applied mathematics)

担当者名 /Instructor 望月 慎一 / Shinichi MOCHIZUKI / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MTH134M	◎	○	△		

科目名	応用数学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			
-----	------	---	--	--	--

授業の概要 /Course Description

高校数学が数学の問題を解くことに力を置いているが、本講義では、化学、生物、薬学、工学の分野で遭遇する数学的な問題から題材をとって、内容がわかり易く、身近に感じる課題を取り上げていく。高校から大学初年度の数学を使う力を身につけることを目標にする。教科書はなく、毎回渡すプリントを講義中に解いてもらう。特に前半は薬物動態を例に指数・対数や微分方程式の組み立てを、後半は実験データの統計学処理に関して学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、高校数学の理解度試験
- 2、高校数学の復習：対数と指数
- 3、高校数学の復習：微分と積分
- 4、高校数学の復習：数列
- 5、微分方程式(1)基礎
- 6、微分方程式(2)応用
- 7、微分方程式と生物
- 8、微分方程式と薬学
- 9、確率
- 10、確率分布
- 11、母集団の分布と標本の分布
- 12、統計学的推定と検定(1)基礎
- 13、統計学的推定と検定(2)応用
- 14、身近な医療統計
- 15、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 40%
試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に翌週の内容について説明するので指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

復習をしっかりすること

応用数学

(Applied mathematics)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学や生物の科目は一見すると、数学とは無関係に思えますが、近代科学である限り、数学や物理の法則を基本にしていることは疑いもありません。

キーワード /Keywords

対数と指数、微分方程式、統計学

工学実験基礎

(Fundamentals of Engineering Experiments)

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~)
藤山 淳史 / Atsushi FUJIYAMA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHY181M		◎		○	△
科目名	工学実験基礎			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

物理学に関する基本的な理論を理解するための実験を各自で行い、物理学的な考え方を活用できるようにする。

到達目標

基本的な物理学の知識を実験で検証する能力を有している。
クラスメイトと協力しながら精度の高い実験を安全に実施することができる。
物理学の知識を様々な課題に応用して学ぶ意欲を有している。

教科書 /Textbooks

実験テキストを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小林賢ほか「わかりやすい薬学系の物理学入門」(講談社 2015) 2800円 + 税
化学同人編集部「実験データを正しく扱うために」(化学同人 2007) 1500円 + 税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 運動量保存則と反発係数
- 3 摩擦力と摩擦係数
- 4 電気回路と抵抗 (1)
- 5 電気回路と抵抗 (2)
- 6 光の回折と干渉
- 7 レポート作成方法指導
- 8 クーロンの法則・誘電率 (1)
- 9 クーロンの法則・誘電率 (2)
- 10 pH測定 (1)
- 11 pH測定 (2)
- 12 pH測定 (3)
- 13 再実験 (1) 第2回から第5回で該当する項目
- 14 再実験 (2) 第6回から第11回で該当する項目
- 15 演習

成績評価の方法 /Assessment Method

実験に取り組む態度 (真剣な取り組み) 10%
実験各回の実施状況とレポート 90%
ただし、すべての実験を行い、それぞれの実験に対するレポートを期限内に提出した者だけを評価の対象とする。なお、未完成のレポートの提出は認めない。

工学実験基礎

(Fundamentals of Engineering Experiments)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に実験テキストをよく読んでおくこと。実験に関連する内容について、物理の教科書や参考書などを通読しておくこと。また、各実験後には原理や手法の理解を深め、レポートを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

スタッフの指示に従い、安全に十分注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実験を通して物理の講義で学んだ事項の理解を深めてください。

キーワード /Keywords

高分子化学

(Polymer Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 (19~) 【選択必修】 エネルギー循環化学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM340M	◎		○		
科目名	高分子化学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

高分子は、プラスチック、繊維、ゴムなど、我々の生活に不可欠な材料であることはもとより、バイオテクノロジーやナノテクノロジーなど、科学の最先端においても必要不可欠な物質である。したがって、高分子化学の基礎を習得することは、将来、化学に関わる研究者、技術者にとって必要不可欠である。本講義では、高分子化合物の生成や反応及び構造など、高分子化学の基礎について講義を行う。

到達目標

1. 高分子化合物の定義及びその特徴を理解し、説明できる。
2. 高分子化合物の名称、構造式を書くことができる。
3. 高分子化合物の基本的な合成法、重合反応機構を理解し、典型的な化合物についての合成反応式を書くことができる。
4. 高分子鎖の形態を理解し、説明できる。
5. 高分子溶液に特徴的な物性を理解し、物理化学的に説明することができる。
6. 高分子固体に特徴的な構造および物性を理解し、物理化学的に説明することができる。

教科書 /Textbooks

指定なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

基礎高分子科学 高分子学会編 東京化学同人
高分子化学 共立出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション、高分子の定義と分類
2. 高分子の分子形態・分子量と分子量分布
3. 高分子の合成 (1) 分類と概要 (2) 不飽和化合物の付加重合 (ラジカル重合)
4. 高分子の合成 (3) 不飽和化合物の付加重合 (ラジカル重合)
5. 高分子の合成 (4) 不飽和化合物の付加重合 (ラジカル共重合)
6. 高分子の合成 (5) 不飽和化合物の付加重合 (カチオン重合、アニオン重合)
7. 高分子の合成 (6) 不飽和化合物の付加重合 (配位重合、開環重合)
8. 高分子の合成 (7) 逐次重合
9. 高分子反応
10. 高分子の特性
 11. 溶液の性質
 12. 高分子の固体構造・物性
 13. 力学的性質
 14. 生体高分子
 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%
全範囲にわたり出題

高分子化学

(Polymer Chemistry)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で取り扱った内容について、参考書などを用いて復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

有機化学、物理化学の基礎を復習しておくこと
講義は原則、対面形式で実施するが、場合によってはオンライン(オンデマンド形式)でも実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境分析化学

(Environmental Analytical Chemistry)

担当者名 /Instructor 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~), 宮脇 崇 / Takashi MIYAWAKI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】環境生命工学科 (19~) 【選択必修】エネルギー循環化学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM341M	◎		○		

科目名	環境分析化学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	--------	---

授業の概要 /Course Description

水環境を保全するとともに安全な水を社会に供給するためには、河川湖沼・海域、浄水場、下水処理場等の幅広い場所で水質のモニタリングと管理が必須となる。私たちが生活で触れる水には様々な物質が溶解している。そのため、水の分析手法は成分や濃度によって多岐に亘る。本科目では、水質管理で必須となることが多い代表的な水質項目について、それぞれの測定原理や手順の考え方を学ぶ。このことで、正しい測定値を得るために必要な知識に加えて、分析操作や結果を工夫・評価する技術センスも習得し、環境分析に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に理解する。

教科書 /Textbooks

水の分析 (第5版), 日本分析化学会北海道支部編 (化学同人)を用いる (税込み 6,380円)。

【重要】

- 1) 電子教科書なので、大学生協 専門書店HP (<https://coop-ebook.jp/contents/StaticPage.do?html=index>)で会員登録の上、専用ビューアを各自のパソコンあるいはタブレットにダウンロード・インストールすること (第2回の授業までに完了のこと)。
- 2) 生協書籍部で当該教科書の書籍クーポンを購入し、専用ビューアをインストールした各自のパソコン/タブレットに電子教科書をダウンロード・インストールすること (第2回の授業までに完了のこと)。
- 3) 授業出席においては、電子教科書をインストールした各自のパソコンあるいはタブレットを持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

分析化学実技シリーズ 機器分析編1巻 吸光・蛍光分析, 共立出版, 2011
 分析化学実技シリーズ 機器分析編4巻 ICP発光分析, 共立出版, 2013
 分析化学実技シリーズ 機器分析編5巻 原子吸光分析, 共立出版, 2011
 分析化学実技シリーズ 機器分析編7巻 ガスクロマトグラフィー, 共立出版, 2012
 分析化学実技シリーズ 機器分析編9巻 イオンクロマトグラフィー, 共立出版, 2010
 分析化学実技シリーズ 機器分析編17巻 誘導結合プラズマ質量分析, 共立出版, 2015
 分析化学実技シリーズ 応用分析編 第6巻 環境分析, 共立出版, 2012
 ICP発光分析・ICP質量分析の基礎と実際-装置を使いこなすために, オーム社, 2008
 環境分析化学 (第3版), 合原眞ほか, 三共出版, 2017
 環境の化学分析, 日本分析化学会北海道支部, 三共出版, 1998
 環境と安全の科学 演習と実習, 及川紀久雄ほか, 三共出版, 2007
 環境分析技術手法, 日本環境測定分析協会, しらかば出版, 2001
 Environmental Chemical Analysis, B.B. Kebbekus, S. Mitra, Chapman & Hall/CRC, 1998

環境分析化学

(Environmental Analytical Chemistry)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 授業ガイダンス, 水の起源と循環, 水に求められる性質
- 2) 電子書籍の使い方, 水の分析の基盤となる基礎的技術
- 3) 水の分析に適用される方法
- 4) 水の一般的性状
- 5) 金属成分 (1)
- 6) 金属成分 (2)
- 7) 演習
- 8) 非金属成分
- 9) 有機汚濁指標物質
- 10) 富栄養化関連物質 (1)
- 11) 富栄養化関連物質 (2)
- 12) 有機物 (1)
- 13) 有機物 (2)
- 14) 微生物
- 15) 水質調査の事例・演習

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・演習等 40%
試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実験科目である環境分析実験でも基本的な水質分析や原子吸光の操作を履修するので、これと組み合わせることで、授業内容の理解が一層深まる。また、授業後の復習により、好成績が得られるのみならず、確実に関連知識がと考え方が身につく。

履修上の注意 /Remarks

積極的に説明内容を電子書籍や配付資料等に記載すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

水環境を保全・評価するための種々の水分析について、広く使用されている方法を中心に講義する。環境分野で働くには、これらの原理や方法を正しく理解しておく必要がある。また、これらは身近な環境問題やその対処状況を高度な視点から理解するために必要不可欠な知識でもある。履修者は前向きに勉強してほしい。

キーワード /Keywords

水質化学 水処理工学 環境保全 水環境モニタリング

大気浄化工学

(Air Pollution Control Technology)

担当者名 /Instructor 藍川 昌秀 / Masahide AIKAWA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】環境生命工学科 (19~) 【選択必修】エネルギー循環化学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV332M	◎				

科目名	大気浄化工学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	--------	---

授業の概要 /Course Description

近年、微小粒子状物質 (PM2.5) による大気汚染や大気中の温室効果ガスの濃度上昇による地球温暖化など私たちを取り巻く大気に関する環境問題が大きな問題となっています。この講義では、大気環境を支配する要因 (大気汚染物質や温室効果ガスの発生、移流・拡散、反応、沈着) や大気汚染を抑制するための汚染防止技術と法体系について学び、大気及び大気汚染に関する基礎的な知識及び問題認識能力・思考力を総合的に身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

特になし。随時、必要に応じて資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 大気科学の基礎 (単位 (混合比・数密度))
2. 大気科学の基礎 (単位 (質量濃度・分圧))
3. 大気の質量と大気圧
4. 大気の構造と輸送 (水平輸送)
5. 大気の輸送 (鉛直輸送)
6. 大気環境基準
7. 大気環境 (汚染) の現況
8. 大気汚染抑制のための法体系 (法体系全般)
9. 大気汚染抑制のための法体系 (個別法)
10. 環境大気の測定 (大気汚染常時監視)
 11. 燃料と燃焼I (燃焼の基礎)
 12. 燃料と燃焼II (気体燃料の燃焼計算)
 13. 燃料と燃焼III (液体・固体燃料の燃焼計算)
 14. ガス成分の抑制 (脱硫・脱硝と燃焼ガスの測定)
 15. 粒子成分の抑制 (採取法・生成と動態・分離と測定)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に前回授業までの復習をするとともに、授業後は演習課題を再度反復して下さい。

履修上の注意 /Remarks

授業の中で20-30分程度の演習をします。

大気浄化工学

(Air Pollution Control Technology)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は、聴くだけになりがちです。しかし、聴くだけの講義ではなく、そこから何かを感じ、自主的に考える姿勢を持って下さい。自ら考える姿勢は社会に出てから必ず役立ちます。

キーワード /Keywords

大気環境、大気汚染物質、大気汚染防止、測定技術、法体系

反応工学

(Reaction Engineering)

担当者名 /Instructor 西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 (19~) 【選択必修】 エネルギー循環化学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM361M	◎	○	△		
科目名	反応工学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

反応工学は、反応装置を合理的に設計し、操作するための工学である。本講義では、反応速度や反応率、反応装置と設計法、反応操作の最適条件の選定について学習する。

【到達目標 (2019年入学者以降)】

反応速度や反応率、反応装置の設計法に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

教科書 /Textbooks

培風館 「改訂増補版 反応工学」 ISBN978-4-563-04634-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

化学同人 「増補版 ベーシック化学工学」 ISBN978-4-7598-2047-8

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 化学反応の分類・反応器の分類
2. 反応速度論の基礎
3. 回分式反応器による反応速度式の実験的解析～積分法 (定容系単一反応・不可逆反応)
4. 回分式反応器による反応速度式の実験的解析～積分法 (定容系単一反応・可逆反応)
5. 回分式反応器による反応速度式の実験的解析～積分法 (定容系複合反応)
6. 回分式反応器による反応速度式の実験的解析～積分法 (容積変化を伴う反応)・微分法・半減期法
7. 気相反応における全圧追跡法
8. 前半まとめ
9. 回分反応器の設計
10. 半回分反応器の設計
 11. 流通式槽型反応器の設計
 12. 直列流通式槽型反応器の設計
 13. 管型反応器の設計
 14. 管型反応器と流通式槽型反応器の比較
 15. リサイクルを伴う管形反応器

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 45%
 期末テスト 45%
 課題の提出など日頃の講義への取組 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義をよく復習し、演習問題をきちんとこなすこと。

履修上の注意 /Remarks

反応工学

(Reaction Engineering)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では、化学工学系の科目の中で、反応工学と呼ばれる分野を学習します。講義を聞くのみでは理解が難しいかもしれませんが、自分で演習問題を繰り返し解くことで、必ず理解できます。

キーワード /Keywords

回分式反応器、流通式槽型反応器、管型反応器、反応速度論

地圏環境学

(Geosphere Environment)

担当者名 /Instructor 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 (19~) 【選択必修】 エネルギー循環化学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV201M	◎				
科目名	地圏環境学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

地圏は、土と水（地下水）で構成され、動植物生存や人間活動（農産物生産、都市形成など）の基盤となっている。土壌（地圏の特に表層）は水・物質・熱の保持・輸送・浄化機能がある。地圏環境を構成する土壌のこういった物理・化学性に係る基礎を学ぶことを目的として、土壌の性質、水分・化学物質移動などの基礎原理を理解できるように学習する。本授業によって、「土壌環境に関する物理的な専門知識を身につける」ことを到達目標とする。

授業は、遠隔授業（オンデマンド方式；Moodle）で実施する。

教科書 /Textbooks

土壌物理学（宮崎毅ほか著、朝倉書店）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 土と水の性質
- 3 土の保水性
- 4 土の中の水分移動（ダルシー則、飽和流）
- 5 土の中の溶質移動 I（基本的メカニズム）
- 6 土中の溶質移動 II（拡散、移流、吸着など）
- 7 中間演習
- 8 土の中の熱移動
- 9 土の中のガス移動
- 10 基礎方程式 I（地下水流）
- 11 基礎方程式 II（移流分散、熱移動）
- 12 後半演習
- 13 まとめ
- 14 課題レポート作成I
- 15 課題レポート作成II

成績評価の方法 /Assessment Method

演習点 80%
課題レポート 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に実施する演習問題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

前回の授業内容の復習を行うこと。

地圏環境学

(Geosphere Environment)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球環境を構成する大気・土・水の中で土壌物理学は、土と水の一部を取り扱う学問です。土壌に係る現象の基礎を学ぶことで、より地圏環境問題を深く理解できるようになるでしょう。

キーワード /Keywords

水質変換工学

(Water Quality Control Engineering)

担当者名 寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19~)
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 【選択】環境生命工学科(19~) 【選択必修】エネルギー循環化学科(19~)
/Department

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV202M	◎				
科目名	水質変換工学			※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連 ※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

河川、湖沼、海域などの水環境を保全するためには、水質を把握し、変換したり、制御することが必要である。講義は、水環境の実態を把握するために必要不可欠な水質について分析試験方法も含めて工学的な視点から進める。これらをもとに、水を利用するため、および水環境を理解するための基本的な反応・解析の考え方を習得する。
到達目標：水環境における水質の測定や制御について幅広い知識を体系的かつ総合的に身につけている

教科書 /Textbooks

なし
必要に応じて参考資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 水環境と水質の概要
2. 水環境と水質汚濁
3. 水質汚濁の指標(1): 総括指標
4. 水質汚濁の指標(2): 有機物の指標
5. 水質汚濁の指標(3): 応用
6. 法規と各種水質基準
7. 水質汚濁と発生源
8. 溶存酸素垂下曲線(1): 基礎
9. 溶存酸素垂下曲線(2): 応用
10. 産業と水処理(1): 産業で使用する水
11. 産業と水処理(2): 水使用の合理化
12. 産業と水処理(3): 冷却水
13. 排水処理の計画と方法
14. 排水処理法(1): 有機物
15. 排水処理法(2): 有害物質

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・小テスト 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業学習する内容の一部について予め調査を行う事前学習を課すことがある
また、授業で学習した内容の一部について演習や復習等をおこなう事後学習を課すことがある

水質変換工学

(Water Quality Control Engineering)

履修上の注意 /Remarks

Webおよび(または)対面で講義を実施する。
電卓をする回がある。
高等学校や大学初年次において修得する化学、生物学、物理学および数学をよく学習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習問題を多くとりあげるので、知識が身につきます。

キーワード /Keywords

資源循環論

(Sustainable Resource Engineering)

担当者名 /Instructor 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 (19 ~) 【選択必修】 エネルギー循環化学科 (19 ~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV331M	◎				

科目名	資源循環論	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	-------	---

授業の概要 /Course Description

廃棄物減量、資源循環を実現するために資源、エネルギー全般、廃棄物全般を解説する。また、それらを背景として取り組んでいるリサイクル技術開発とそのシステム化について、資源、エネルギー回収と処理の観点からそれぞれの技術や社会的な仕組みを概観できるような講義を行い、科学技術が持続可能な社会形成に果たす役割を理解できるようにする。(到達目標：有機性・無機性の廃棄物に関する代表的な処理技術の基本知識を身につけている。)

教科書 /Textbooks

特に指定せず、必要に応じて講義の都度資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション と 資源、エネルギー概論
- 2 廃棄物概論
- 3 リサイクル、廃棄物処理の歴史と3R
- 4 リサイクルと3R
- 5 各種リサイクル法とその特徴
- 6 リサイクルの評価方法
- 7 リサイクル技術1(粉砕と単体分離I)
- 8 リサイクル技術2(粉砕と単体分離II)
- 9 リサイクル技術3(物理的分離I)
- 10 リサイクル技術4(物理的分離II)
- 11 リサイクル技術5(物理的分離III)
- 12 リサイクル技術6(化学的分離)
- 13 金属、プラスチック類のリサイクルシステム
- 14 最終処分場と不法投棄
- 15 実際のリサイクル技術開発事例紹介

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の積極的参加 30%
演習 30%
期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義資料やノートを用いて十分な復習を行うことが必要である。

資源循環論

(Sustainable Resource Engineering)

履修上の注意 /Remarks

講義中に配付した資料を見直し、次の講義への準備をしておく必要がある。
演習による理解度評価を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎物理化学

(Fundamental Physical Chemistry)

担当者名 /Instructor 柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 / 2年次
単位 /Credits 2単位 / 2単位
学期 /Semester 1学期 / 1学期
授業形態 /Class Format 講義 / 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM210M	◎	○	△		

科目名	基礎物理化学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	--------	---

授業の概要 /Course Description

物理化学は化学の原理を探究する学問であり、化学はもちろん生物学を学ぶものにとっても必要不可欠なものである。本講義では、物理化学の初歩的な内容である溶液内化学反応（酸塩基反応、沈殿生成反応）、気体の法則、熱力学第一法則などについて解説する。また、それらに応用した定性的及び定量的な分析法についても具体的事例や演習を交えて講義する。

本講義の到達目標は以下の通りである。

- ・ 物理化学に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 物理化学で必要とされる基礎データや数式などを、課題に対応して利用できる技能を身につけている。
- ・ さまざまな化学反応において観察される現象を、物理化学的な観点から理論的に解釈、考察する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

ポール物理化学（第2版）〔上〕 化学同人（ISBN9784759817898）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

環境分析化学（第3版） 合原 真・岩永 達人・氏本 菊次郎・脇田 久伸・吉塚 和治・今任 稔彦（著） 三共出版 2017年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 有効数字、次元、単位
- 2 酸・塩基
- 3 酸塩基平衡：弱酸・弱塩基の平衡
- 4 緩衝液
- 5 塩のpH
- 6 沈殿生成平衡：溶解度積
- 7 沈殿生成平衡：共通イオン効果
- 8 前半のまとめ
- 9 理想気体の状態方程式
- 10 実在気体の状態方程式
- 11 仕事と熱
- 12 内部エネルギー
- 13 エンタルピー
- 14 反応エンタルピー
- 15 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（小テスト等）20%
中間テスト 40%
期末テスト 40%

基礎物理化学

(Fundamental Physical Chemistry)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

用語・法則・定義などが多いので、確実な理解のために復習して講義に臨むこと。予習として、テキストをよく読んでくること。また、次週の小テストに向けて、十分に講義内容の復習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義は教科書の他、演習問題などのプリントを配布して行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

原理を理解するだけでなく、それを使って正確な値を導けることも重要です。講義の中で適宜、演習を行いますので、積極的に取り組み、計算にも慣れてください。

キーワード /Keywords

微生物学

(Microbiology)

担当者名 /Instructor 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0210M	◎	○	△		
科目名	微生物学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

土壌、河川、海、空気中など地球上の至るところに微生物は存在しており、その微生物の種類は約20万種ともいわれている。微生物は多種多様な物質を栄養源として生育していることから、通常では高等動植物が存在できない極限環境にも幅広く生息している。本講義では、微生物の種類と基本的な性質について解説する。更に微生物は様々な工業分野で広く利用されており、私たちの暮らしに欠かせないものであることを理解する。

(到達目標)

- ・微生物の分類や生活環(増殖)、基本構造について理解する。
- ・食中毒の原因物質について理解をし、それぞれの特徴について説明ができる。
- ・微生物の産業利用について理解をし、発酵食品と微生物のかかわりについて説明ができる。

教科書 /Textbooks

微生物学(東京化学同人)、大木理著、2016年、2400円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ブラック微生物学(丸善株式会社)、林英生、岩本愛吉、神谷茂、高橋秀実監訳、1993年、7900円
- バイオのための基礎微生物学(講談社サイエンティフィク)、扇元敬司著、2002年、3800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 微生物学とは(導入)
2. 微生物学の歴史
3. 微生物の分類
4. 細菌の基本構造
5. 細菌の増殖と生活環
6. 放線菌
7. アーキア(古細菌)
8. ウィルス
9. 食中毒概論
10. 食中毒各論I【細菌】
11. 食中毒各論II【ウィルス・寄生虫】
12. カビの分類と生活環
13. 酵母の分類と生活環
14. 微生物の産業利用I【酒類】
15. 微生物の産業利用II【その他】

成績評価の方法 /Assessment Method

- 期末試験(85%)
- 授業態度・課題(15%)

微生物学

(Microbiology)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業では幅広い内容を取り上げるため、授業開始前までに教科書などを活用しながら事前学習を行い、授業終了後には復習することにより理解をさらに深めてほしい。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義において微生物に関する理解を深め、私たちの暮らしに微生物は欠かせないものであることを認識してほしい。そしてこのような微生物をどのような形で活用していけば、私たちの生活に役立つか考えてほしい。

キーワード /Keywords

細菌、真菌、ウイルス、食品衛生、発酵食品

生物化学

(Biochemistry)

担当者名 /Instructor 沼野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 1学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
B10220M	◎	○	△		

科目名	生物化学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	------	---

授業の概要 /Course Description

本講義では、「基礎生物化学」で学んだ内容を下地に、生体内で起きるエネルギー代謝など化学反応についての詳細を学び、生物化学からみた生命像の理解を目指す。具体的には、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、光合成など代謝とエネルギー生産の基礎、生体分子の合成と分解など物質代謝の基礎、遺伝子の発現と複製など、機能面から生物化学に関する知見を深める。また、物質輸送、細胞内情報伝達、遺伝子発現制御による代謝制御の仕組みについても学び、動的な生命現象の理解を目指す。特に後半に重点を置くのが、代謝制御や光合成を理解するために重要な、ミカエリス・メンテンの式およびそれを基礎とした酵素や光合成の反応速度論である。酵素反応の阻害様式の決定や数値やグラフの扱いについても習熟する必要がある。

教科書 /Textbooks

田宮信雄他訳「ヴォート基礎生化学」第5版、東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Albertsら著、中村・松原監訳「細胞の分子生物学」第5版、ニュートンプレス
福岡伸一監訳「マッキー生化学」第4版、化学同人
生化学辞典第4版、東京化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション 「生物化学とは」、「生命の誕生と生化学」、「生化学反応の場としての細胞とオルガネラ」
- 2 代謝とエネルギー (1) 解糖系と糖新生
- 3 代謝とエネルギー (2) TCA回路
- 4 代謝とエネルギー (3) 電子伝達系とATP収支
- 5 代謝とエネルギー (4) 光合成(前半) 【明反応、電子伝達系】
- 6 代謝とエネルギー (5) 光合成(後半) 【暗反応、炭素固定、光合成速度論】
- 7 生体分子の合成と分解
- 8 前半の復習、確認試験
- 9 生体膜と物質輸送、細胞内情報伝達を担う分子たち
- 10 代謝の量的制御と質的制御 (1) 【酵素反応速度論】
- 11 代謝の量的制御と質的制御 (2) 遺伝情報と遺伝子
- 12 代謝の量的制御と質的制御 (3) 遺伝子の発現と複製 【核酸の構造、DNAの複製、修復、組換え】
- 13 代謝の量的制御と質的制御 (4) 遺伝子の発現と複製 【転写、RNAプロセッシング、翻訳】
- 14 遺伝子発現制御と代謝制御
- 15 まとめと後半の復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(予習・復習を反映した内容)、レポート 20% 適宜指示する(2回程度)
確認試験 40% 第1回~7回の範囲から出題
期末試験 40% 主に第9回以降の範囲から出題

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：基礎生物化学の内容を理解しておくこと
事後学習：毎回の講義内容をよく復習しておくこと

生物化学

(Biochemistry)

履修上の注意 /Remarks

教科書の「IV代謝」と「V遺伝子の発現と複製」の範囲を読んで十分な予習をすること。また、配布物およびワークシートに従って予習と復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年次の「基礎生物化学」の内容をよく復習して講義に臨んでください。前半には、代謝経路などいわゆる「記憶」すべき内容が多く有ります。日々の予習復習において、各経路における物質変化の様子を書き表せるようになるまで繰り返し、繰り返し、自らペンと紙を使って学習してください。後半にミカエリス・メンテンの式やラインウィーバーバークプロット法など反応速度の理解や、酵素反応の阻害や活性化についての理解を深めるための手法を学びます。成績評価には含めませんが、学習進度の高い学生は、さらにヒルの式など生化学反応の動的理解に有用な数値解析の手法についても学習することが望まれます。エクセルなどを使えば、自宅のPCで反応シミュレーションの自習も可能です。

キーワード /Keywords

基礎統計学

(Basic Statistics)

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF240M	◎				

科目名	基礎統計学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	-------	---

授業の概要 /Course Description

環境問題の考察においては、ある事象と別の事象との間に明らかな差があるかどうか判定が必要となるケースが多い。たとえば、「自動車のアイドリングをストップすると本当に二酸化炭素排出量を減らすことができるか」という疑問に答えるためには、測定データを統計的に解析して、ストップの有無における有意差を判定することになる。一方、実験や調査で得られる測定データにはさまざまな誤差が含まれているため、科学的な結論を得るには、統計の技法で誤差を適切に処理する必要がある。環境統計学では、これらの基本的な技法を学ぶ。また、演習問題として環境問題の解析事例を取り上げ、解析のポイントと直感力を養う。これら技法学習と事例演習の組み合わせにより、基礎学問の数学を実践的に活用していくことができるようになる。

到達目標
統計解析の基礎となる知識を体系的に理解している。

教科書 /Textbooks

石村園子(2006)「やさしく学べる統計学」共立出版、2160円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション
- 2 データの特徴を捉える1 (ヒストグラム、平均、分散など)
- 3 データの特徴を捉える2 (散布図、共分散、相関係数など)
- 4 母集団と標本、確率の表現1 (二項分布、ポワソン分布、多項分布など)
- 5 データの特徴を捉える3 (確率密度関数、分布関数など)
- 6 母集団と標本、確率の表現2 (正規分布、t分布、カイニ乗分布など)
- 7 点推定と区間推定
- 8 統計的検定の考え方
- 9 母平均の検定 (正規分布による検定)
- 10 母平均の検定 (t分布による検定)
- 11 復習テスト
- 12 2つの母平均は等しいか (正規分布による検定)
- 13 2つの母平均は等しいか (t分布による検定)
- 14 分割表の検定：カイニ乗検定
- 15 分割表の検定：正確確率検定

1~6回の担当 松本
7~15回の担当 加藤

基礎統計学

(Basic Statistics)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
小テスト・復習テスト・レポート40%
期末テスト 40%
新型コロナウイルス対策で対面授業が出来ない場合、評価項目や配点が変わることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

翌週の講義で用いる数理的手法の予習を行っておくこと。講義後には、復習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

各回の授業終了時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
関数電卓、定規を持参すること。
知識を身につけるために原則として毎回課題を出す。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境研究や実験データ分析に不可欠な統計学の基本を学ぶ。統計的思考法に慣れてほしい。

キーワード /Keywords

情報処理学

(Information Processing)

担当者名 /Instructor 鄭 俊如 / Junru ZHENG / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19 ~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF210M	○	◎	△		
科目名	情報処理学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

コンピュータを活用するための基礎的な情報処理能力を修得する。プログラミング演習を通じてプログラム (Excel VBA) の基礎、および数値計算における応用までを学ぶ。なお、演習の題材は線形代数学などの数学問題を中心に扱う。つまり、ベクトルや行列の基本的な演算方法の他、線形連立方程式の解法、差分法による微分方程式の計算等についてプログラミング演習を行う。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業で別途指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業で別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01 ガイダンス、マクロの作成と実行方法
- 02 プログラムの基本構造
- 03 データ型と変数
- 04 代入文、算術演算
- 05 数値計算と誤差
- 06 制御構造：分岐処理 (1) 基礎
- 07 制御構造：分岐処理 (2) 応用・演習
- 08 まとめ及び総合演習 (1)
- 09 制御構造：反復処理 (1) 基礎
- 10 制御構造：反復処理 (2) 応用・実践
- 11 VBAの応用：連立方程式の解法 (1) 基礎
- 12 VBAの応用：連立方程式の解法 (2) 応用・演習
- 13 VBAの応用：微分方程式の計算 (1) 基礎
- 14 VBAの応用：微分方程式の計算 (2) 応用・実践
- 15 まとめ及び総合演習 (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習課題・宿題 50%
 期末試験 40%
 日常の授業への取り組み 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】 前回の講義内容の理解・確認
- 【事後学習】 当日の講義内容の復習

情報処理学

(Information Processing)

履修上の注意 /Remarks

Excelおよびマクロ機能 (Excel Visual Basic)を使って学習します。各回の講義の積み重ねで全体の講義が構成されているので、毎回の講義内容、演習問題及び総合演習課題は完全に消化するよう努めて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミングは積極的に取組めば容易に習得できます。論理的な思考能力を養うのに最適な学習科目です。また、対象とする線形代数と微分方程式は工学の基礎であるとともに、コンピュータグラフィックスやシミュレーションの基本でもあります。1年次で学習した線形代数と微分方程式の基礎知識が必要になりますので、まえもって復習しておきましょう。

キーワード /Keywords

有機化学・物理化学実験

(Experiments in Organic Chemistry and Physical Chemistry)

担当者名 /Instructor 磯田 隆聡 / Takaaki ISODA / 環境生命工学科 (19~), 櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所
望月 慎一 / Shinichi MOCHIZUKI / 環境生命工学科 (19~), 木原 隆典 / Takanori KIHARA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM280M		◎		○	△
科目名	有機化学・物理化学実験			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本実習では2年前期の半年間で、生物学やバイオテクノロジーの基礎となる物理化学実験を前半に、有機化学実験を後半に行う。これは1年次後期から2年次後期にかけて学習する化学系の専門科目を本実習を通して理解を深め、生物、環境系の専門科目へ繋げることを目的としています。

まず物理化学実験では、原理を理解し、実験で検証し、データを整理して考察する方法論を習得します。これら実験的な検証方法の習得は、全てのサイエンスや工学に共通する基本です。

後半の有機化学実験も検証方法の習得は同じであるが、合成化学独自の操作法や器具の使い方が加わるのが特徴です。有機物質の分離・精製、変換・合成反応実験を実際に行うことにより、有機化学をより一層深く理解すること、有機化学に必要な基本操作を習得すること、および学生実験を通して実験・研究に対する正しい姿勢を身に付けることを目的としています。

また本実習では一貫して各担当教員がレポートを査読し、研究者、技術者として報告書を作成する能力を身に付けることも目的です。

教科書 /Textbooks

※初回ガイダンスで実験テキストを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※これまでに履修もしくは今期履修中の有機化学、無機化学、物理化学系必修科目で指定されている教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※新型コロナウイルス対策のため、2021年度2年生は1年次の学生実験を十分に修得できませんでした。そのため、実験技術の状況を見て、以下の内容は変更になる可能性があります。

第1章 実験をはじめるとあって (初回ガイダンス)

第2章 A 物理化学実験

A-0 受講上の注意事項

A-1 吸光度測定

A-2 密度・粘度測定

A-3 反応速度

A-4 等電点測定

第3章 B 有機化学実験

B-0 受講上の注意事項

B-1 アルコールの酸化・ケトンの還元

B-2 求核置換反応

B-3 Diels-Alder反応

有機化学・物理化学実験

(Experiments in Organic Chemistry and Physical Chemistry)

成績評価の方法 /Assessment Method

※詳細は初回のガイダンスで説明

物理化学実験は、2つのパート（A物理化学：木原担当、B有機化学：望月担当分）からなり、履修者は両パートを受講し、両方に合格をしなければ単位を修得できません。成績は次の項目について総合的に評価します。

- 1.実験内容・操作に関する予習
- 2.実験の態度（実験に真面目に、積極的に取り組んでいるか。注意深く観察し、実験ノートに書いているか。）
- 3.レポート・課題等（実験内容について十分に理解できているか。）

各パートの評価基準についてはそれぞれのガイダンスで確認すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

※詳細は各パートのガイダンスで説明

- ・事前学習：実験ノートに目的、実験方法（フローチャート）、使用する物質の物性等をまとめること
- ・事後学習：指定期日までにレポートをまとめ提出すること。査読返却後、修正を行い再提出すること。

履修上の注意 /Remarks

※詳細は初回のガイダンスで説明

評価とは別に以下の項目を減点項目とする。以下の項目に該当する場合、表記の点を全実験の合計点（100点満点）から減点します。

- ・無断欠席・・・1回60点
- ※体調不良の場合⇒診断書の提出必要
- ※忌引きの場合⇒事後に証明書の提出
- ・遅刻・・・1回20点（3回遅刻で不合格）
- ・レポート提出の遅れ（24時間以内）/未完成の場合・・・1回20点（3回の不備で不合格）

本科目は実習科目であるため、不合格の場合は「再履修」です。

ただし、次の事由による欠席・遅刻は、予めまたは事後の申し出と同時にそれを証明する書面の提出があれば出席扱いとし、補講実験を行います。

- (イ)入院や安静加療を必要とする本人の疾病
- (ロ)親族の葬儀
- (ハ)公共交通機関の遅れ・不通による遅刻・欠席

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学実験では、多数の人が多くの薬品を同時に取扱うため、不用意な行動が事故を引き起こすことがあります。化学実験での事故は、起こした本人のみならず、周囲にいる多数の人に多大な損害を与えます。その発生を防がなければなりません。そのためにしっかりと予習し、試薬の危険性や操作方法について十分な知識を身に付けて安全に実験を行うように心がけて下さい。

キーワード /Keywords

物理化学・無機化学・有機化学

基礎化学工学

(Introduction to Chemical Engineering)

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM260M	◎	○	△		

科目名	基礎化学工学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	--------	---

授業の概要 /Course Description

化学工学の目的とその学問体系について概説する。また、化学工学を習得するために不可欠な物質収支・エネルギー収支などの工学計算を、単位系 (SI単位) を意識して行えるようにする。さらに、化学装置内の流れを理解するために、流体の分類、流動状態、および流体の圧力損失などについて学習する。

到達目標は以下の通りです。

豊かな「知識」：化学工学に関する基礎的な知識を身につけている。

知識を活用できる「技能」：化学工学で必要とされる基礎データや数式などを、課題に応じて利用できる技能を身につけている。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：工業プロセスについて、化学工学的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

基礎化学工学 (化学工学会編) 培風館 (ISBN 978-4-5630-4555-5)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

化学工学 改訂第3版 一解説と演習一 朝倉書店 (ISBN 978-4-2542-5033-6)
 化学工学の計算法 (化学計算法シリーズ) 東京電機大学出版局 (ISBN 978-4-5016-1690-8)
 ベーシック化学工学 化学同人 (ISBN 978-4-7598-1067-7)
 はじめて学ぶ化学工学 工業調査会 (ISBN 978-4-7693-4202-1)
 化学工学便覧 改訂六版 丸善 (ISBN 978-4-6210-4535-0)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 進め方の説明、化学工学の目的とその学問体系
- 2 単位換算
- 3 物質収支 (1) 基礎式、計算手順、代数方程式の解
- 4 物質収支 (2) 手がかり物質の活用
- 5 物質収支 (3) 反応操作の物質収支
- 6 流体の圧縮性と粘性
- 7 円管内の流れ (1) Reynolds数
- 8 前半のまとめ
- 9 円管内の流れ (2) 層流、力のつり合い
- 10 円管内の流れ (3) 乱流
- 11 円管内の流れ (4) 摩擦係数とFanningの式
- 12 充填層の流れ
- 13 流れ系のエネルギー収支 (1) 機械的エネルギー保存の法則
- 14 流れ系のエネルギー収支 (2) 配管内流れのエネルギー損失
- 15 まとめ

基礎化学工学

(Introduction to Chemical Engineering)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (小テスト等) 20%
中間テスト 20%
期末テスト 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：予習として、テキストをよく読み、特に、用語・公式・定義などを確認しておくこと。
事後学習：次週の小テストに向けて、十分に講義内容の復習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

工学計算における数値の桁間違いを回避する工夫をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学工業においてプラントを設計・制御するためには、化学工学の素養が不可欠です。将来、化学分野の技術者を目指している学生は、化学工学の目的とその体系を理解した上で、工学計算が苦もなくできるように努力してください。

キーワード /Keywords

物質収支、エネルギー収支、化学装置内の流れ、工学計算

化学熱力学

(Chemical Thermodynamics)

担当者名 /Instructor 柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM213M	◎	○	△		

科目名	化学熱力学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			
-----	-------	---	--	--	--

授業の概要 /Course Description

化学熱力学は化学の原理を探求する学問であり、化学はもちろん生物学を学ぶものにとっても必要不可欠なものである。本講義では、様々な化学反応を理解する上で重要な熱力学第二法則、自由エネルギー、化学平衡、酸化還元などについて解説する。また、それらに応用した定性的及び定量的な分析法についても具体的事例や演習を交えて適宜講義する。

本講義の到達目標は以下の通りである。

- ・ 熱力学の理解に必要な基礎的専門知識を習得する。
- ・ 熱力学で「必要とされる基礎データや数式など」を、課題に対応して利用して「きる技能を身につける」。
- ・ 実際の熱化学現象に対して熱力学的考察の進め方を提示することができる。

教科書 /Textbooks

ポール物理化学(第2版)〔上〕 化学同人 (ISBN9784759817898)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

化学熱力学(物理化学入門シリーズ) 裳華房 (ISBN978-4-7853-3418-5)
基礎 物理化学II 一物質のエネルギー論一 サイエンス社 (ISBN978-4-7819-1072-6)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 熱力学第一法則の限界
- 2 熱力学第二法則
- 3 いろいろな過程のエントロピー変化
- 4 エントロピーの再定義と標準エントロピー
- 5 化学反応のエントロピーと生命科学
- 6 ギブズエネルギー, ヘルムホルツエネルギー
- 7 反応ギブズエネルギー
- 8 前半のまとめ
- 9 マクスウェルの関係式
- 10 化学平衡
- 11 イオン強度, 活量
- 12 酸化還元反応と自由エネルギー
- 13 電池
- 14 電極電位とネルンスト式
- 15 酸化還元反応の平衡定数

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小テスト等) 20%
中間テスト 40%
期末テスト 40%

化学熱力学

(Chemical Thermodynamics)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

用語・法則・定義などが多いので、確実な理解のために復習して講義に臨むこと。予習として、テキストをよく読んでくること。また、次週の小テストに向けて、十分に講義内容の復習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

原理を理解することだけでなく、それを使って正確な値を導けることも重要です。講義の中で適宜、演習を行いますので、積極的に取り組み、計算にも慣れてください。

キーワード /Keywords

分子生物学

(Molecular Biology)

担当者名 /Instructor 原 隆典 / Takanori KIHARA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0221M	◎	○			
科目名	分子生物学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

分子生物学は現代の生命科学の基礎となる学問です。この講義では、DNAの構造、DNAの複製、RNAへの転写、タンパク質への翻訳、タンパク質の一生、遺伝子発現制御といった内容を中心に講義をします。この講義ではこうした生物が作り出した機構について知識を得て理解することを目的としています。到達目標は、こうした分子生物学の機構についての基礎的な専門知識を修得し、さらにその機構について理解し、分析できる能力を身につけることです。

教科書 /Textbooks

- 【教科書】
- ・アメリカ版 大学生物学の教科書 第2巻 分子遺伝学 サダヴァ 他著 講談社ブルーバックス
 - 【問題集】
 - ・生化学・分子生物学演習 第2版 猪飼・野島 著 東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 分子生物学 第2版 柳田・西田・野田 編 東京化学同人
 Essential細胞生物学(原書第4版) Alberts 他 著 南江堂 (○)
 細胞の分子生物学 第6版 Alberts 他 著 ニュートンプレス (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 分子生物学の基本I (核酸について)
3. 分子生物学の基本II (遺伝情報について)
4. ノーベル医学・生理学賞概説
5. 基礎分子生物学I (DNA)
6. 基礎分子生物学II (DNAの複製)
7. 基礎分子生物学III (DNAの修復)
8. 基礎分子生物学IV (転写)
9. 基礎分子生物学V (翻訳)
10. 基礎分子生物学VI (タンパク質の一生)
11. 分子生物学I (クロマチン構造)
12. 分子生物学II (複製制御・トランスポゾン)
13. 分子生物学III (真核生物のセントラルドグマ)
14. 分子生物学IV (翻訳後修飾)
15. 分子生物学V (遺伝子発現制御・遺伝子工学)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加・課題 40%
 試験 60%

分子生物学

(Molecular Biology)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：授業の理解のために教科書の該当箇所を読んでおくこと（30分）。

事後：配布資料を読み返して授業内容の復習をし、問題集の該当箇所を解くこと（90分）。

履修上の注意 /Remarks

生物学および生化学（基礎生化学・生化学）の内容を前提としているため、十分に復習し理解しておくこと。

高校時代に生物学を十分に学習していない学生は、高校の参考書などを事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分子生物学は20世紀における最大の科学革命であり、さらに今世紀に入ってから新しい発見が行われている分野です。

生命が作り出した素晴らしい分子機構を感じて下さい。

キーワード /Keywords

生命科学分析

(Life Science Analysis)

担当者名 /Instructor 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
 櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所, 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 (19~)
 磯田 隆聡 / Takaaki ISODA / 環境生命工学科 (19~), 望月 慎一 / Shinichi MOCHIZUKI / 環境生命工学科 (19~)
 原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 (19~), 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)
 柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~), 木原 隆典 / Takanori KIHARA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 【必修】 環境生命工学科 (19~)
 /Department

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
B10200M	◎	○			
科目名	生命科学分析			※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下のように、生命科学の異なる分野の研究事例を学びながら、試料の取り扱いや環境分析、生態分析、化学分析、機器分析、数値解析などの知識および手法を身に着けます。本講義は、(1) 生命材料工学分野の教員に分担による講義および(2) 生物生態工学分野の教員の分担による講義から構成されます。生命材料工学分野の講義では、化学を基礎とする分子レベルから個体レベルの生命現象の解明やバイオマテリアルの開発やバイオテクノロジー分野での研究に必要な基礎知識を実際の研究事例を通じて学びます。生物生態工学分野の講義では、生態系および生態系を構成する生物の機能の理解に必要な知識・手法を研究事例から学びます。

教科書 /Textbooks

指定なし (各担当教員が適宜、参照資料等を指示)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指定なし (各担当教員が適宜、参照資料等を指示)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
 第2 ~ 8回 生命材料工学分野の講義 (左記分野の5名の教員で担当)
 第9 ~ 15回 生物生態工学分野 (左記分野の5名で担当)

成績評価の方法 /Assessment Method

各講義時間内に各教員が実施する小テストあるいは課題 (レポートを含む) の評価を集計し、評点とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義での学習内容について課題・演習を通して理解を深めるために、各分野で行われている研究分野の予習を行うことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

各講義では、分担する教員が資料および演習問題などのプリントを配布して行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今後、卒業研究を視野に入れた専門性の高い学習に進むにあたり、様々な分野での研究の動向や必要とされるスキル等を理解する重要な機会となります。

生命科学分析

(Life Science Analysis)

キーワード /Keywords

環境分析、分析化学、機器分析、生物化学、生物物理、分子生物学、微生物学、バイオマテリアル、細胞生物学、生態系、植物、動物、メタカル、環境影響評価、バイオセンシング

数理解析学

(Mathematical Analysis)

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MTH250M	◎	○			

科目名	数理解析学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	-------	---

授業の概要 /Course Description

研究や業務では、様々なデータの関係を数理的に調べる必要が生じることが多い。このために役立つ統計学の手法を学ぶ。とくに、たくさんのデータの相互関係を調べる多変量解析の手法に着目する。クラスター分析、主成分分析、因子分析、回帰分析等の手法を取り上げ、そのしくみと応用方法を身につける。実践的な理解促進のために環境問題等に関わるデータを事例として用いる。

到達目標
多変量解析の基礎となる知識を体系的に理解している。
現実の問題に多変量解析を適用する能力を有している。

教科書 /Textbooks

配付資料を使用

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 加藤豊(2020)「例題でよくわかるはじめての多変量解析」森北出版 2200円 + 税
- 片谷教孝、松藤敏彦(2003)「環境統計学入門」オーム社 2700円 + 税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、環境解析への多変量解析応用事例紹介
 - 2 数学的復習 (確率、最適化問題など)
 - 3 似たデータをまとめる：クラスター分析1【クラスター分析の概念】
 - 4 似たデータをまとめる：クラスター分析2【クラスター分析の演習】
 - 5 データの特徴を指標化・背後の構造を探る：主成分・因子分析1【主成分分析の概念】
 - 6 データの特徴を指標化・背後の構造を探る：主成分・因子分析2【因子分析の概念】
 - 7 データの特徴を指標化・背後の構造を探る：主成分・因子分析3【主成分・因子分析の演習】
 - 8 1つのデータをもう1つのデータで説明：単回帰1【単回帰の概念】
 - 9 1つのデータをもう1つのデータで説明：単回帰2【曲線回帰】
 - 10 1つのデータをもう1つのデータで説明：単回帰3【変数の検定】
 - 11 1つのデータを多くのデータから説明：重回帰1【重回帰の概念】
 - 12 1つのデータを多くのデータから説明：重回帰2【変数の検定】
 - 13 1つのデータを多くのデータから説明：重回帰3【モデル選択】
 - 14 3つ以上の母集団の平均値を比較【分散分析の概念】
 - 15 3つ以上の母集団の平均値を比較【分散分析の応用】
- 1から2回、8から15回の担当：加藤 尊秋
3から7回の担当：松本 亨

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
小テスト・レポート 40%
期末テスト 40%
新型コロナウイルス対策で対面授業が出来ない場合、評価項目や配点が変わることがあります。

数理解析学

(Mathematical Analysis)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

翌週の講義で用いる数理的手法の予習を行っておくこと。講義後には、復習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

1学期の「基礎統計学(環境統計学)」で学んだ統計の基礎知識が不可欠である。
各回の授業終了時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
学術情報センター講義室でパソコンによる演習を行う予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

複雑なデータの構造を探る多変量解析の基礎を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

環境マネジメント概論

(Introduction to Environmental Management)

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~)
二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19~), 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)
藤山 淳史 / Atsushi FUJIYAMA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV220M	◎		○		
科目名	環境マネジメント概論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

多様な要素が関係する環境問題を解きほぐし、その対策・管理手法を考えるための基礎知識を修得することが目標である。まず、人間活動がどのように環境問題を引き起こしているのか、その本質的原因を知るために、経済システムや都市化、工業化、グローバル化といった視点から環境問題を捉える。次に、環境の現況把握のための評価手法、目標設定のための将来予測の考え方を学び、さらに、環境マネジメントの予防原則に則った法制度、国際規格、環境アセスメント、プロジェクト評価手法、環境リスク管理等の基礎を習得する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない（講義ではプリントを配付する）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

環境システム（土木学会環境システム委員会編、共立出版）○
環境問題の基本がわかる本（門脇仁、秀和システム）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- < 環境問題を考える視点 >
- 1 環境システムとそのマネジメント（松本）
- < 環境問題の原因を考える >
- 2 都市化・工業化・国際化（二渡）
- 3 市場と外部性（加藤）
- < 環境の状態をつかみ目標を決める >
- 4 地域環境情報の把握と環境影響予測（野上）
- 5 製品・企業の環境パフォーマンス（藤山）
- 6 地球環境の把握と将来予測（松本）
- 7 経済学的手法による予測（加藤）
- < 環境をマネジメントする >
- 8 国内・国際法による政策フレーム（藤山）
- 9 国際規格による環境管理（二渡）
- 10 開発事業と環境アセスメント（野上）
- 11 環境関連プロジェクトの費用と便益（加藤）
- 12 環境リスクとその管理（二渡）
- 13 環境情報とラベリング（藤山）
- < 事例研究 >
- 14 企業（野上）
- 15 行政（松本）

環境マネジメント概論

(Introduction to Environmental Management)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テスト 42%
期末試験 58%

※2/3以上出席すること

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は特に必要ないが、毎回の講義を十分に理解するよう事後の復習に努めること。

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の最後にその回の内容に関する小テストを実施するので集中して聞くこと。
欠席すると必然的に小テストの得点はゼロとなる。
小テストは講義の最後なので、早退の場合も欠席同様、小テストの得点はゼロとなるので注意が必要である。
30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境生命工学科環境マネジメント分野の教員全員による講義です。環境問題の本質をつかみ、理解し、解決策を見出すための理念と基礎手法を解説します。工学部出身者として、今やどの分野で活躍する場合でも習得しておくべき知識と言っていいでしょう。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

生物工学実験

(Experiments in Biological Engineering)

担当者名 /Instructor 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~), 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 (19~)
河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~), 柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0280M		◎		○	△
科目名	生物工学実験		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習では、生体分子から細胞までを取り扱うバイオテクノロジーに関する基本原理と操作を学び、環境生命工学分野の諸問題に対応できる能力を養う。本実習で習得する知識・技術は、卒業研究のみならず、将来的に環境生命工学分野で活躍するために役立つものである。

教科書 /Textbooks

実習書を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスで紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 実習ガイダンス・安全教育
2. 微生物分野 実験手順説明
3. 微生物の培養
4. 微生物の分離と性質
5. 酵素分野 実験手順説明
6. 酵素の調製
7. 酵素の測定 (酵素活性)
8. 前半実習のまとめ
9. タンパク質分析分野 実験手順説明
10. サイズ排除クロマトグラフィー
11. ELISA法 (細胞結合免疫吸着法)
12. 遺伝子分野 実験手順説明
13. PCR法
14. 遺伝子工学
15. 後半実習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に必ず実習書をよく読み、必要な知識の整理をしておくこと。また、各実習後には原理や手法の理解を深め、レポートを作成すること (文献調査を含む)。

生物工学実験

(Experiments in Biological Engineering)

履修上の注意 /Remarks

実験室は非常に危険な場所であり、人体に悪影響を及ぼす試薬類を扱う場合もあることから、教員やEAからの注意事項および実習室でのルールを必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

物理化学

(Physical Chemistry)

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM310M	◎	○			

科目名	物理化学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			
-----	------	---	--	--	--

授業の概要 /Course Description

物理化学は化学の原理を探究する学問であり、化学を学ぶものにとっては必要不可欠なものである。本講義では、物理化学の基礎として重要な「量子力学」と「反応速度論」について講義する。

到達目標は以下の通りである。

豊かな「知識」：物理化学に関する基礎的な知識を身につけている。

知識を活用できる「技能」：物理化学で必要とされる基礎データや数式などを、課題に応じて利用できる技能を身につけている。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：対象とする現象について、物理化学の理論を用いて理解し、自分の考えを論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

ポール 物理化学(上)第2版 化学同人 (ISBN 978-4-7598-1789-8)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アトキンス 物理化学(上)第10版 東京化学同人 (ISBN 978-4-8079-0908-7)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 進め方の説明、物理化学の学問体系
- 2 古典力学
- 3 量子力学(1)波動関数
- 4 量子力学(2)不確定性原理
- 5 量子力学(3)シュレディンガー方程式1
- 6 量子力学(4)シュレディンガー方程式2
- 7 量子力学(5)水素原子の波動関数
- 8 前半のまとめ
- 9 原子と分子(1)スピン軌道とパウリの原理
- 10 原子と分子(2)構成原理、変分理論
- 11 原子と分子(3)分子軌道の性質
- 12 反応速度論(1)反応速度と速度式
- 13 反応速度論(2)平衡反応
- 14 反応速度論(3)定常状態近似
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小テスト等)20%

中間テスト20%

期末テスト60%

物理化学

(Physical Chemistry)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：予習として、テキストをよく読み、特に、用語・公式・定義などを確認しておくこと。
事後学習：次週の小テストに向けて、十分に講義内容の復習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

物理化学は原理を理解することだけでなく、それを使って正確な値を導けることが重要です。講義の中で適宜、演習を行いますので、積極的に取り組み、計算にも慣れてください。

キーワード /Keywords

量子力学、分子軌道、反応速度論

有機化学

(Organic Chemistry)

担当者名 /Instructor 望月 慎一 / Shinichi MOCHIZUKI / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM320M	◎	○			
科目名	有機化学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

化学の最も重要な基礎学問の一つである有機化学を発展的に理解し、官能基の化学反応に関して、反復演習によって理解力を積み上げる。1年次履修の基礎有機化学で身につけた知識を活かし、電子の移動をもとにして化学反応を理解する力を身につけることを目標とする。随時、有機化学の応用分野である、生物学や医学、工学での実例を紹介する。

教科書 /Textbooks

ポルハルト・ショアー現代有機化学(上)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ハロアルカンの性質と反応の復習
- 2 ヒドロキシ官能基：アルコールの性質
- 3 ヒドロキシ官能基：アルコールの合成
- 4 アルコールの反応とエーテルの化学(1)
- 5 アルコールの反応とエーテルの化学(2)
- 6 アルケンの物理的性質
- 7 アルケンの合成
- 8 アルケンの反応(1)
- 9 アルケンの反応(2)
- 10 アルキンの性質
- 11 アルキンの合成
- 12 非局在化したπ電子系
- 13 Diels-Alder環化反応(1)
- 14 Diels-Alder環化反応(2)
- 15 電子環状反応

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：1年後期の基礎有機化学をよく復習・理解しておくこと
事後学習：教科書、板書をよく復習すること

履修上の注意 /Remarks

復習をしっかりすること

有機化学

(Organic Chemistry)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

有機化学は化学の最も重要な基礎学問の一つである。化学系の専門分野での仕事には不可欠な学問分野であることを十分に自覚して講義にのぞむこと。

キーワード /Keywords

無機化学

(Inorganic Chemistry)

担当者名 /Instructor 磯田 隆聡 / Takaaki ISODA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM330M	◎		○		
科目名	無機化学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

大学で学ぶ化学は無機化学、有機化学、物理化学の3つの分野が柱となり、さらに様々な応用化学や生物化学、生物学へと繋がる学問体系になっています。

環境生命工学科では基礎無機化学が1年次の必修科目に指定され、生物・化学系学生の基礎化学の理解に必要な①化学の基礎と原子の構造 ②元素の周期的性質 ③化学結合と分子構造について学習します。

そして3年次では無機化学を選択必修科目とし、生物材料の原理やしくみの理解に必要な応用化学が履修できるように科目設定されています。特に本講義では①タンパク ②酵素 ③バイオセンサの3つの代表的なバイオマテリアルを取り上げ、1年次で学習した基礎無機化学の発展的な理解を目的としています。

この応用化学を修得できると、3年生後期の環境生命工学実習や4年生の卒業研究、大学院での修士論文研究などの様々な場面で、最先端の生命現象の仕組みや生物工学の原理を理解できるようになります。

また皆さんが将来、材料開発、医薬品工業、化粧品や食品工業などの分野に就職し、活躍する際にも必ず役立つ知識です。本講義では生物材料を題材とした無機化学や物理化学について、講義と演習の形式で理解を深めていきます。

教科書 /Textbooks

①基礎からの無機化学 (山村博、門間英毅、高山俊夫 共著 / 朝倉出版 / ISBN: 978-4-254-14075-0)

注1: 基礎無機化学 (1年次) の指定教科書のため、改めて購入の必要はありません。

②バイオセンサー入門 (六車仁志 / コロナ社 / ISBN: 4-339-00759-5)

注2: 購入は任意ですが、3年生分野分けて生命材料分野に配属された受講生は必ず購入して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

無機化学

(Inorganic Chemistry)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに (ガイダンス)
バイオテクノロジーを支える電子工学 (細胞融合・遺伝子導入・生体電気現象・質量分析)
2. バイオテクノロジーを支える無機化学 (1) 電気化学の基礎 (酸化と還元・イオン電極)
3. バイオテクノロジーを支える無機化学 (2) 半導体の基礎
4. バイオテクノロジーを支える無機化学 (3) 電界トランジスターと化学センサ

5. 演習1

6. 生化学を理解するための無機化学 (1) タンパク質の1次構造と分析
7. 生化学を理解するための無機化学 (2) 酵素の働きと分析
8. 生化学を理解するための無機化学 (3) 抗体のしくみと免疫反応
9. 生化学を理解するための無機化学 (4) DNAの分析

10. 演習2

11. 無機化学のバイオへの応用 (1) 血糖値センサ
12. 無機化学のバイオへの応用 (2) 酵素センサ
13. 無機化学のバイオへの利用 (3) 免疫センサ
14. 無機化学のバイオへの利用 (4) DNAチップ

15. 演習3

成績評価の方法 /Assessment Method

評価方法

100点満点 = 演習点 (90点 : 30点×3回) + 平常点 (10点)

※注 1 : 本講義は期末試験は実施しない。講義に毎回出席し、演習3回を必ず受けること。

※注 2 : 演習形式のため、追試やレポート等の措置はない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 : 前回講義の確認テストが解けるように、事前に予習しておくこと。

事後学習 : 講義スライドをプリントした資料を毎回配布するので、この内容を各自でノートにまとめておくこと (演習ではこのノートの持ち込みのみ許可しますので、事前に十分準備しておくこと)

履修上の注意 /Remarks

- ①本講義は演習形式です。講義中にノートをとる時間を節約して、演習に時間を置きます。
- ②そこで講義スライドをプリントした資料を毎回配布します。
- ③配布資料はモノクロ印刷です。各自色のついたペンを用意して、重要箇所をマークしたり、メモをとるとよいでしょう。
- ④演習では各自の教科書と、自分でまとめたノートの持ち込みのみ認めます。
(配布資料やコピー、画像データの持ち込みは不正扱いになるので十分注意すること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数学や物理、化学を理解するには、原理図を描いたり、数式を解いたりして理解を深めます。本講義も学習効果を高めるため、毎回の確認テストで理解度を確認します。分からない箇所は事後に必ず質問して、確認してください。そして演習では、各自の教科書と事前に整理したノートを持ち込み、学習の理解の達成度を確認して下さい。ノートと教科書がない場合は演習を受けられません。十分に注意して下さい。

キーワード /Keywords

無機化学、電子、電気、生化学、生物材料、バイオマテリアル

生物工学

(Biological Engineering)

担当者名 /Instructor 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 環境生命工学科 (19 ~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0330M	◎	○	△		

科目名	生物工学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			
-----	------	---	--	--	--

授業の概要 /Course Description

酵素、微生物、動植物細胞などを産業利用する場合、原料調製、反応、分離といった一連のプロセスを考えることが重要である。本講義では、生体触媒の特性や調製に関わるアップストリームプロセス、バイオリアクター操作などのプロダクションプロセス、バイオセパレーションなどのダウンストリームプロセスを学び、バイオプロダクトの生産について理解する。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入 (生物工学とは)
- 2 バイオプロセスの構成
- 3 生体触媒の特徴
- 4 酵素反応速度論 1 【反応条件】
- 5 酵素反応速度論 2 【速度論】
- 6 細胞反応速度論 1 【反応条件】
- 7 細胞反応速度論 2 【速度論】
- 8 前半の復習、確認テスト
- 9 培養操作
- 10 バイオリアクター
- 11 酸素供給
- 12 スケールアップ
- 13 バイオセパレーション 1 【破碎・遠心・抽出】
- 14 バイオセパレーション 2 【膜分離・クロマトグラフィー】
- 15 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・演習 10%
確認テスト 45%
期末テスト 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の予備学習を行うとともに、授業後には反復学習により理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

生物工学

(Biological Engineering)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物を利用する産業において、バイオプロセスを理解できる（理解している）ことこそが工学系出身の強みといえます。

キーワード /Keywords

生態工学

(Ecological Engineering)

担当者名 /Instructor 原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19 ~) 【選択必修】 環境生命工学科 (19 ~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
B10320M	◎	○	△		
科目名	生態工学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

生態系の機能や生態系が維持される機構を学び、ここから生態系の保全技術、利活用法について考究します。講義の前半では、個々の生態系についての機能や維持機構について解説します。後半では、生態系の諸要素を計測し、評価する方法、および生態系保全技術について解説します。

この授業の到達目標は、以下の通りです。

豊かな「知識」：さまざまな生態系で起こっている問題について、多角的な視野から深く理解し、その問題がどのような生態現象とかがわりがあるのかについて正しく理解している。

知識を活用できる「技能」：さまざまな生態現象や生態系にかかわる問題について、論理的な文章により、異分野の者や一般社会人にもわかりやすく説明することができる。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：生態系や生態現象にかかわる知識が、人間生活の改善とどのようなかかわりを持っているのかについて深く洞察し、相対立する複数の視点から自己の意見を述べるすることができる。

教科書 /Textbooks

生態学入門—生態系を理解する— 第2版 原口昭 編著 生物研究社 ISBN 978 4 915342 71 4

* 基盤教育科目・教養教育科目(環境)の「生態学」でも同書を使用します

* 講義前半の「第1部 生態系の機能と保全」で使用します

* 第2版の内容に準拠して講義を行いますので、第2版を用意してください

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○日本の湿原 原口昭 著 生物研究社 ISBN 978 4 915342 67 7

生態工学

(Ecological Engineering)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1部 生態系の機能と保全

1. 森林生態系
2. 陸水生態系
3. 湿地生態系
4. 海洋生態系
5. 熱帯林生態系
6. 農林生態系
7. エネルギーと生態系

第2部 生態系の評価法

1. 植物群集の調査法
2. 動物個体群の調査法
3. 土壌調査法
4. 水圏調査法
5. リモートセンシング法

第3部 生態系保全技術

1. 生物多様性の評価
2. 水質保全
3. 土壌保全

* 講義の内容と順序は変更になる場合があります

* 休講の場合は、遠隔講義（オンデマンド講義としてMoodleで配信）にて補講を行います。休講・補講の通知は、Moodle上にものみ掲示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート試験：100%

評価基準：講義内容を正しく理解していること、講義内容に関して十分に考察を行っていること、各自の意見をまとめてわかりやすく説明していること、体裁が整った読みやすいレポートであること、を評価基準とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習は必要ありませんが、開講日までに基盤教育科目・教養教育科目（環境）の「生態学」の復習をしておくか、もしくは指定教科書を通読しておくことで理解が深まります。レポート試験を課しますので、講義内容を復習し、質の高いレポートを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育科目「生態学」が基礎となっている講義科目であるので、事前に「生態学」を履修しておくことと、「生態学」の講義内容を復習しておくことを勧めます。

なお、休講・補講・教室変更の通知や課題の提出など、講義に関係する通知は、特別な場合を除きMoodle上にものみ掲示しますので、毎回の講義の前にはMoodleを確認するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生態系や生物・環境調査に興味がないと、講義に意欲的に臨めない可能性がありますので、選択の際はその点をよく検討してください。

キーワード /Keywords

生態系、環境計測、環境アセスメント、生物調査法、保全

環境経済学

(Environmental Economics)

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~) 【選択必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV350M	◎	○			

科目名	環境経済学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	-------	---

授業の概要 /Course Description

環境問題に関し、経済学的な観点から、社会にとって良い政策とは何かを考える。2部構成とし、第一部では、ミクロ経済学の知識を必要な範囲で伝授する。第二部では、環境税や排出権取引のしくみを説明する。実際の政策の議論では、さまざまな論点が混じり合い、これらの対策の本来の意義が見えにくくなっているため、原点に立ち返ることを学ぶ。

到達目標
経済学の環境分野への応用に係る基礎的な知識を体系的に理解している。
現実の問題を環境経済学の知識を用いて分析する能力を有している

教科書 /Textbooks

説明用のプリントを配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の進度に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：環境問題と経済学
- 2 需要曲線と消費者余剰
- 3 費用と供給曲線 1【費用の概念】
- 4 費用と供給曲線 2【供給曲線の導出】
- 5 供給曲線と生産者余剰
- 6 市場と社会的余剰 1【市場の機能】
- 7 市場と社会的余剰 2【社会的余剰の算出】
- 8 中間テストと前半の復習
- 9 環境問題と環境外部性
- 10 環境税のしくみ 1【社会的余剰最大化】
- 11 環境税のしくみ 2【汚染削減費用最小化】
- 12 排出権取引のしくみ 1【汚染削減費用最小化】
- 13 排出権取引のしくみ 2【初期配分の意義】
- 14 環境税と排出権取引の比較
- 15 事例紹介

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
小テスト・中間テスト 20%
期末テスト 35%
レポート 15%
新型コロナウイルス対策で対面授業が出来ない場合、評価項目や配点が変わることがあります。

環境経済学

(Environmental Economics)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

翌週の授業に関わる社会的事象の整理を事前に行ってください。また、講義後には、講義内容の復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

各回の授業終了時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
高校レベルの微分積分および基本的な偏微分の知識を前提とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題に対する経済学的対処法に興味がある人は、ぜひ受講してください。理解促進のために5回程度の小テストを実施予定です。公務員試験を受ける人は、ミクロ経済学の勉強にもなります。

キーワード /Keywords

環境マネジメント学

(Environmental Management)

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~)
二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19~), 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)
藤山 淳史 / Atsushi FUJIYAMA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~) 【選択必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV320M	◎				
科目名	環境マネジメント学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

環境マネジメント（環境経営）とは、環境保全活動を推進するだけでなく生産、調達、販売、財務などを通じて経営のあらゆる場面で環境に配慮し、環境活動を通じて経営改善を図ることである。環境マネジメントシステムや環境監査、環境会計、環境報告書、ライフサイクルアセスメント、環境適合設計、環境ラベル、グリーン購入・グリーン調達など様々な環境経営支援手法がある。本講義では、それらの内容を理解する。

到達目標

豊かな「知識」：環境マネジメントに関する各種手法を理解し、その実施・運用ができるスキルと知識を修得する。

教科書 /Textbooks

岡本眞一編著「環境経営入門 [第2版]」日科技連

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

國部克彦他「環境経営・会計」有斐閣アルマ
エコビジネスネットワーク編「よくわかる環境ビジネス」産学社
環境省編「環境白書 各年版」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境とその管理
- 2 環境と経済
- 3 環境問題と経営
- 4 環境問題と企業
- 5 企業の環境経営・社会的責任経営
- 6 環境ビジネス
- 7 環境マネジメントシステム① (システムの概要、要求事項)
- 8 環境マネジメントシステム② (認証制度と普及状況)
- 9 環境会計
- 10 環境リスク管理と環境コミュニケーション・環境報告書
- 11 製品の環境配慮・環境適合設計・環境ラベル
- 12 環境マーケティング・グリーン購入
- 13 環境調和型社会の構築
- 14 環境マネジメントのめざす方向
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
レポート 20%
期末試験 60%

環境マネジメント学

(Environmental Management)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で紹介する図書や資料、環境省・経済産業省等のホームページ等を活用して、授業内容の復習を必ず行うこと。
テキストに添って授業を進めるので、事前・事後学習を行うこと。とくに、章末問題を考えてみること。
レポート課題について、各自でインターネット等を使って丁寧に調べること。

履修上の注意 /Remarks

「環境マネジメント概論」を受講しておくこと。
専門用語が頻出するので、毎回出席すること。用語の意味がわからないときは、積極的に質問したり、ネット検索でも構わないのでその場で調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に知識を習得するだけでなく、自分で考える習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

環境マネジメントシステム 環境会計 環境報告 環境ラベル 環境ビジネス

バイオインフォマティクス

(Bioinformatics)

担当者名 /Instructor 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19 ~) , 倉田 博之 / Hiroyuki KURATA / 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 (19 ~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0331M	◎	○			
科目名	バイオインフォマティクス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

これまでに生物科学の基礎科目では、生物が様々な情報を処理する能力を持つこと、そのような情報処理がホメオスタシス、遺伝、進化など多くの生命現象の中で中心的な役割を果たしていること、生命現象のカギを握るDNA、RNA、タンパク質などの分子の構造や機能が、塩基やアミノ酸の「配列情報」として扱えることなどを学んだ。このように生命を理解するには、情報という視点が重要である。近年、情報科学・技術と分子生物学の発展により、バイオインフォマティクス(Bioinformatics、生物情報科学)とよばれる研究領域が大きな発展を遂げた。本講義では、バイオインフォマティクスの理解に必要な生命科学と情報科学の基礎を理解し、バイオ研究におけるコンピュータを使ったアプローチについて学ぶ。また、インターネット上に公開されているデータベースやツールの活用法についても学ぶ。

教科書 /Textbooks

必要に応じて教材をプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) はじめてのバイオインフォマティクス 講談社
- (2) 東京大学バイオインフォマティクス集中講義 羊土社
- (3) バイオインフォマティクス 第2版 メディカル・サイエンス・インターナショナル

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) バイオインフォマティクスとは何か
- (2) バイオインフォマティクスのための分子生物学、生化学、細胞生物学
- (3) 生物による情報処理
- (4) 生物における情報記録媒体
- (5) 遺伝と進化
- (6) DNAの塩基配列とデータベース
- (7) タンパク質のアミノ酸配列とデータベース
- (8) 前半の復習、確認テスト
- (9) タンパク質の立体構造
- (10) ゲノム診断
- (11) プロテオーム
- (12) トランスクリプトーム
- (13) システム生物学 (1) システム同定・推定
- (14) システム生物学 (2) システム制御
- (15) 後半の復習、確認テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (積極的な授業参加、小テスト等) 20%
確認テスト 40%
期末テスト 40%

バイオインフォマティクス

(Bioinformatics)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：生物化学等の低学年時の内容をよく復習しておくこと
事後学習：毎回の講義内容をよく復習しておくこと

履修上の注意 /Remarks

本講義は、夏季の集中講義として実施する予定です。講義の終わりに復習のポイントと次回の予習のポイントを指示します。自習のためのPCとインターネット環境を用意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境保全学

(Environmental Conservation)

担当者名 /Instructor 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / 非常勤講師, 成富 勝 / Masaru NARUTOMI / 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV330M	◎	○	△		

科目名	環境保全学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	-------	---

授業の概要 /Course Description

第二次世界大戦後の人間活動の急拡大が、地球環境に大きな影響を与え、現在を「人新世」という想定上の地質時代で呼ぶことがある。人間活動の影響は気候変動、土地利用の変化、海水の酸性化などを通じて、最終的に生態系に現れており、現在第6の生物大量絶滅が進行していると考えられている。

生物絶滅・生態系の劣化原因には、様々な生息環境の改変や農薬などの有害化学物質の影響が含まれており、本講義では(1)国土の緑地保全、景観保全、屋上緑化空間の形成・維持など、豊かな緑と生物の多様性を確保した生態系からなる緑地を創造する技術および維持管理の手法を学ぶ。また、(2)重金属や農薬などの有害な化学物質によるヒトを含む生物への悪影響を正しく評価・理解し、適切に選択・行動するために環境リスクを学ぶ。環境リスクの講義では、化学物質のリスクを評価するための有害性評価、暴露評価、リスク判定手法を講義と演習を通じて具体的に学び、リスクの大きさに基づいて行動する重要性を認識する。

本講義は、2名の講師が分担して講義する(前半：環境リスク学、後半：生態保全工学)。

なお、本講義の到達目標は、次の通りである。

豊かな「知識」：環境保全の基盤となる知識を総合的に習得する。

知識を活用できる「技能」：化学物質による環境リスクを計算する手法を身につける。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：環境問題を科学的に理解・考察し、問題の原因やその解決策を思考する力をつける。

教科書 /Textbooks

各教員が配付資料を準備する。また、必要に応じて下記の図書を購入・参照すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

プラネタリー・バウンダリーに関しては、J. ロックストローム・M. クルム「小さな地球と大きな世界、プラネタリー・バウンダリーと持続可能な開発」丸善出版

環境リスクに関しては、吉田喜久雄・中西準子「環境リスク解析入門[化学物質編]」東京図書、中西準子他「演習環境リスクを計算する」岩波書店などがある。

環境保全学

(Environmental Conservation)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.プラネタリー・バウンダリー
- 2.化学物質とは
- 3.化学物質の有害性確認と用量反応関係
- 4.化学物質の暴露解析
- 5.リスク判定
- 6.生態リスク評価
- 7.化学物質のリスク計算1(演習)
- 8.化学物質のリスク計算2(演習)
- 9.生物多様性と生態系
- 10.環境保全と野生生物の保護及び外来種対策
- 11.ビオトープの保全・創出(I)ビオトープの定義とビオトープの創出事例
- 12.ビオトープの保全・創出(II)ビオトープの事例と生き物調査の事例
- 13.緑地の創造・造園学(概説、施工事例)
- 14.都市の緑化技術(I)環境緑化技術の紹介
- 15.都市の緑化技術(II)施工事例と緑化計画

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内の課題70%(環境リスクに関する授業では、1回前の授業内容に関するミニテストを実施する。)
レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料による予習・復習が重要である。
日常生活の中で環境リスクに関する事項に関心を持つこと。例えば、ニュースや新聞記事に日頃から注意する。授業開始時に前回の授業内容に関するミニテストを行うので、復習を行っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

集中講義で開講する。
説明が分からなかったところはそのまませず、教員への質問や復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

前半と後半の順序が変更になることがある。
化学物質を扱う企業だけでなく、一般環境や日常生活の中にも環境リスクは存在する。国際社会・地域社会における環境リスクの評価や管理の方法を学びたいという学生を歓迎する。

キーワード /Keywords

環境/生態系保全/化学物質リスクアセスメント/リスクコミュニケーション

環境分析実習

(Experiments in Environmental Analysis)

担当者名 /Instructor 原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 (19 ~) , 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19 ~)
松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19 ~)
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19 ~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM380M		◎	○	△	△
科目名	環境分析実習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習では、前半に環境分析にかかわる実験操作の実習（環境分析実験操作）を、後半では環境マネジメントに関する実習（環境マネジメント実習）を行います。

環境分析実験操作（前半）

環境中に存在する成分の組成や構造、元素分布などの物質情報を、空間的および時間的変遷も含めて得ることが必要ですが、そのもっとも基礎的な解析として、環境中に存在する物質がどのような物質であり、どの程度の量存在するのかを知ることは必須です。それを明らかにするのが化学・物理・生物的分析技術であり、この環境分析にかかわる実験操作の実習では、水質、大気および土壌の環境指標項目について、適切な機器・器具を用いて、試料調製・前処理・分離濃縮操作を含めた定性及び定量分析の実習を行います。また、環境分析実習では得られた分析データの統計的な取り扱いについても実習します。

環境マネジメント実習（後半）

環境問題に関連した様々な課題の解決のためには、環境問題の①駆動力・圧力、②状態、③政策・対策の効果を総合的に把握する必要があります。環境問題に対する駆動力となる人口、自動車交通、事業活動、産業活動等の現状把握と将来推計、さらに環境負荷物質の排出量予測と対策効果推計のためには、様々な社会統計に触れ、そこからトレンドを把握し、将来予測のための推計式を選定する必要があります。また、廃棄物や二酸化炭素等の環境負荷物質の発生量推計、対策の効果推計のための原単位法等が用いられます。これらのための統計的手法、システム分析手法を後半の演習で学びます。

環境分析実験操作（前半）と環境マネジメント実習（後半）に共通したこの授業の到達目標は、以下の通りです。

知識を活用できる「技能」：実習テキストを読んで正確に実験操作・解析作業ができ、かつ安全に実験操作が行え、廃棄物の適切に行うことができる。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：レポートは、正しい文章で記述できること、読者に対して不快感を与えない体裁であること、実験操作の原理と方法を正しく理解して記述していること、得られた計測値について正しくデータ処理を行い必要な変数をもれなく正しく計算して示していること、データおよびその解析結果を完結にわかりやすく示していること、変数から適切な考察を行いこれを必要かつ十分な文章で記述していること。

組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」：共同作業の場合には他の作業者と連携・協調して作業が行え、実験室でのマナーを遵守している。

社会で生きる「自立的行動力」：社会において必要とされる基礎的技術や、ルール・マナーについて修得し、これを実習の中で実践している。

環境分析実習

(Experiments in Environmental Analysis)

教科書 /Textbooks

環境分析実験操作 (前半)
環境生命工学科において作成した実習テキストおよび分析機器マニュアルを使用します。

環境マネジメント実習 (後半)
環境生命工学科において作成した実習テキストを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

環境分析実験操作 (前半)
1) 土壌標準分析・測定法委員会編 日本土壌肥料学会監修 (1994)「土壌標準分析・測定法」 博友社 ISBN4-8268-0089-4
2) ベドロジスト懇談会編 (1994)「土壌調査ハンドブック」 博友社 ISBN4-8268-0073-8
3) 半谷・高井・小倉著 (1999)「水質調査ガイドブック」 丸善 ISBN4-621-04588-1
4) Wetzel, R. G. & Likens, G. E. (2000) Limnological Analyses (3rd ed.) Springer, New York. ISBN0-387-98928-5
そのほか、実習テキストや授業の中で適宜紹介します。

環境マネジメント実習 (後半)
実習テキストや授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

環境分析実験操作 (前半)

- 第1回 実習説明会、安全指導
- 第2回 実験操作講義、実験準備
- 第3回 水質分析：全有機炭素濃度などの定量分析
- 第4回 水質分析：全窒素濃度などの定量分析
- 第5回 水質分析：無機成分濃度などの定量分析
- 第6回 水質分析：クロロフィル濃度などの定量分析
- 第7回 大気分析：窒素酸化物 (NOx) の定量分析
- 第8回 大気分析：硫黄酸化物 (SOx) の定量分析
- 第9回 大気分析：室内汚染物質 (ベンゼン類) の定量分析
- 第10回 大気分析：室内汚染物質 (アルデヒド類) の定量分析
- 第11回 土壌分析：水溶性成分の定量分析
- 第12回 土壌分析：交換性成分の定量分析
- 第13回 土壌分析：金属類の定量分析
- 第14回 土壌分析：陽イオン交換容量の計測
- 第15回 総括、実験器具の片付け、清掃

環境マネジメント実習 (後半)

- 第1回 環境マネジメント実習講義
- 第2回 社会フレームのトレンド把握
- 第3回 社会フレームの将来予測
- 第4回 廃棄物分野の対策分析 (発生量予測)
- 第5回 廃棄物分野の対策分析 (効果推計)
- 第6回 廃棄物分野の対策分析 (総括)
- 第7回 発表、討論、講評 (第1回)
- 第8回 地球温暖化分野の対策分析 (発生量予測)
- 第9回 地球温暖化分野の対策分析 (効果推計)
- 第10回 地球温暖化分野の対策分析 (総括)
- 第11回 発表、討論、講評 (第2回)
- 第12回 水環境分野の対策分析 (環境負荷発生量予測)
- 第13回 水環境分野の対策分析 (効果推計)
- 第14回 水環境分野の対策分析 (総括)
- 第15回 発表、討論、講評 (第3回)

各回は、2時限の授業になります。

このほか、環境分析実習の内容にかかわる宿泊型の野外実習 (水圏調査法実習・土壌調査法実習・工場見学) が予定されており、環境分析実習の担当教員がこの野外実習を担当しますが、野外実習は環境生命工学実習において開講・単位付与がされますので、内容に関しては環境生命工学実習のシラバスを確認してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

環境分析実験操作 (前半)、環境マネジメント実習 (後半) 共通

環境分析実習

(Experiments in Environmental Analysis)

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加：60% (すべての実習項目について履修した場合のみ成績評価を行います)
 達成目標：実習テキストを読んで正確に実験・演習ができること、安全に実験操作が行えること、共同作業の場合には他の作業者と連携・協調して作業が行えること、実験室でのマナーを遵守していること、廃棄物を適切に分別して保管すること、を達成目標とします
 レポート (試問を含む)：40% (再提出レポートも含めてすべてのレポートが提出された場合にのみ成績評価を行います)
 評価基準*：正しい文章で記述できること、読者に対して不快感を与えない体裁であること、実験操作の原理と方法を正しく理解して記述していること、得られた計測値について正しくデータ処理を行い必要な変量をもれなく正しく計算して示していること、データおよびその解析結果を完結にわかりやすく示していること、変量から適切な考察を行いこれを必要かつ十分な文章で記述していること、を評価基準とします

達成目標、評価基準が完全に達成された場合を満点として、減点法で採点します

なお、特別の理由がない遅刻、中途退室、早退、規則違反、安全義務の不履行 (故意の場合)、レポート提出の遅れ、未完成レポートの提出などは、各自の得点を限度として大幅減点します。

点数配分

環境分析実験操作 (前半)：50点

環境マネジメント実習 (後半)：50点

宿泊型の野外実習に関しては、環境生命工学実習において成績評価・単位付与がなされます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境分析実験操作 (前半)

事前学習：必ず実習テキストをよく読み、実験の場合は、始める前までに実験操作の手順等を実験ノートに書いておいてください。実験ノートは、実験開始前にチェックを行い、未完成の場合は実験を延期します。

事後学習：実験終了後に、速やかにデータを整理し、レポートを作成してください。レポートは必ず期限までに完成したものを提出してください。

環境マネジメント実習 (後半)

事前学習：必ず実習テキストをよく読み、内容を十分に把握しておいてください。

事後学習：実習終了後に、速やかにデータを整理し、レポートを作成してください。レポートは必ず期限までに完成したものを提出してください。

履修上の注意 /Remarks

環境分析実験操作 (前半)、環境マネジメント実習 (後半) 共通

全ての実習について出席した者で、かつ、全てのレポートを提出した者のみ、成績評価の対象となります。また、ルール違反、マナー違反はすべて減点の対象となり、少数回で不合格となりますので、実習テキスト記載の注意事項を熟読し、遵守するように努めてください。

宿泊型の野外実習 (水圏調査・土壌調査・工場見学) に関しては、環境生命工学実習のシラバスを確認してください。野外実習の日程や内容に関しては、環境分析実習の前半に提示されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境分析実験操作 (前半)、環境マネジメント実習 (後半) 共通

環境分析実習では、水質、大気、土壌に関する化学的分析手法、廃棄物、地球温暖化、水環境に関する環境システム分析手法を用いて行います。これらを習得すれば、環境分析の概要を理解することができるので、全ての項目についてしっかり学習してください。また、本実習では、職業に就くうえで必要となる基礎的技術や、企業でのルール・マナーについての指導も行います。各実習項目の担当教員は必ず出講していますので、積極的に質問などするようにしてください。

キーワード /Keywords

環境分析実験操作 (前半)

環境分析、定性分析、定量分析、機器分析、水質分析、大気分析、土壌分析

環境マネジメント実習 (後半)

環境マネジメント、廃棄物、地球温暖化、水環境、将来予測、効果推計

生命有機化学

(Organic Chemistry for the Life Sciences)

担当者名 /Instructor 櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所, 藤井 翔太 / Shota FUJII / 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM323M	◎	○			

科目名

生命有機化学

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

化学の最も重要な基礎学問の一つである有機化学を発展的に理解し、官能基の化学反応に関して、反復演習によって理解力を積み上げる。随時、有機化学の応用分野である、生物学や医学、工学での実例を紹介する。

教科書 /Textbooks

ポルハルト・ショアー現代有機化学(下)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ベンゼン環と芳香族求電子置換反応
- 2 ベンゼン環の置換基の位置選択性
- 3 芳香族の化学の演習
- 4 アルデヒドとケトン(1)【カルボニル基の反応性】
- 5 アルデヒドとケトン(2)【求核反応】
- 6 エノラートとアルドール縮合(1)【アルドール縮合】
- 7 エノラートとアルドール縮合(2)【保護基】
- 8 カルボン酸の化学(1)【マイケル付加】
- 9 カルボン酸の化学(2)【ロビンソンの環化反応】
- 10 アミンの化学(1)【アミノ基】
- 11 アミンの化学(2)【ホフマン分解】
- 12 Claisen縮合とエノラート(1)【Claisen縮合】
- 13 Claisen縮合とエノラート(2)【マロン酸エステル】
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験40%(追試あり)、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：2年前期までの基礎有機化学、有機化学Iをよく理解しておくこと
事後学習：教科書、板書をよく復習すること

履修上の注意 /Remarks

復習をしっかりすること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

有機化学は化学の最も重要な基礎学問の一つである。化学系の専門分野での仕事には不可欠な学問分野であることを十分に自覚して講義にのぞむこと。

生命有機化学

(Organic Chemistry for the Life Sciences)

キーワード /Keywords

化学工学

(Chemical Engineering)

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHM360M	◎	○	△		
科目名	化学工学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

化学工学の学問体系における『物質の分離』と『エネルギーの流れと有効利用』について概説する。『物質の分離』においては、「吸着」・「蒸留」・「吸収」を取り上げ、分離操作の基本的考え方について学習する。また、『エネルギーの流れと有効利用』においては、伝熱の機構と速度論について学習する。

到達目標は以下の通りである。

豊かな「知識」：化学工学に関する高度な知識を身につけている。

知識を活用できる「技能」：化学工学で必要とされる基礎データや数式などを、現実的な課題に応じて利用できる技能を身につけている。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：工業プロセスについて、化学工学的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

基礎化学工学（化学工学会編） 培風館（ISBN 978-4-5630-4555-5）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

化学工学 改訂第3版 一解説と演習一 朝倉書店（ISBN 978-4-2542-5033-6）
 化学工学の計算法（化学計算法シリーズ） 東京電機大学出版局（ISBN 978-4-5016-1690-8）
 ベーシック化学工学 化学同人（ISBN 978-4-7598-1067-7）
 はじめて学ぶ化学工学 工業調査会（ISBN 978-4-7693-4202-1）
 化学工学便覧 改訂六版 丸善（ISBN 978-4-6210-4535-0）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 進め方の説明、化学工学の目的とその学問体系、物質の分離の原理と方法
- 2 吸着（1）吸着平衡
- 3 吸着（2）回分吸着（バッチ吸着）
- 4 吸着（3）固定層吸着
- 5 蒸留（1）気液平衡
- 6 蒸留（2）単蒸留
- 7 蒸留（3）連続蒸留
- 8 前半のまとめ
- 9 ガス吸収（1）ガスの溶解度
- 10 ガス吸収（2）物理吸収速度
- 11 ガス吸収（3）物質移動係数
- 12 伝熱の機構と速度論（1）伝導伝熱
- 13 伝熱の機構と速度論（2）対流伝熱
- 14 伝熱の機構と速度論（3）放射伝熱
- 15 まとめ

化学工学

(Chemical Engineering)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (小テスト等) 20%
中間テスト 20%
期末テスト 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：予習として、テキストをよく読み、特に、用語・公式・定義などを確認しておくこと。
事後学習：次週の小テストに向けて、十分に講義内容の復習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

複雑な計算が多いので、計算過程を十分理解できるよう、課題を丁寧に解くようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学工業においてプラントを設計・制御するためには、化学工学の素養が不可欠です。将来、化学分野の技術者を目指している学生は、化学工学の目的とその体系を理解した上で、工学計算が苦もなくできるように努力してください。

キーワード /Keywords

分離操作、吸着、蒸留、吸収、伝熱、工学計算

細胞生物学

(Cellular Bioscience)

担当者名 /Instructor 沼野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~) 【選択必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
B10310M	◎	○			

科目名	細胞生物学	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			
-----	-------	---	--	--	--

授業の概要 /Course Description

この講義では、生物（個体）がもつ機能とそのための仕組み（メカニズム）を理解するための「生理学」および「細胞生物学」に共通する知見の中から、以下のトピックを中心に学びます。様々な生物に共通する細胞レベルでの代謝、情報伝達の復習を行い、次に動物、微生物、植物の生理を中心とした講義内容に進みます。講義は、前半（第1回～8回：動植物の生理メカニズムの比較）、後半（微生物・植物の成長生理）に分けて、それぞれ体系的な講義を行います。本講義では、環境工学部の学生が学ぶべき「生命の学問」となるよう、(1)生物（細胞）とそれを取り巻く環境との関係および(2)病原微生物に対する生物（細胞）の応答反応にも重点を置き、生体内でどのようにホメオスタシスや免疫機構が働くのかについても学びます。後半は、微生物や植物の細胞の成長に着目した講義を行います。なお、前半と後半の講義内容は入れ替わることもあります。

教科書 /Textbooks

- ・アメリカ版大学生物学の教科書 第3巻 分子生物学 サダヴァ他著 講談社ブルーバックス
- ・ヴォート基礎生物化学 第5版 東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

植物は <未来> を知っている。9つの能力から芽生えるテクノロジー革命。ステファノ・マンクーゾ著 (久保耕司 訳) NHK出版
植物は <知性> をもっている。20の感覚で思考する生命システム ステファノ・マンクーゾ+アレッサンドラ・ヴィオラ 著 (久保耕司 訳) NHK出版
これ以外に、講義内で適宜、参考資料を紹介しします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 進化の視点から読み解く細胞、組織、器官
- 2 細胞内輸送と情報伝達
- 3 動植物の細胞骨格の役割と細胞周期制御
- 4 動物の細胞外マトリックスと植物・菌類の細胞壁の比較
- 5 脈管系を持つ動物と維管束植物との類似性と相違点：進化の過程で生物個体の大型化に伴い必要になった体液循環
- 6 動物の自然免疫と獲得免疫
- 7 植物にも備わる免疫様反応(1)：病原微生物に対する応答
- 8 前半の復習、確認試験
- 9 微生物、植物、藻類の二つの成長(個体数の増加とサイズの増加、数の成長の数学)
- 10 世代を超えた成長のサイクル：個体サイズが増えて、個体数が増える
- 11 二つのサイズ変化(バイオマスと生重量)と動植物の成長調節
- 12 光合成の基礎(研究の歴史と光合成研究のこれから：天然光合成から人工光合成まで)
- 13 炭素固定と乾燥重量変化、酵素反応のアナロジーとしての光合成のキネティクス
- 14 水分生理による「水」の流出入制御と生重量変化
- 15 植物にも備わる免疫様反応(2)：環境応答、植物の二次代謝との関連

ただし、前半(1-8回)と後半(9-15回)は、内容が入れ替わることもあります。

細胞生物学

(Cellular Bioscience)

成績評価の方法 /Assessment Method

前半の評価： 日常の授業への取り組み + 課題 (20%)、確認試験 (30%)
後半の評価： 毎回指示する課題およびレポート (20%)、定期試験 (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習： 教科書の該当箇所を読む。また、2年後期までの生物学、基礎生物化学、生物化学、分子生物学を復習する。
事後学習： 授業の内容を復習し、問題集の該当箇所を解く。また課題やレポートを行う。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習を推奨します。適宜、小テスト等で評価を実施。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

後半は、講義および定期試験において関数電卓の利用を場合があります。

キーワード /Keywords

食品工学

(Food Technology)

担当者名 /Instructor 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0332M	◎	○	△		
科目名	食品工学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

食品は生命維持の原点であり、我々の健康維持に大きな役割を担っている。また食品は様々な加工技術や保蔵技術を経て我々の口に入り、これらの過程により食品成分は様々な変化を受ける。本講義では、食品の主要な構成要素と、色・味・香りなどの嗜好成分について化学的特性と反応性、生理的機能性について紹介し、食品と生命との深いかかわりについて学ぶ。更には、身近な食品を例に挙げながら食品加工や食品保蔵に関する基礎知識と技術についてやさしく解説する。

(到達目標)

- ・食品の色や味、香りに関与する成分や食品の栄養素について理解する。
- ・食品の調理・加工・貯蔵中における食品成分の反応について理解する。
- ・個々の食品について製造法やそれぞれの特性を理解し、品質保持法について説明できる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

わかりやすい食品化学 (三共出版)、吉田勉監修、2008年、2500円
食品加工の知識 (幸書房)、太田静行著、1980年、2800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 食品工学とは (導入)
2. 食品の表示
3. 食品の水と水分活性
4. 食品の色 (クロロフィル、カロテノイド、フラボノイド)
5. 畜肉・魚肉類 (ミオグロビン、品質評価法、加工食品)
6. 食品の味 (五基本味、味の相乗作用・阻害作用)
7. 青果類 (青果物の香り、鮮度保持法、加工食品)
8. 食品成分の反応I【褐変】
9. 食品成分の反応II【脂質の酸化】
10. 食品の栄養素とエネルギー獲得
11. 食品添加物概論
12. 食品添加物各論I (腐敗を防ぐ、色を保つ)
13. 食品添加物各論II (味をつける、食品をつなぎあわせる)
14. 農産加工食品
15. 卵・乳とその加工品

食品工学

(Food Technology)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (85%)
授業態度・課題 (15%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業では幅広い内容を取り上げるため、授業開始前までにプリントや参考書などを活用しながら事前学習を行い、授業終了後には復習することにより理解をさらに深めてほしい。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが心身の健康を確保し、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性を育むためには、何よりも「食」が重要である。ところが近年、食生活をめぐる環境が大きく変化し、その影響が様々なところで顕在化している。本講義では食品に関する必要な知識と健全な食生活を送るために必要な判断力を修得してほしい。

キーワード /Keywords

食品化学、栄養学、食品保蔵学、食品加工学、食品表示

遺伝子工学

(Genetic Engineering)

担当者名 /Instructor 市原 隆典 / Takanori KIHARA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~) 【選択必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
B10322M	◎	○	△		
科目名	遺伝子工学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

遺伝子工学は、分子生物学で学んだ機構を基盤とし、さらにその機構を人工的に利用・応用することで、医療はもちろん衛生検査、食品など様々な分野で社会に貢献している。この講義では、遺伝子工学の基本を学び、それを利用、さらには応用する力を養うことを目的とする。到達目標は、遺伝子工学に関する専門知識・技術を理解し、身につけ、さらにその技術を利用できるようになることである。

教科書 /Textbooks

- 【教科書】
・アメリカ版 大学生物学の教科書 第3巻 分子生物学 サダウア ほか著 講談社ブルーバックス
【問題集】
・生化学・分子生物学演習 第2版 猪飼・野島 著 東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・遺伝子工学 - 基礎から応用まで - 野島 著 東京化学同人 (○)
・細胞の分子生物学 第6版 Alberts 他 著 ニュートンプレス (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 遺伝子工学概論
- 第 2 回 分子生物学復習 - DNA・複製
- 第 3 回 分子生物学復習 - 転写・翻訳
- 第 4 回 ノーベル医学生理学賞概説
- 第 5 回 遺伝子組換え - DNAの性質、PCR
- 第 6 回 遺伝子組換え - プラスミド・制限酵素
- 第 7 回 遺伝子組換え - クローニング
- 第 8 回 遺伝子組換え - 遺伝子導入
- 第 9 回 遺伝子組換え - 組換え生物
- 第 10 回 遺伝子解析手法
- 第 11 回 ギガシーケンサー
- 第 12 回 遺伝子発現解析
- 第 13 回 エピジェネティクス
- 第 14 回 RNA
- 第 15 回 遺伝子組換え作物

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加・課題 40%
試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前： 授業開始前に教科書・配布資料の該当箇所を読んでおくこと(30分)。
事後： 授業後は、必ず復習し、問題集の該当箇所を解くこと(90分)。

遺伝子工学

(Genetic Engineering)

履修上の注意 /Remarks

生物学・生化学(基礎生化学・生化学)・分子生物学の知識が基礎となります。これらを履修しなおかつ理解していることが前提です。2年生後期の学生実習の内容について復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分から積極的に学ぼうとする姿勢が大切です。是非この授業で遺伝子工学を学び、今後の研究に活用して下さい。

キーワード /Keywords

ライフサイクルアセスメント

(Life Cycle Assessment)

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~) 【選択必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV321M	◎	○			
科目名	ライフサイクルアセスメント		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

環境計画を考える上で、必要となる意志決定ツールを中心に修得する。まず、都市や国土を規定している都市計画、国土計画の諸制度の成り立ちとその実際について学ぶ。次いで、投資判定分析、費用便益分析、多目的意志決定手法などについて学ぶ。さらに、従来経済価値を認めてこなかった環境資源の扱いも重要な課題であり、そのための環境の経済評価手法について、その基本的な概念と手法を修得する。また、合意形成プロセスのための手法と実際についても講究する。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田中勝 編著「循環型社会評価手法の基礎知識」技報堂出版
その他、講義中に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境計画をめぐる諸状況
- 2 持続可能性評価指標
- 3 物質フロー分析【基礎的概念】
- 4 物質フロー分析【応用】
- 5 ライフサイクルアセスメント【基礎的概念】
- 6 ライフサイクルアセスメント【応用】
- 7 演習
- 8 費用便益分析【基礎的概念】
- 9 費用便益分析【応用】
- 10 リスクアセスメント・リスク便益分析
- 11 環境経済評価手法【基礎的概念】
- 12 環境経済評価手法【応用】
- 13 演習
- 14 多目的意志決定手法
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (授業への積極的参加) 10% ※2/3以上出席すること
レポート 30%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は特に必要ないが、毎回の講義を十分に理解するよう事後の復習に努めること。

ライフサイクルアセスメント

(Life Cycle Assessment)

履修上の注意 /Remarks

必要に応じて、関数電卓、PC (Excel) を使用することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済縮小・人口縮小時代が到来し、社会資本ストックの更新期を迎える中で、持続可能型社会の形成という21世紀の課題に答えるべく、「社会をどのように再構築するか」「開発が環境資源を保護すべきか」といった問題に取り組むためのツールを学びます。

キーワード /Keywords

環境シミュレーション

(Environmental Computer Simulation)

担当者名 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19 ~)
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科 (19 ~) 【選択必修】 環境生命工学科 (19 ~)
/Department

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV310M	◎	○	△		
科目名	環境シミュレーション		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

Excelのマクロプログラム (VBA) を使って、複雑と思われた自然現象や社会的現象が実は簡単な法則や規則の積み上げで起こることを理解する。身の回りにおける様々な形 (人工物や自然界にある不規則な形) や人間の記憶がコンピュータの中でどう表現するのかを学び、それらを動かす基本的な法則やアルゴリズムを学習する。その際、フラクタルやモンテカルロ法などの確率論的な手法も重視する。自らプログラムを実行して考察するアクティブラーニング教材を毎回用意しており、授業中の演習と宿題を行うことでシミュレーションの面白さを実感できる。

到達目標

豊かな「知識」：計算機シミュレーションの基盤となる知識を総合的に身につけている。

知識を活用できる「技能」：計算機シミュレーションの基本的なモデルが理解でき、専門分野に応用できる。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：シミュレーション結果を論理的に分析して問題点を探求し、解決案を立案実施することができる。

教科書 /Textbooks

講義資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ハーベイ・ゴールド「計算物理学入門」および他の参考書は講義中に指示する。
授業中の演習や宿題に不可欠な部分は講義資料に含まれている。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 概要、計算機シミュレーションの歴史、オイラー法、ライフゲーム
- 2 差分法の簡単な例：コーヒーの冷却、差分法の誤差
- 3 粒子の運動 (2 体問題、3 体問題) : 落下運動、惑星の運動
- 4 高精度差分法：高精度時間積分、価電子の運動
- 5 分子動力学法：多粒子系の動力学、平衡状態、相変態
- 6 幾何学的物体の表現法：メッシュ分割、立体の可視化
- 7 不定形物の表現法：画像、フーリエ変換、電子波動関数
- 8 非線形現象：カオス、ロジスティック曲線
- 9 中間試験
- 10 確率的現象：乱数、ランダムウォーク、拡散
- 11 モンテカルロ法：サイコロ積分、最適化問題、光線の屈折
- 12 フラクタル：自己相似性、フラクタル次元、DLAクラスター
- 13 複雑性：セルラーオートマトン、臨界現象、人工生命
- 14 複雑性：神経回路網
- 15 全く異なる計算モデル：生態系、銀河系 ~まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎週の宿題及び授業内演習 40%

中間試験 30%

期末試験 30%

環境シミュレーション

(Environmental Computer Simulation)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料をしっかりと読んで、毎回の宿題を必ず自力で行うこと。宿題の返却時に復習を兼ねて解説を行うので、もう一度配布資料を読み直して、演習・宿題で行ったシミュレーションプログラムの内容を完全に理解すること。

履修上の注意 /Remarks

本授業の宿題はExcelおよびExcelマクロ (Visual Basic) を用いる。毎回の宿題を必ず自分でいき、授業の内容を反復すること。初回の授業概要説明で各回の授業に対応する参考書の章・節を提示するので、参照し準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの中に身の回りの自然現象や人間の社会システムを再現する基本的なモデルをゲーム感覚で学んでください。これにより、コンピュータによる思考実験の結果を価値判断できるセンス (何が使える情報で、何が使えないのか) を養ってほしい。

キーワード /Keywords

コンピュータシミュレーション、計算物理学、生態系シミュレーション

エネルギーマネジメント

(Energy Management)

担当者名 /Instructor 藤山 淳史 / Atsushi FUJIYAMA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 (19~) 【選択必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV322M	◎	○			
科目名	エネルギーマネジメント		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

社会・経済活動の拡大と高度化に伴い、人類はエネルギー・資源の枯渇問題と、それに関連した気候変動の問題に直面している。日本や世界のエネルギー問題および環境問題とその解決の変遷を公害対策・温暖化対策などの項目を中心に概説する。

【到達目標】

- ・ 豊かな「知識」：エネルギーマネジメントに関する幅広い知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- ・ 知識を活用できる「技能」：エネルギーをマネジメントするために必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロ：環境問題とエネルギー問題
2. 環境政策の必要性
3. 日本の公害・環境政策の変遷：黎明期
4. 日本の公害・環境政策の変遷：公害対策基本法
5. 日本の公害・環境政策の変遷：環境問題の変容
6. 日本の公害・環境政策の変遷：環境基本法
7. 日本の公害・環境政策の変遷：循環型社会とリサイクル
8. エネルギーの種類
9. エネルギーと環境
10. エネルギーと生活
11. エネルギーと社会・経済
12. エネルギーと気候変動：国際協調へ向けた取り組み
13. エネルギーと気候変動：パリ協定と今後
14. エネルギー：産業界の取り組み
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 20%
レポート 40%
期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境関連の時事問題に関心を持ち、日々報道されるさまざまな公害・環境対策や地球温暖化問題に関するニュースをチェックしてください。

エネルギーマネジメント

(Energy Management)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境生命工学実習

(Experiments in Biology and Life Science)

担当者名 /Instructor 環境生命工学科 (兼任含む。) 教員

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0380M		◎	○	△	△

科目名	環境生命工学実習	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	----------	---

授業の概要 /Course Description

生化学・分子生物学に関する技術、および環境保全・生態系管理に関する技術の実習を行う。生化学・分子生物学関連では、DNAやタンパク質の取り扱いや解析、生化学反応実験、培養実験、免疫染色実験などを実習する。環境保全・生態系管理関連では、生態調査、土壌分析、水質分析などの実習を実施する。
これらの取り組みを通して、バイオテクノロジー、環境保全、生態系管理の取り組みに関する基本知識と技術を習得する。

教科書 /Textbooks

実習書を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスで紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- 野外実習「陸水圏、土壌圏の生物環境調査実習」I 実習手順説明
- 野外実習「陸水圏、土壌圏の生物環境調査実習」II 調査実習
- 野外実習「陸水圏、土壌圏の生物環境調査実習」III 分析
- 微生物実習：微生物の分離と生理学的性質I 実験手順説明
- 微生物実習：微生物の分離と生理学的性質II 実験
- タンパク質実習：酵素反応I 実験手順説明
- タンパク質実習：酵素反応II 実験
- 遺伝子工学実習I 実験手順説明
- 遺伝子工学実習II 実験
- 核酸実習I 実験手順説明
- 核酸実習II 実験
- ELISA (酵素免疫吸着測定法) による抗体検査I 実験手順説明
- ELISA (酵素免疫吸着測定法) による抗体検査II 実験
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 事前に必ず実習書をよく読み、必要な知識の整理をしておくこと。また、各実習後には原理や手法の理解を深め、レポートを作成すること (文献調査を含む)。
- ・ 野外実習は危険を伴うため、事前に安全学習を十分行っておくことを実習参加の必須条件とする。

環境生命工学実習

(Experiments in Biology and Life Science)

履修上の注意 /Remarks

- ・ 実験室は非常に危険な場所であり、人体に悪影響を及ぼす試薬類を扱う場合もあることから、教員やEAからの注意事項および実習室でのルールを必ず守ること。
- ・ 野外実習は9月下旬に2泊3日の日程で行う予定であり、費用（宿泊費、食費などの実費）は個人負担とする。
- ・ 研究室配属後に基礎知識や技術を習得するための実習や合宿を行う場合がある。
- ・ 2月に開催される「卒業研究審査会」への出席も単位取得の条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最新のバイオテクノロジーも基本手技の積み重ねです。本実習で生物学分野の基本手技を身に付け、高度なバイオテクノロジーを習得する礎としてください。

キーワード /Keywords

日本事情

(Aspects of Japanese Society Today)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科（19～）、機械システム工学科（19～）、情報システム工学科（19～）、建築デザイン学科（19～）、環境生命工学科（19～）
/Department

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
JPS100F	◎		○	○	

科目名	日本事情
-----	------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、外国人学生が日本に関する知識を学ぶだけでなく、深層文化である日本人の考え方、観念などに関しても考え、主体的に日本の文化・社会に参加し、かつ日本風に主張もできる能力を身に付けることを目指す。現代日本の文化・社会に関するテーマについて討論し理解を深め、異文化間コミュニケーションが円滑に行なえるようにする。授業の中で、日本人学生や地域の人々を招き興味あるテーマに関して討論会なども行い、日本人との交流を通して学ぶ。

到達目標

DP知識：日本の大学生活を送る上で不可欠となるマナー、法律、一般常識を総合的に理解している。
DP思考・判断・表現力：日本人・日本社会の実情を的確に分析し、文化的差異を乗り越えて円滑に大学生活を送ることができる。
DPコミュニケーション力：日本での大学生活や日本人との協働をそれほど抵抗なく行うことができる。

教科書 /Textbooks

教科書『文化の壁なんてこわくない』（水本光美・池田隆介）を使用。初回授業で配布する予定である。ただし、オンライン授業の場合は、別途指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ホームページの教材 <http://lang.is.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 オリエンテーション&クラスのマナーについて
- 2 時間の感覚 1：パーティに呼ばれたら
- 3 時間の感覚 2：生き残るためのキャンパス術
- 4 病気・ケガ対処法：健康保険は払えば得する
- 5 事故の対処法：交通規則を知っている？
- 6 お礼・お詫び：日本人は1回だけじゃない
- 7 お願い：保証人と推薦状
- 8 不正行為 1：たった1回が命取り
- 9 不正行為 2：コピーは犯罪
- 10 社交術 1：日本人と上手に付き合うには
- 11 社交術 2：本音と建前
- 12 プロジェクトワーク：今の日本を知ろう！
- 13 金銭感覚
- 14 プロジェクトワーク：調査の準備
- 15 プロジェクトワーク：成果発表

※予定は変更されることもあるので、授業中の連絡に注意すること。

日本事情

(Aspects of Japanese Society Today)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的授業参加（討論含む）30%
宿題&課題 20%
（作文・発表準備を含む）
小テスト 30%
プロジェクトワーク発表 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中の配布物やMoodleにより告知していく。

履修上の注意 /Remarks

テーマにそった読み教材やビデオがある場合は、必ず、予習してくること。

ビデオ教材は「留学生のホームページ」 <http://lang2.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/> 参照。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在の日本に関する様々な知識を学びながら日本人、日本文化をより深く理解しましょう。異文化の中にありながら自分らしさを失わずに上手に異文化コミュニケーションをする方法を身につけ、今後の留学生活を楽しく有意義なものにしましょう。

関連するSDGs：4「質の高い教育をみんなに」、10「人や国の不平等をなくそう」

キーワード /Keywords

日本事情、留学生、大学生、規律、異文化、現代

College English I

(College English I)

担当者名 /Instructor クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
学期 /Semester 1学期 / 1 Semester
授業形態 /Class Format 演習 / 演習
クラス /Class クラス / Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			

科目名	College English I
-----	-------------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「科目の到達目標」
(知識を活用できる技能) 大学の授業で求められる英語の基礎力を身に着ける。

グローバル化するビジネス社会において、高い英語力を持つことがますます重要になっている。本科目では、日本のビジネス社会で最も採用されている英語能力試験であるTOEICについて、試験の概要を把握し、どのような英語力が試されているか、そしてその英語力を身につけるにはどのようにアプローチすれば良いのかという観点から、各パートの出題形式およびその解答の方策を体系的に学ぶ。

英語力だけではなく、他文化への理解も大事なので、TED, TEDxのプレゼンテーションを見る。そして、意見や感想を発表する。

教科書 /Textbooks

『Extreme Strategies for the TOEIC® Listening and Reading Test』、松柏社、1900円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 L: Part 1 (1) R: Part 5 (1)
Week 2 L: Part 2 (1) R: Part 6 (1)
Week 3 L: Part 3 (1) R: Part 7 (1)
Week 4 L: Part 4 (1) R: Part 7 (1)
Week 5 L: Part 1 (2) R: Part 5 (2)
Week 6 L: Part 2 (2) R: Part 6 (2)
Week 7 Lesson 1-6 Review
Week 8 L: Part 1 (3)・ Part 2 (3) R: Part 5 (3)・ Part 7 (2)
Week 9 L: Part 3 (2)・ Part 4 (2) R: Part 6 (3)
Week 10 L: Part 1 (4)・ Part 2 (4) R: Part 5 (4)・ Part 7 (2)
Week 11 L: Part 3 (3)・ Part 4 (3) R: Part 7 (3)
Week 12 L: Part 2 (5)・ Part 3 (4) R: Part 5 (5)・ Part 7 (3)
Week 13 L: Part 4 (4) R: Part 7 (4)
Week 14 Lesson 8-13 Review
Week 15 Practice Test (Part 2-4, 5 & 7)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト 50%
- ② 課題 (TED, TEDxのレポート、発表) 50%

College English I

(College English I)

留学生特別科目
基盤・外国語教育科目読替
英語教育科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【授業前の課題】 指定範囲の予習を行うこと
- 【授業後の課題】 授業で行った演習問題の復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

College English II

留学生特別科目
基盤・外国語教育科目読替
英語教育科目

(College English II)

担当者名 /Instructor クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	College English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「科目の到達目標」
(知識を活用できる技能) 英語の基本的な理解力及び表現力を身につける。

「科目の目的」

When learning a foreign language, it is essential to have a large amount of language input. In this course, we will use the technique of extensive reading (as well as extensive listening) to enhance reading comprehension skills. This course aims to improve your reading speed necessary to process a large amount of input. Also, we'll learn how to write a summary using appropriate phrases and various paraphrasing techniques.

The objectives of this course are as follows.

- (1) To read a large number of books.
- (2) To understand content without translating.
- (3) To maintain an appropriate reading or listening speed.
- (4) To acquire high-frequency words (basic vocabulary repeatedly used in books.)
- (5) To enjoy extensive reading activities.

教科書 /Textbooks

To be announced in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

To be announced in class.

College English II

(College English II)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Orientation
Week 2: Pretest (Vocabulary)
Week 3: Pretest (Reading speed)
Week 4: Discussion (Fluency)
Week 5: Discussion (Learner strategy)
Week 6: Discussion (Reading strategies)
Week 7: Assessment (Reading strategies)
Week 8: Summary writing (Culture 1)
Week 9: Summary writing (Culture 2)
Week 10: Summary writing (Business)
Week 11: Summary writing (Engineering)
Week 12: Summary writing (Environment)
Week 13: Assessment (Summary writing)
Week 14: Post-test (Vocabulary and reading comprehension)
Week 15: Post-test (Reading and writing skills)

成績評価の方法 /Assessment Method

Extensive reading tasks (70%) Summary writing tasks (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Plan ahead and enjoy reading a large number of English books. Don't forget to write your weekly entries before and after class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

総合日本語A

留学生特別科目
基盤・外国語教育科目読替
日本語教育科目

(Integrated Advanced Japanese A)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)
/Department

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
JSL100F		◎	○	○	

科目名	総合日本語A
-----	--------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

一般的な日本語でのコミュニケーション能力を向上させ、話す聴く読む書くの4技能を上級の中レベル以上に発達させることが、大学生活を円滑に送るために必須の日本語能力である。この授業では、日本語能力試験N1(かつての「1級」)レベルの留学生を対象に、長文をできるだけ短時間で、かつ、正確に理解する訓練を繰り返し行い、また、単語・文の羅列ではなく、段落レベルのまとまった文章をある程度コントロールできるレベルの作文能力を身に着けることを目指す。

到達目標

DP技能：大学で教育を受けていくために必要な日本語の熟達度を高めることができる。

DP思考・判断・表現力：大学生活の様々な場面で求められる語彙、表現、文体を、自らが判断して使い分けることができる。

DPコミュニケーション力：大学の授業に参加し、日本語で理解し、教員や受講生と意思の疎通を図る。

教科書 /Textbooks

教科書『総合日本語A』（池田隆介） 初回授業で配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

(Integrated Advanced Japanese A)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 論理的な文章の書き方 (1) 【書き言葉】
 2. 論理的な文章の書き方 (2) 【「は」と「が」の区別】
 3. 論理的な文種の書き方 (3) 【文の名詞化】
 4. メールのマナー・Mailの使い方
 5. 日本語ワープロの基本・Wordの使い方
 6. プレゼンテーション用のソフトウェア
 7. 発表 (1) 【ミニ発表会プロジェクトの説明】
 8. 発表 (2) 【新聞から情報を集める】
 9. 発表 (3) 【資料の収集・出典明記】
 10. 発表 (4) 【事実と意見】
 11. 発表 (5) 【発表でよく使う表現】
 12. 発表 (6) 【新聞音読 / 資料の精読と理解】
 13. 発表 (7) 【PowerPointにおける日本語表現】
 14. 発表 (8) 【司会・進行】
 15. 発表 (9) 【ミニ発表会】
 16. 中間試験
 17. 読解ユニット1 「環境と経済」(1) 【読む前に】
 18. 読解ユニット1 「環境と経済」(2) 【文法・重要表現】
 19. 読解ユニット1 「環境と経済」(3) 【精読：自然破壊をとまなう経済発展】
 20. 読解ユニット1 「環境と経済」(4) 【精読：リービッチの循環論、理解チェック】
 21. 読解ユニット2 「バイオマスエネルギー」(1) 【読む前に】
 22. 読解ユニット2 「バイオマスエネルギー」(2) 【文法・重要表現】
 23. 読解ユニット2 「バイオマスエネルギー」(3) 【精読：バイオマスエネルギーとは】
 24. 読解ユニット2 「バイオマスエネルギー」(4) 【精読：各国のバイオマス事情、理解チェック】
 25. 読解ユニット3 「敬語に関する調査」(1) 【読む前に】
 26. 読解ユニット3 「敬語に関する調査」(2) 【文法・重要表現】
 27. 読解ユニット3 「敬語に関する調査」(3) 【精読：人間関係と敬語・場面と敬語】
 28. 読解ユニット3 「敬語に関する調査」(4) 【精読：敬語の正誤、理解チェック】
 29. プロジェクトワークのための質疑応答
 30. プロジェクト成果発表
- ※実際の授業においては、発表のための課題、読解のための課題が適度なバランスになるように順序を調整する。授業中の連絡に注意すること。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業参加 10%
小テスト 10%
宿題 10%
作文・発表 10%
口頭試験 10%
中間試験 10%
期末試験 40%

※出席率80%未満は不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中の配布物やmoodleにより告知していく。

履修上の注意 /Remarks

1. テストや授業のために必要な準備は、学習支援システム (Moodle) で連絡する。重要な連絡にはE-Mailも使う。それ故、moodleを閲覧する習慣、及び、メールチェックをする習慣を身につけておくこと。予定の確認作業は受講者の責任である。
2. 「基礎科目」として大学院留学生がこの科目を履修する場合は、プレイスメントテスト等において日本語能力試験1級に相当すると認定されることを条件とする。
3. 学術情報センターの講義室、あるいは、CAI室を利用する機会がある。利用のために必要な自分のIDとパスワードを確認しておくこと。
4. 毎回の授業に参加するには、指定された事前学習を行ってこよう。学習内容は毎回moodleによって告知するので確認を忘れずに。「小テスト」を予告している回もあるので、指定された範囲を事前に勉強してから授業に参加すること。
5. 授業後の作業には、授業を通じて課された宿題を行い、締切日までに提出できるようにしておくこと。また、返却された宿題・テストなどの内容を確認し、「再提出」の指示がある場合は締切日までに対応すること。減点された箇所の理由が分からない場合は、質問に来なさい。

遠隔授業 (オンライン授業) となった場合は、授業計画、提出課題の一部を変更することもある。こちらもMoodleを通じた説明を確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な表現も、論理的な表現も、繰り返し使用するほどに運用の力は向上していく。この授業は論理的な日本語表現の基礎になる部分を学ぶ貴重な機会となるので、積極的に授業に参加してほしい。

総合日本語 A

(Integrated Advanced Japanese A)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連するSDGs : 4「質の高い教育をみんなに」、7「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」

キーワード /Keywords

上級日本語、書き言葉、アカデミックジャパニーズ、環境工学系読解教材、プレゼンテーション

総合日本語B

(Integrated Advanced Japanese B)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築
/Department デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
JSL110F		◎	○	○	

科目名	総合日本語B
-----	--------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「総合日本語B」では、日本語能力試験1級レベルの留学生を対象に、複雑な状況、緊張感を伴う場面においても、最低限のタスクを遂行できる会話能力を養成し、また、段落レベルのまとまった文章をある程度コントロールしながら運用する訓練を繰り返し行っていく。この授業を通じて、日本語を使って積極的に情報発信を行い得る能力と、積極的に問題提起を行える態度を養成することで、日本語を「運用」できる範囲を広げていくことが、受講生の主な目的となる。

DP技能：上級レベルの日本語学習者にとっても複雑と思われる課題に対応しうる実践的日本語能力を身につける。

DP思考・判断・表現力：レポートやプレゼンテーションの準備のために必要な情報収集活動の段階から、日本語を駆使して問題解決を図ることができる。

DPコミュニケーション力：不特定多数の聴衆・読者を対象に、日本語で自らの意見を正確に伝えることができる。

教科書 /Textbooks

『総合日本語B』（池田隆介） 初回授業で配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

(Integrated Advanced Japanese B)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション / 授業のルール
2. レポートの書き方 (1) 【「留学生日本語コンテスト」概要説明】
3. レポートの書き方 (2) 【段落】
4. レポートの書き方 (3) 【レポートの構成】
5. レポートの書き方 (4) 【文の首尾一貫性】
6. レポートの書き方 (5) 【引用】
7. レポートの書き方 (6) 【レポートとプレゼンテーション】
8. 上級聴解 (1) 【ディクテーション / 不正確な発話の理解】
9. 上級聴解 (2) 【文体の変換：話し言葉から書き言葉へ、書き言葉から話し言葉へ】
10. 討論 (1) 【「討論会」概要説明】
11. 討論 (2) 【「読んで理解すること」と「聞いて理解すること」の違い】
12. 討論 (3) 【聞き手への配慮 / 聞き手の集中力を考えた構成】
13. 討論 (4) 【分かりやすいプレゼンテーションとは？】
14. 討論 (5) 【視覚効果の活用】
15. 討論 (6) 【積極的な質疑応答、質問のトリプルパンチ】
16. 討論会
17. 中間試験
18. 読解ユニット1(1)【文法・重要表現】
19. 読解ユニット1(2)【視聴覚教材】
20. 読解ユニット1(3)【精読 (レジュメ作りと発表) : 本文の精読と理解】
21. 読解ユニット1(4)【精読 (レジュメ作りと発表) : 理解チェック】
22. 読解ユニット2(1)【文法・重要表現】
23. 読解ユニット2(2)【第1節 精読 (レジュメ作りと発表) : 持続可能なエネルギーはない】
24. 読解ユニット2(3)【第2節 精読 (レジュメ作りと発表) : 石炭と石油が自然環境を救った】
25. 読解ユニット2(4)【第3節 精読 (レジュメ作りと発表) : なぜアメリカがバイオ燃料に力を注ぐのか】
26. 読解ユニット2(5)【第4節 精読 (レジュメ作りと発表) : 理解チェック】
27. 読解ユニット3(1)【文法・重要表現】
28. 読解ユニット3(2)【本文の精読】
29. 読解ユニット3(3)【理解チェック】
30. 読解ユニットの振り返り

※実際は、作文・プレゼン関係の授業、読解関係の活動をバランス良く配置した順序で展開する。授業中、及び、moodle上の連絡事項に注意すること。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業参加 10%
小テスト 10%
宿題 10%
作文 10%
討論会 10%
中間試験 10%
期末試験 40%

※出席率80%未満は不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中の配布物やMoodleにより告知していく。

履修上の注意 /Remarks

1. テストや授業のために必要な準備は、学習支援システム (Moodle) で連絡する。重要な連絡にはE-Mailも使う。それ故、moodleを閲覧する習慣、及び、メールチェックをする習慣を身につけておくこと。予定の確認作業は受講者の責任である。
2. 大学院留学生が「基礎科目」として受講する場合は、プレイスメントテスト等によって日本語能力試験1級レベルと認められることを条件とする。
3. 毎回の授業に参加するには、指定された事前学習を行ってこよう。学習内容は毎回moodleによって告知するので確認を忘れずに。「小テスト」を予告している回もあるので、指定された範囲を事前に勉強してから授業に参加すること。
4. 授業後の作業には、授業を通じて課された宿題を行い、締切日までに提出できるようにしておくこと。また、返却された宿題・テストなどの内容を確認し、「再提出」の指示がある場合は締切日までに対応すること。減点された箇所の理由が分からない場合は、質問に来なさい。
5. レポート執筆、プレゼンテーションの内容が、学内外の企画 (「留学生日本語コンテスト」等) と連動する。成果を公表することが前提となる。

※遠隔授業 (オンライン授業) となった場合は、授業計画、提出課題の一部を変更することもある。こちらもMoodleを通じた説明を確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

総合日本語B

留学生特別科目
基盤・外国語教育科目読替
日本語教育科目

(Integrated Advanced Japanese B)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

やや専門的な内容の日本語資料を正確に理解し、さらに、それを周囲に伝達できる能力を育成するための授業である。教員の指示を待つだけでなく、自分から積極的に問題提起をし、議論を進めていく積極的な姿勢の学生を歓迎する。

関連するSDGs : 4「質の高い教育をみんなに」、7「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」

キーワード /Keywords

上級日本語、文レベルから段落レベルへ、情報発信、討論、ディクテーション、作文

技術日本語基礎

留学生特別科目
基盤・外国語教育科目読替
日本語教育科目

(Introduction to Technical Japanese)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築
/Department デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
JSL240F	△	◎		○	
科目名	技術日本語基礎		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

主に、環境工学と情報技術に関するテーマを扱った放送番組や新聞記事など、本工学部の全5学科に対応する内容の教材を扱いながら、理系の語彙増強と書き言葉の表現能力および聴解力の向上を目指す。また、著作物の引用や参考文献の書き方などを学び、専門科目のレポートや卒業論文の執筆の基礎能力を養成する。

< 主な目的 >

- (1) 理系語彙増強
- (2) 説明文の文構造、段落構造、文体、表現の特徴の把握
- (3) 複段落単位の説明文の記述
- (4) 説明文を要約し複段落で口頭説明
- (5) 理系語彙を含む聴解力増強
- (6) 著作物の引用方法と参考文献の書き方

到達目標

DP知識：日常生活では使用頻度が低いものでも、環境工学に関わる話題を扱うために必要な語彙や表現を理解することができる。

DP技術：環境工学に関わりのある日本語資料（視聴覚資料含む）を理解し、それに関連する短いレポートを執筆するための日本語を身につける。

DPコミュニケーション力：専門的な単語や表現にも抵抗感を感じることなく、環境工学に関する話題を理解し、レポートを通じて意見を述べるることができる。

教科書 /Textbooks

1. 『技術日本語への架け橋（改訂版）』, 水本光美・池田隆介, 北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室・日本語教育プログラム, 2011. ← 初回授業で配布する。
2. ホームページ「技術日本語基礎」のビデオ教材← 授業で説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

DVD 『HAYABUSA Back to the Earth』はやぶさ大型映像制作委員会(有限会社ライブ 2011年)。詳細は授業中に説明する。

技術日本語基礎

(Introduction to Technical Japanese)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Orientation / 「北九州エコタウン」 1
- 2 「北九州エコタウン」 2
- 3 レポートの文体1
- 4 アカデミック・ライティングの基礎1：段落構成
- 5 「北九州エコタウン」復習課題（レポートとスピーチ）
- 6 「全個体電池」
- 7 アカデミック・ライティングの基礎：引用 / 出典・参考文献の書き方
- 8 レポートの文体2
- 9 「全個体電池」復習課題（レポートとスピーチ）
- 10 「海洋汚染問題」
- 11 「海洋汚染問題」復習課題（レポートとスピーチ）
- 12 「都市鉱山」
- 13 「都市鉱山」復習課題
- 14 「技術と新しい社会」
- 15 「技術と新しい社会」復習課題

- ※ 予定は変更されることもあるので、授業中の連絡に注意すること。
- ※ 試験期間中に、期末試験を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業参加 20%
- 宿題 30%
- 小テスト 20%
- 期末試験 30%

- ※ 出席率80%未満は不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中の配布物やMoodleにより告知していく。

履修上の注意 /Remarks

授業で扱うビデオは、「留学生のホームページ」にアクセスして、必ず予習しておくことが必要である。

URL: <http://lang2.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/>

詳細は別途配布の「授業概要」を参照。

1. 留学生のうち、「総合日本語A」または「総合日本語B」に合格した学生対象の専門技術日本語入門コースである。それ以外の受講希望者に関しては日本語担当教員からの許可を得ること。
2. 学習支援システム (moodle)への登録必須。
3. 学術情報センターの講義室、あるいは、CAI室を利用する機会がある。利用のために必要な自分のIDとパスワードを確認しておくこと。
4. 教材としてYoutube動画を使用することもあるので、視聴可能な環境を確保しておくこと。

※遠隔授業（オンライン授業）となった場合は、授業計画、提出課題の一部を変更することもある。こちらもMoodleを通じた説明を確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが工学部で専門分野や環境問題に関する知識を得るために最低知っていただく必要のない理系の基礎的で、一般的な語彙やレポートや論文に必要な表現法を学びます。また、一般の成人向け科学番組を視聴し内容を理解することにより、アカデミック聴解力を養います。予習や宿題が重要な授業ですので、十分な準備をして、授業に臨んでください。

関連するSDGs：4「質の高い教育をみんなに」、7「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」、12「つくる責任、つかう責任」

キーワード /Keywords

環境工学, 情報技術, 科学番組, 理系語彙増強, 表現力, 書き言葉, 聴解能力向上

ビジネス日本語

(Business Japanese)

担当者名 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)
/Department

※お知らせ/Notice 第2学期のみの開講となりますので注意してください。

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
JSL330F		◎		○	○

科目名	ビジネス日本語
-----	---------

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

授業の概要 /Course Description

大学卒業後に日本国内の企業、あるいは母国の日系企業で活躍したいと希望している留学生のための上級日本語レベルの授業である。日本企業への就職を希望する留学生には、専門知識や技術のみならず高度な日本語コミュニケーション能力が求められている。この授業では主に就職活動に必要な日本語表現を、言語の4技能「聴く」「話す」「読む」「書く」などのトレーニングを通し、現場で即座に生かせる運用能力を育成する。

この授業の到達目標は次記の通り:

1. 知識: 就職活動を的確に行うための日本語の理解力、説明力、発信力を身につける。
2. コミュニケーション力: 就職活動中、及び、社会人となった後に求められる日本語コミュニケーション能力を身につける。
3. 自立的行動力: 日本語熟達度の向上を基盤に、就職活動中、あるいは、ビジネス場面で直面する課題を自ら解決していく姿勢を身につける。

教科書 /Textbooks

1. 成美堂出版編集部「23年版 こう動く!就職活動のオールガイド」
2. 映像教材: 「就職活動のすべて」日本経済新聞出版社, 2007.
3. その他、適宜授業中に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Web: 『留学生のためのページ』の「ビジネス日本語」← 授業で説明する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ①オリエンテーション ②就活に求められる日本語能力
- 2 己を知る: 自己分析, 自己評価, 就活プラン1 (企業が求める日本語能力・就職活動の流れ)
- 3 己を知る: 自己分析, 自己評価, 就活プラン2 (効果的な自己分析・キャリアプラン)
- 4 業界・企業を知る: 企業選びへの業界調査
- 5 情報収集, 問い合わせの日本語(敬語)& マナー1: 問い合わせ方法
- 6 情報収集, 問い合わせの日本語(敬語)& マナー2: 資料請求葉書とメール
- 7 就職筆記試験: Web, SPI, CAB/GAB & 一般常識
- 8 己を知る: 自己PR, 志望動機, 将来設計など
- 9 就活アクション: 履歴書&エントリーシート1 (エントリーシートの基本常識と書き方)
- 10 就活アクション: 履歴書&エントリーシート2 (履歴書, 三大質問などの書き方)
- 11 就活アクション: 履歴書&エントリーシート3 (送付状, 封筒の書き方)
- 12 就活アクション: 会社説明会・セミナー参加
- 13 就活アクション: 面接 1 (面接のマナーとよく聞かれる質問)
- 14 就活アクション: 面接 2 (回答のポイント・面接シミュレーション)
- 15 就活アクション: まとめ (面接シミュレーション: 圧迫質問, 想定外の質問)

※ この授業計画は状況に応じて随時変更する可能性もある。

ビジネス日本語

(Business Japanese)

成績評価の方法 /Assessment Method

1. 積極的授業参加 20%
2. 宿題 & 小テスト 50%
3. 期末試験 (会話試験 : 就活の面接形式) 30%

※出席率80%未満、および期末試験60%未満は、原則として不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習>

教科書の範囲を読み、分からない漢字や意味を調べて内容を理解するように予習する。

<事後学習>

授業内容に基づく課題 (書く宿題やビデオ視聴など) をする。

履修上の注意 /Remarks

1. 履修希望者は、「総合日本語A」「総合日本語B」「技術日本語基礎」のうち3単位以上を取得しておかなければならない。それ以外の受講希望者に関しては、受講申告前に授業担当教員に相談必要。
2. 学部で就活をする学生は、3年次の後期に履修するのが望ましい。大学院へ進学後就活する学生は3年次が4年次の後期の受講でも良い。
3. 受講生は、学習支援システム(Moodle)に登録する必要がある。
4. 授業前に教科書を予習し、授業後には課題をして期限までに提出する必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業後、日本企業への就職を考えている留学生の皆さん、就職活動をし社会人となるために、自分の日本語能力に自信がありますか。適切な敬語を使って話したり、書いたりすることに対する準備はできていますか。昨今の就職難の状況下では、就活時期(3年生の3月から開始)が始まってから就活準備を開始するのは遅すぎます。就活時期以前の出来るだけ早期(遅くとも3年生の冬休み前まで)に、しっかりと自己分析・企業研究を終え、かつ、適切な日本語での表現力を身につけておくことが肝要です。3年生の夏休みまでにインターンシップを経験しておくことも必要です。この授業では、日本の就職活動やビジネス場面における社会人としての活動について、様々な知識とともに必要とされる上級の日本語実践能力を育成します。一緒にがんばってみませんか。

キーワード /Keywords

高度なコミュニケーション能力, 就職活動, 敬語&マナー, 書類作成, エントリーシート作成, 面接, ビジネス場面

補習数学

担当者名 /Instructor 大貝 三郎,藤原 富美代,中山 嘉憲

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)

※お知らせ/Notice 基礎学力確認テストの結果により、受講対象者であるかを通知します。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格しない限り、「数学基礎(エネルギー循環化学科)」、「微分積分I(機械システム工学科)」、「解析学I(情報システム工学科)」、及び「微分・積分(建築デザイン学科・環境生命工学科)」の単位を修得できません。シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業の概要 /Course Description

- 微分と積分の基本的な考え方について理解し、簡単な微積分の計算や応用問題に活用できるようにする。
- 数学に関する基礎的な問題について、自分で問題を理解し、解析し、思考発展させる能力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学研教育出版：よくわかる数学III問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 数と式
- 2 方程式
- 3 いろいろな関数とグラフ (1)
- 4 いろいろな関数とグラフ (2)
- 5 いろいろな関数とグラフ (3)
- 6 微分 (1)
- 7 微分 (2)
- 8 微分 (3)
- 9 指数関数と対数関数 (1)
- 10 指数関数と対数関数 (2)
- 11 指数関数と対数関数 (3)
- 12 三角関数 (1)
- 13 三角関数 (2)
- 14 微分 (4)
- 15 微分 (5)
- 16 微分 (6)
- 17 微分 (7)
- 18 微分 (8)
- 19 微分 (9)
- 20 積分 (1)
- 21 積分 (2)
- 22 積分 (3)
- 23 積分 (4)
- 24 積分 (5)
- 25 積分 (6)
- 26 積分 (7)
- 27 積分 (8)
- 28 積分 (9)・ 期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 20%
 中間・ 期末試験 80% 中間試験は各分野の授業の終了後に実施する。

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

高等学校「数学I」、「数学II」、「数学III」の教科書などを復習しておくこと。また、授業中や授業計画などで指定されている範囲の予習を行うこと。さらに授業内容の復習は必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

クラス別により授業内容を変更する予定である。詳細については開講時に連絡する。

補習数学

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数学の勉強では積み重ねが重要です。高校で学んだ数学についてよく復習して、大学の数学科目および専門科目での学修で必要となる数学的な思考法と計算力を身につけてください。

キーワード /Keywords

補習化学

担当者名 /Instructor 溝部 秀樹

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 (19 ~) , 環境生命工学科 (19 ~)

※お知らせ/Notice 基礎学力確認テストの結果により、受講対象者であるかを通知します。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格しない限り、「基礎有機化学(エネルギー循環化学科)」、「環境生命入門実習(環境生命工学科)」の単位を修得できません。シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。

授業の概要 /Course Description

- ・ 大学で化学を学ぶために必要な基礎学力を向上させる。
- ・ 高校「化学基礎」「化学」の理論化学分野の基礎の確認と学力の向上を行う。

【到達目標】

- ・ 問題が与えられた際に「自分で参考資料を見つけ、それを参考にすれば問題を解くことができる」という基本的な学習の取り組み方を身につける。

教科書 /Textbooks

プリント配布、
各自の高校「化学基礎」・「化学」の教科書及び問題集

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 単位換算、物質の量・濃度
2. 化学結合、結晶
3. 化学反応と量的関係
4. 酸と塩基①
5. 酸と塩基②、電離平衡
6. 酸化と還元①
7. 酸化と還元②、中間試験
8. 電池・電気分解
9. 化学反応と熱
10. 気体の法則①
11. 気体の法則②、溶液の性質①
12. 溶液の性質②
13. 反応の速さと化学平衡
14. 溶液の性質③、期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験 80%
演習 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

苦手な領域は、十分に復習すること。
高校の教科書・問題集を用いて、毎時間の授業の予習と、演習をした内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

電卓と高校化学の教科書(「化学基礎」・「化学」)を持参のこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「習ったのに忘れてしまった」「聞いたことはあるが、よくわかっていない」「そこはあまり習っていない」など、個人によって基礎の理解度が違うと思います。高校で習う「化学」のポイントをもう一度復習し、基礎学力を向上させることによって、大学で習う「化学」の中身を深めて下さい。

キーワード /Keywords

補習英語

担当者名 外部講師 (○木山 直毅)
/Instructor

履修年次 1年次 単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科 (19~), 機械システム工学科 (19~), 情報システム工学科 (19~), 建築デザイン学科 (19~), 環境生命工学科 (19~)
/Department

※お知らせ/Notice 1年次7月末時点でTOEICスコアが470点に満たない場合は受講対象者となります。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格しない限り、「実践英語」(英語・必修科目)の単位を修得することはできません。

授業の概要 /Course Description

本講座では、より多くの実践問題に取り組み、TOEIC470点をクリアするために求められる英語力向上を目指します。基礎文法および基礎語彙習得のプロセスを速めるとともに、英語コミュニケーション力の土台作りを行います。

教科書 /Textbooks

別途掲示等で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示・紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画・内容は第1回目の授業で連絡をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

1. 小テストまたはe-learning 70%
2. 授業参加度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

開講日・配属クラス・指示等は9月下旬に掲示にて発表する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

補習とはいえ、貴重な学習機会です。学習に対する責任と目的意識を持って参加してください。

キーワード /Keywords